

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

| 大項目 1<br>教育内容及び教育の成果等 | 小項目  | 主な取組 | 自己評価 |  |
|-----------------------|--|------|------|--|
|                       |  |      | 年度   | 期間   |
|                       |  |      | 1-01 | TA等の充実、法曹コース運営、アクティブ・ラーニング推進、デジタル技術の活用、全学共通教育プログラム |
| 1-02                  | 新英語教育プログラム開発、英語教育の改善   | B    |      |  |
| 1-03                  | 現場体験型インターンシップの質の向上、社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育の提供、データサイエンス・AI等の新たな副専攻プログラムの設計 | S    |      |  |
| 1-04                  | グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施、2大学1高専の連携                              | B    |      |  |
| 1-05                  | ルーブリック評価の導入(令和元年度に達成済)   | -    |      |  |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目1】年度評価

評価素案

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 現場体験型インターンシップでは、コロナでの経験を活かした工夫によってきめ細かく学生に対応し、中断者の比率を例年に比べ大幅に減少させることができた。<br>・ Society5.0に対応した人材育成プログラムとして、数理・データサイエンス副専攻コースを開講し、想定を大幅に超える86人の新規登録者を得た。文系、理系両者から履修者を得ており、社会や学生のニーズにあった教育が実施されている。<br>◇更なる充実が期待される点<br>・ TA従事者に対するアンケート結果等を検証し、TA初任者研修等に質問相談対応に関する内容を盛り込むなど、TA制度の充実を図った。KPIに掲げたTA等の人数「年間延べ1,000人以上配置」が未達成であるため、今後のより一層の取組を期待する。 |

参考意見(案)

|  |
|--|
|  |
|--|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 2  | ◎ 現場体験型インターンシップはコロナでの経験を活かした工夫によってきめ細かく学生対応し、中断者の減少を達成できている。   |
| 3  | ◎ 1年次の外部英語試験受験率【96%以上】の目標は、実績は【96%以上(97%)】で目標達成。<br>◇ TA等【年間延べ1,000人以上配置】の目標に対し、実績は911人とどまった。  |
| 2  | ◎ 現場体験型インターンシップではきめ細やかな対応により、中断者の比率が例年に比べて低下している。<br>◇ 数理・データサイエンス副専攻コースの新規登録者が想定以上の86名にも上った。卒業要件、修了要件単位に含まれないにもかかわらず、多くの登録者を確保できたことを評価したい。無事にコースを修了するまで、学生の履修状況の確認や継続的支援が重要である。   |
| 2  | ◎ Society5.0に対応した人材育成プログラムとして、文理を問わない数理・データサイエンス副専攻コースを令和4(2022)年4月より運営開始し、想定を大幅に超える86人の新規登録者を得た点が評価できる。文系、理系両者から履修者を得ており、社会や学生のニーズにあった教育が実施されている。   |
| 3  |  |
| 3  | ◎ TAアンケート結果等を検証し、TA初任者研修及びTAスキルアップセッションからTA制度の充実を図った。<br>◎ 法曹養成プログラムガイダンス、法曹養成プログラムオフィスアワー、個別面談を実施することにより、法曹養成プログラム確実に新入生に認知されており、法曹養成プログラムへの所属を第一希望とする学生数は着実に増加している。<br>◎ 教育改革推進事業として累計で96件の事業を採択し、多様な手段・方法によるアクティブ・ラーニングが推進された。<br>◎ 文理の枠を超えて主体的に履修する全学共通教育プログラムを計画通りに導入した。<br>◎ 経団連インターンシップを介して多様な教育プログラムや学修機会を提供することができた。<br>◎ 数理・データサイエンス副専攻コースの開講し、86人の新規登録者があった。<br>◇ KPIに掲げたTA等の人数「年間延べ1,000人以上配置」が達成されていない。 |
| 2  | ◎ 数理・データサイエンス副専攻コースの開講は、今後のリーダー養成に必須のコースである。<br>◎ 2大学1高専のGCPの目的の達成は内部での連携協働の強化につながりネットワーク化にも広がる。   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目1】 期間評価   |  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
|---|--|------|-----|---|---|----|------------|---|---|---|---|---|---|---|--|---|--|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 教育研究組織の再編成、大学院分野横断プログラムの開設、文理教養プログラムの開講準備等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。<br/><br/>                     ▲改善すべき点<br/>                     ・ 認証評価において、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていないとの指摘を受けている。自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定   | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教育研究組織の再編成、大学院分野横断プログラムの開設、文理教養プログラムの開講準備等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。<br><br>▲改善すべき点<br>・ 認証評価において、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていないとの指摘を受けている。自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 複数学部の再編や文理教養プログラムの準備など教育改革を推進している。また英語力の向上への各種取り組みも着実に前進している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 6年間を通してみると、TA 等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 大学院課程では分野横断プログラムを開設し、学士課程では文理の枠を超えた教養プログラムを全学共通教育に導入し、幅広い教育の充実に向けて精力的に取り組んでいる。<br/>▲ 認証評価結果によれば、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていない点は問題である。すでに対応は進んでいるとのことで、自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 平成 30(2018)年度の教育研究組織の再編成、令和5(2023)年度からの文理教養プログラムの開講準備を行うなど、中期目標に掲げている「豊かな教養・高度な専門性と社会への適応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成」に対応する取組が推進された点が評価できる。<br/>◇ TA 等の配置について、TA 予算の追加などにより 1000 人弱の人数を配置できているものの、1000 人を超えた年度は令和2年度のみであった。目標の 1000 人以上の配置を目指し、アクティブ・ラーニングの更なる推進が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 異分野の知を融合し、新たな知恵や新たな価値を生み出す能力を育成することを目的として、学部・大学院ともに教育研究組織の再編成を行い、教育内容の見直しに取り組んだ。<br/>◎ 法曹養成プログラムを開設し、法科大学院と連携した教育を着実に実践した。<br/>◎ 健康福祉学部において、コロナ禍における実習機会の不足に対する対応及び学生の保健医療知識の更なる拡充のため、デジタル技術 (AR/VR)を活用した効果的な教育手法の開発を目的とし、試作コンテンツを作成した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 文理の枠を超えた分野横断のプログラムの組み立てと実施は、日本を牽引するプログラムとして継続してほしい。<br/>◎ 全学共通の成績評価基準の推進は都立大学の一定の水準を維持することになり、卒業後にも一つの指標となりえる。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ 複数学部の再編や文理教養プログラムの準備など教育改革を推進している。また英語力の向上への各種取り組みも着実に前進している。 | 2 | ◎ 6年間を通してみると、TA 等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。 | 2 | ◎ 大学院課程では分野横断プログラムを開設し、学士課程では文理の枠を超えた教養プログラムを全学共通教育に導入し、幅広い教育の充実に向けて精力的に取り組んでいる。<br>▲ 認証評価結果によれば、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていない点は問題である。すでに対応は進んでいるとのことで、自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。 | 2 | ◎ 平成 30(2018)年度の教育研究組織の再編成、令和5(2023)年度からの文理教養プログラムの開講準備を行うなど、中期目標に掲げている「豊かな教養・高度な専門性と社会への適応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成」に対応する取組が推進された点が評価できる。<br>◇ TA 等の配置について、TA 予算の追加などにより 1000 人弱の人数を配置できているものの、1000 人を超えた年度は令和2年度のみであった。目標の 1000 人以上の配置を目指し、アクティブ・ラーニングの更なる推進が期待される。 | 2 |  | 2 | ◎ 異分野の知を融合し、新たな知恵や新たな価値を生み出す能力を育成することを目的として、学部・大学院ともに教育研究組織の再編成を行い、教育内容の見直しに取り組んだ。<br>◎ 法曹養成プログラムを開設し、法科大学院と連携した教育を着実に実践した。<br>◎ 健康福祉学部において、コロナ禍における実習機会の不足に対する対応及び学生の保健医療知識の更なる拡充のため、デジタル技術 (AR/VR)を活用した効果的な教育手法の開発を目的とし、試作コンテンツを作成した。 | 1 | ◎ 文理の枠を超えた分野横断のプログラムの組み立てと実施は、日本を牽引するプログラムとして継続してほしい。<br>◎ 全学共通の成績評価基準の推進は都立大学の一定の水準を維持することになり、卒業後にも一つの指標となりえる。 |
| 評定  | 評定説明   |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教育研究組織の再編成、大学院分野横断プログラムの開設、文理教養プログラムの開講準備等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。<br><br>▲改善すべき点<br>・ 認証評価において、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていないとの指摘を受けている。自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 評定  | 評定説明（コメント）   |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 複数学部の再編や文理教養プログラムの準備など教育改革を推進している。また英語力の向上への各種取り組みも着実に前進している。  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 6年間を通してみると、TA 等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 大学院課程では分野横断プログラムを開設し、学士課程では文理の枠を超えた教養プログラムを全学共通教育に導入し、幅広い教育の充実に向けて精力的に取り組んでいる。<br>▲ 認証評価結果によれば、多くの研究科で授業内容・方法、研究指導等の教育情報があらかじめ学生に十分に明示されていない点は問題である。すでに対応は進んでいるとのことで、自己点検・評価委員会における改善活動の進捗管理に期待したい。  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 平成 30(2018)年度の教育研究組織の再編成、令和5(2023)年度からの文理教養プログラムの開講準備を行うなど、中期目標に掲げている「豊かな教養・高度な専門性と社会への適応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成」に対応する取組が推進された点が評価できる。<br>◇ TA 等の配置について、TA 予算の追加などにより 1000 人弱の人数を配置できているものの、1000 人を超えた年度は令和2年度のみであった。目標の 1000 人以上の配置を目指し、アクティブ・ラーニングの更なる推進が期待される。 |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   |  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 異分野の知を融合し、新たな知恵や新たな価値を生み出す能力を育成することを目的として、学部・大学院ともに教育研究組織の再編成を行い、教育内容の見直しに取り組んだ。<br>◎ 法曹養成プログラムを開設し、法科大学院と連携した教育を着実に実践した。<br>◎ 健康福祉学部において、コロナ禍における実習機会の不足に対する対応及び学生の保健医療知識の更なる拡充のため、デジタル技術 (AR/VR)を活用した効果的な教育手法の開発を目的とし、試作コンテンツを作成した。                          |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| 1   | ◎ 文理の枠を超えた分野横断のプログラムの組み立てと実施は、日本を牽引するプログラムとして継続してほしい。<br>◎ 全学共通の成績評価基準の推進は都立大学の一定の水準を維持することになり、卒業後にも一つの指標となりえる。  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>  |  |      |     |   |   |    |            |   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |   |   |   |   |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

**大項目 2**  
教育の実施体制等  
【教育改革を推進する取組の強化】

| 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 1-06 | データ分析に基づく教育改善に向けた取組、大学教育の質に関する情報等の公表、博士後期課程の研究力強化とキャリアパス支援 | A    | S  |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目2】年度評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援学生数が、採択時の20人から、令和4年度は21人、令和5年度は30人へと拡大され、博士後期課程学生の研究力強化とキャリアパス支援の拡充を図った。<br>・博士後期課程の研究力を強化するため、日本学術振興会特別研究員申請の支援体制を強化し、学生5名が特別研究員に採用された。 |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 3  |  |
| 2  | ◎「次世代研究者挑戦的研究プログラムにおいて21人の博士後期課程学生に研究専念支援金及び研究奨励費を支給」でき、実績が評価できる。  |
| 2  | ◎次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援学生数の拡大が認められ、令和5年度には採択当時の1.5倍(30名)となった。   |
| 2  | ◎次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援学生数が、採択時の20人から、令和4(2022)年度は21人、令和5(2023)年度は30人へと人数が拡大され、博士後期課程の研究力強化とキャリアパス支援の拡充を図った点が評価できる。                                 |
| 3  |  |
| 2  | ◎新たな分析や過去の分析データとの比較等を行い、教学IRデータを更に充実させた。<br>◎日本学術振興会特別研究員申請支援を実施し、博士後期課程学生5人(45件中)が特別研究員に採用された。<br>◎次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援学生数を拡大し、前年比約50%増の支援がなされた。 |
| 2  | ◎アセスメントポリシーを作成した点は大変先駆的である。<br>◎博士後期課程5名が特別研究員に採用されたことは学問と職業のつながりとなる点、学生のモチベーション向上につながるという意味においても意義がある。  |

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目2】期間評価

| 評価素案    |  | 委員別評定等 |  |
|---------|--|--------|--|
| 評定      | 評定説明   | 評定     | 評定説明（コメント）   |
| (1)     | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度より教学IR推進室を設置するとともに、教学IRシステムの運用を開始し、全学的な教学マネジメント体制を整備した。各種データや分析結果は全学的な教育改善、教育改革のために活用されている。</li> <li>博士後期課程の活性化に向け、博士研究員・専門研究員制度の導入や、経済的支援、キャリア形成に係る科目の開講などの様々な取組を実施した。</li> </ul> | 1      | ◎ IR推進室の設置によって全学的な教学マネジメントが展開されるようになり教育改革が一気に進んだことは評価できる。また博士後期課程の定員未充足問題も様々な取組によって1.04へと大きく改善されたことも高く評価できる。   |
|         |  | 1      | ◎ 「平成29年度に教学IRシステムが稼働し、各委員会や部局等からの分析に対応し、教学IRデータの活用による教育改革が推進し、分析結果は全学的な取組にも活用」している点が高く評価できる。  |
|         |  | 1      | ◎ 2017年度より教学IR推進室が設置され、教学IRシステムのデータが充実してきた。学長の意思決定のみならず、各運営委員会及び部局の施策の検討等にも活用され、全学的な教育改善に役立てられている。<br>◎ 文部科学省の事業等への採択により、博士後期課程学生への経済的支援とキャリアパス支援の取組が一層拡充してきた。その結果、就職率が令和2年度の91.4%から令和4年度の97.1%に上昇した。  |
|         |  | 1      | ◎ 平成29(2017)年度より教学IR推進室を設置するとともに、教学IRシステムの運用を開始し、各委員会や部局等からの分析に対応するほか、教職員一人ひとりが教学に関するデータにアクセスして分析することが可能となるなど、全学的な教学マネジメント体制を整備した点が評価できる。各種データや分析結果は全学的な教育改善、教育改革のために活用されている。<br>◎ 博士研究員・専門研究員制度の導入、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的プログラム」の採択などにより、博士後期課程の経済的支援、キャリア形成支援を行った点が評価できる。定員充足率の改善にもつながっている。 |
|         |  | 1      | ◎ 博士後期課程支援取組みの強化   |
|         |  | 1      | ◎ 教学マネジメントの確立に向けて、教学IR推進室を設置し、策定されたアセスメント・ポリシーをもとに教学マネジメントサイクルが機能している。<br>◎ 博士研究員・専門研究員制度の運用や、キャリア形成に係る科目の開講などの取組により、博士後期課程の定員充足率が平成28(2016)年度の0.72から1.04に大きく改善した。   |
|         |  | 1      | ◎ 教学IRの活用と教学マネジメント体制整備を進めたことはエビデンスに基づく教育の実施につながるため重要である。   |
| 参考意見（案） |  |        |  |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

**大項目 3**  
**教育の実施体制等**  
**【学習支援環境の整備、教育の質の改善】**

| 小項目  | 主な取組                          | 自己評価 |    |
|------|-------------------------------|------|----|
|      |                               | 年度   | 期間 |
| 1-07 | キャンパス学修環境の整備・拡充、              | S    | B  |
| 1-08 | FD 関連セミナーの拡充                  | B    |    |
| 1-09 | 四半期授業及び科目ナンバリングの導入(令和2年度に達成済) | -    |    |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目3】 年度評価**

| 評価素案 |  | 委員別評定等 |   |
|------|--|--------|---|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (2)  | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において顕在化した回線逼迫を受けて、インターネット回線を高速回線へ切り替えるとともに、SINET 仮想専用線を利用することにより、法人全体のネットワークをセキュアに接続できる環境を整えた。</li> <li>コロナ禍においても、学生が学びを継続し、充実した学生生活を送ることができるよう、図書の郵送対応、eラーニングシステム kibaco の改修、Zoom Rooms 導入によるオンライン授業の実施体制整備、ラーニング・コモンズのリニューアルのほか、全学的な共通情報インフラとしての統合認証基盤の整備に着手するなど、様々な取組を行った。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FD関連セミナーの参加者数が前年度を大きく下回った。参加者数増加に向けた取組を期待する。</li> </ul> | 3      |   |
|      |  | 3      | ◎ インターネット回線の整備<br>◇ FD関連セミナーの開催数や参加者数が前年度を下回ってしまった。   |
|      |  | 2      | ◎ 学内からのインターネット接続の課題に対応して、回線速度の高速化やセキュリティが確保された接続環境の整備を行った。<br>◎ 全学 FD 委員会を通じて、各部局 FD の課題や要望等が共有されるとともに、部局独自の FD 関連セミナーが増加した。  |
|      |  | 2      | ◎ コロナ禍においても、学生が学びを継続し、充実した学生生活を送ることができるよう、図書の郵送対応、eラーニングシステム kibaco の改修、Zoom Rooms 導入によるオンライン授業の実施体制整備、ラーニング・コモンズのリニューアル、インターネット回線の高速回線への切り替えなど、様々な取組を行った点が評価できる。kibaco に取り込まれている全授業に対する資料、課題、テスト、成績簿等が利用された授業数の割合は、2020 年度の 57.3%から 2021 年度には 84.9%にまで比率が高まっており、授業における ICT の活用が進んでいる。                        |
|      |  | 3      | ◎ ネットワークを駆使した学習環境の整備  |
|      |  | 2      | ◎ eラーニングシステムについての大規模なアンケート調査に基づきラーニング・コモンズをリニューアルした。<br>◎ コロナ禍において顕在化した回線逼迫を受けて、インターネット回線を高速回線へ切り替えるとともに、SINET 仮想専用線を利用することにより、法人全体のネットワークをセキュアに接続できる環境を整えた。<br>◎ 学生参加型 FD として、学生と教職員が意見交換をする「学生懇談会」を実施し、学修者本位の教育を提供するため教育改善につながる意見を得る機会となった。<br>◇ 図表 I-08-2,3 によると、FD 関連のセミナーの開催数はほぼ同じにも関わらず参加教員数が大きく減少している。 |
| 2    | ◎ 統合認証基盤整備に着手した点<br>◇ IR の活用で多くの分析が可能となり、グローバル化にも一躍できる。  |        |   |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目3】 期間評価**

| 評価素案           |   | 委員別評定等 |  |
|----------------|---|--------|--|
| 評定             | 評定説明  | 評定     | 評定説明（コメント）   |
| <b>(3)</b>     | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍において、ICTを活用した学習環境の整備が進み、高速回線への切り替え、学生への Wi-Fi ルータやノートパソコンの貸出しが行われ、リモート型学習環境の整備が進んだ。全学的な共通情報インフラとして統合認証基盤の整備も始まった。</li> <li>・ ラーニング・コモンズをリニューアルし、利用者の利便性の向上を図る等、アクティブ・ラーニングを推進した。</li> </ul> | 3      |  |
|                |   | 3      |  |
|                |   | 3      | ◎ 郵送対応による図書貸出業務の継続や eラーニングシステムの改修、またインターネット接続環境の抜本的な見直し等により、コロナ禍での学生の学びの継続とオンライン学修支援環境の充実が図られた。  |
|                |   | 3      | ◎ コロナ禍において、ICTを活用した学習環境の整備が進み、高速回線への切り替え、学生への Wi-Fi ルータやノートパソコンの貸し出しが行われ、リモート型学習環境の整備が進んだ点が評価できる。全学的な共通情報インフラとして統合認証基盤整備も始まった。   |
|                |   | 3      | ◇ 卓越大学院プログラム実績拡充   |
|                |   | 2      | ◎ ラーニング・コモンズでの利用者の利便性の向上を図る等、アクティブ・ラーニングを推進した。<br>◎ 各部局での試行を経て、四半期授業の四半期制度を導入できる体制を整えた。<br>◎ 学生参加型 FD として、学生と教職員が意見交換をする「学生懇談会」を実施し、学修者本位の教育を提供するため教育改善につながる意見を得る機会となった。 |
| 2              | ◎ Learning コモンズの環境整備が図られたことは学生にとっては利便性の向上となり大学が学生の居場所となることから重要である。<br>◎ 科目ナンバリングの導入は IR の活用で更なるエビデンスを算出でき学生の状況、都立大のポリシーに沿った学生の育成につながる。  |        |  |
| <b>参考意見（案）</b> |   |        |  |
|                |   |        |  |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

| 大項目 4<br>学生への支援 | 小項目  | 主な取組 | 自己評価 |  |
|-----------------|--|------|------|--|
|                 |  |      | 年度   | 期間   |
|                 |  |      | 1-10 | ボランティアプログラムの提供、ボランティア文化維持・ボランティア活動の機会提供、ボランティア文化醸成と活動支援、ボランティアセンター卒業生のネットワーク構築と在学生への還元 |
| 1-11            | 課外活動支援制度による課外活動への支援、課外活動での危険性を共有・継承する仕組みづくりの支援及びリスク管理を学ぶ機会の提供、顧問就任のための環境整備 | B    |      |  |
| 1-12            | 学生への総合的な健康支援   | B    |      |  |
| 1-13            | 学生への経済支援、都立大独自の授業料減免   | B    |      |  |
| 1-14            | 支援を必要とする学生に対する支援、多様性を踏まえた構成員に対する支援策の検討及び実施、セクシュアル・マイノリティへの理解啓発の促進          | S    |      |  |
| 1-15            | OBOG ネットワーク拡大及び OBOG 参加行事の改善、既存のキャリア支援行事の改善、大学院生や外国人留学生へのキャリア支援強化          | A    |      |  |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 4] 年度評価

| 評価素案 |  | 委員別評定等 |   |
|------|--|--------|---|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (3)  | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある学生等への支援について、バリアフリーチェック講習会等の各種イベントの開催、オンライン授業の受講支援、大学院入試における障害のある学生の対応に関するガイドライン作成、手話辞書の作成など、多面的に充実した取組が行われた。</li> <li>OB・OG ネットワークの登録方法を工夫することで、登録者数を増加させるとともに、企業等の選考方法の多様化に応じて就職活動支援事業の早期化、改善等を図っている。</li> </ul> <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の受診率が低下していることから、今後の受診率向上に向けた取組の充実を求める。</li> </ul> | 3      |   |
|      |  | 3      |   |
|      |  | 2      | <p>◎ これまで各研究科の裁量で実施されてきた大学院入試に関して、大学として、障がいのある学生を対象とした統一的なガイドラインを作成し、受験および修学上の一定の配慮提供が可能となった。</p> <p>◎ OBOG ネットワークの登録方法変更によって登録者が増加するとともに、企業等の選考方法の多様化に応じて就職活動支援事業の早期化、改善等を図っている。</p> <p>◇ 障がいに対する理解促進や支援スキル向上に係る各種の取組が推進されているが、バリアフリーチェック講習会など、開催時期を工夫すれば参加者のさらなる増加が見込まれるのではないだろうか。</p> <p>▲ 健康診断については医師不足の影響による実施時期の変更等、やむをえない面はあるだろうが、特に南大沢、日野キャンパスでの受診率の向上に努めていただきたい。</p> |
|      |  | 2      | <p>◎ 障害のある学生等への支援について、バリアフリーチェック講習会等の各種イベントの開催、オンライン授業の受講支援、大学院入試における障害のある学生の対応に関するガイドライン作成、手話辞書の作成など、多面的に充実した取組が行われた点が評価できる。特に、コロナ禍の状況に応じた支援体制について、オンライン及びハイブリッドの全ての授業に対応した支援体制を確立している。</p> <p>◎ OBOG ネットワークについて、在学時の進路報告時に仮登録し、卒業・終了の次年度に本登録する方法に変更する工夫を行い、登録者数を大きく拡大できた点が評価できる。在学中からネットワークの周知を図った効果が得られている。</p> <p>◇ 健康診断の受診率が低下していることから、今後の受診率向上に向けた取組の充実が期待される。</p>      |
|      |  | 3      | <p>◎ OBOG 登録者数の増加(対前年50%増)</p> <p>▲ 課外活動の安全確保に向けた取組み強化(実効性を確認するための取組みを含む)</p> <p>▲ 健診率(前年の75%から60%に低下)</p>  |
|      |  | 3      | <p>◎ 課外活動での重大事故を受け、体育会の主将主務総会やリーダー育成研修会など(計6回)の機会に、継続的な注意喚起を行い、学生の危機管理や安全対策についての意識向上を図った。</p> <p>◎ 「高等教育の修学支援新制度」の授業料免除に加えて、都立大独自の授業料免除制度の活用により、手厚い経済支援を実施した。</p> <p>◎ OBOG ネットワークの登録方法を変更したことで登録者が増加した。</p> <p>◇ OBOG ネットワークへの登録者のさらなる増加が望まれる。</p> <p>▲ 健康診断受診率は前年度から低下し、KPI に掲げた 90%が達成されていない。</p>  |
| 2    | <p>◎ 東京 2020 時の学生ボランティア養成のステップは継続という点から望ましい。今後も他の都政課題に焦点をあてボランティア文化の醸成に努めてほしい。</p> <p>◎ OB・OG ネットワークの構築のために情報整理し学生の満足度向上に向けた取り組みを丁寧に行い成果を挙げた点。</p> <p>◇ 学生ニーズに沿った OB・OG ネットワークのためのプログラムの実施の拡充</p>  |        |   |

**参考意見(案)**

- 障がいに対する理解促進や支援スキル向上に係る各種の取組が推進されているが、バリアフリーチェック講習会など、開催時期を工夫することで参加者のさらなる増加が見込めるため、今後の取組に期待する。

【評定(期間評価)】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目4] 期間評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 実践的な活動と学修を連動させ、段階的にボランティアリーダーの育成を図る都立大独自のボランティアプログラムを提供するなど、ボランティア活動の支援が活発である   |
|     | ▲改善すべき点<br>・ 課外活動における安全管理については、第三期中期計画期間中に同一の課外活動団体で事故が繰り返されたことを踏まえ、再発防止策のためのPDCAサイクルの確立など、安全性確保に向けた取組の強化を図ることを求める。<br>・ 健康診断の受診率について、長期化するコロナ禍の影響を受けて医師の確保が困難となるなどの理由はあるものの、令和3年度の74.9%から令和4年度は60.4%まで低下したことから、今後の受診率向上や社会人学生の学外での受診状況の把握等の取組の充実を求める。 |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 3  |  |
| 3  |  |
| 3  | ◎ 実践的な活動と学修を連動させ、段階的にボランティアリーダーの育成を図る大学独自のボランティアプログラムを提供するなど、ボランティア活動の支援が活発である。  |
| 3  | ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、都立大独自のボランティアプログラムを企画・開催し、学生のボランティア意識の醸成や大学と地域との連携を推進した点が評価できる。ボランティアリーダーの育成に向けて、3段階のステップを設けて成長が出来るようにするなど、工夫が行われた。<br>◇ 健康診断の受診率について、長期化するコロナ禍の影響を受けて医師の確保が困難となるなどの理由はあるものの、令和3年度の74.9%から令和4年度は60.4%まで低下したことから、今後の受診率向上に向けた取組の充実が期待される。 |
| 3  | ▲ 課外活動の安全性確保に向けた取組み強化(再発防止策のPDCA確立)<br>▲ 健診受診率(目標90%に対して低下傾向)  |
| 3  | ◎ 提案公募方式の課外活動支援制度により支援がなされ、活動団体が全国的な大会で好成績を挙げる等、一定の効果があつた。<br>◎ 文部科学省の大規模委託事業である「高等教育の修学支援新制度」に都立大独自の減免制度が開始した。都立大独自の減免制度による支援を上乗せ支援適用し、経済的に困窮する学生を手厚く支援した。<br>▲ 健康診断受診率は一時的に改善したものの、KPIに掲げた90%が達成されていない(図表1-12(1)健康診断受診状況)。   |
| 2  | ◎ 東京2020で育成したステップを積んでボランティア経験ができる仕組みができたこと<br>◇ OB・OGネットワークの構築については全学で取り組む方法を検討し是非とも拡充をはかってほしいです。<br>◇ 1-07の仕組みを継続した地域社会貢献に取り入れてほしい  |



I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

**大項目 5**

入学者選抜

| 小項目  | 主な取組                                     | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 1-16 | 大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の安定的確保、インターネット出願の実施 | B    | B  |
| 1-17 | 大学入学者選抜改革等に対応した大学説明会の実施、志願者獲得のための情報提供    | A    |    |
| 1-18 | 高大連携事業の推進                                | B    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 5】 年度評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 大学説明会について、オンラインを活用した Web 大学説明会の開催に加えて、感染対策を十分に行った上で対面型での開催も行い、1万人を超える参加を得た点が評価できる。参加者アンケートにおいて高い満足度も得ている。 |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)  |
|----|---|
| 3  |   |
| 3  |   |
| 3  |   |
| 3  | ◎ 大学説明会について、オンラインを活用した Web 大学説明会の開催に加えて、感染対策を十分に行った上で対面型での開催も行い、1万人を超える参加を得た点が評価できる。参加者アンケートにおいて高い満足度も得ている。 |
| 3  |   |
| 3  | ◎ 研究室探検入試による初めての合格者を出した。  |
| 2  | ◎ 大学説明会に感染対策をしつつ、対面型を取り入れた点は評価できる。  |

【評定(期間評価)】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目5] 期間評価**

| 評価素案                  |  | 委員評定 |   |
|-----------------------|--|------|---|
| 評定                    | 評定説明   | 評定   | 評定説明(コメント)  |
| <b>(3)</b>            | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な選抜による募集人員の割合が令和3年度入試において目標の30%に達し、その後も入試区分による募集人員の見直しによって、より質の高い志願者を安定的に確保できている。</li> </ul> | 3    |   |
|                       |  | 3    |   |
|                       |  | 3    | ◎ 多様な選抜による募集人員の割合が令和3年度入試において目標の30%に達し、その後も入試区分による募集人員の見直しによって、より質の高い志願者を安定的に確保できている。<br>◇ 東京都教育委員会、都立高校との連携が強化され、先端研究フォーラムをはじめ高大連携事業への参加者も300名近い。さらなる拡充を期待したい。 |
|                       |  | 3    | ◎ AO入試等の多様な選抜・特別入試について、全募集人員占める割合は、令和3年度より目標の30%を超え、令和5年度も30.3%で30%以上を維持している。   |
|                       |  | 3    | ◎ 入学選抜の多様化(中期目標の30%強を達成)  |
|                       |  | 3    | ◎ 一般選抜以外の、多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加(全体の30.3%)し、KPIを達成した。  |
| 2                     | ◎ アドミッションセンターや教学IRを設置し、入学生選抜のポリシー、選抜方法の改変に活かしている点。いいものを取り入れようとする組織としての行動力がある。<br>◇ 認証評価機関からの評価事項(基準5-3)について、その要因等を慎重に分析し、新時代に相応しい改組の検討を図る。                 |      |   |
| <p><b>参考意見(案)</b></p> |  |      |   |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

**大項目 6**  
研究水準及び研究の成果等

| 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 1-19 | 高いレベルにある基礎研究力の維持・強化に向けた取組、学術情報基盤の整備・充実、学内研究費の効果的な配分・研究情報基盤の整備                      | B    | B  |
| 1-20 | 大都市課題解決に資する分野横断的・学際的な大型プロジェクトの発展に向けた取組、高度通信社会における課題解決型研究及び Society5.0 の実現に向けた研究の推進 | B    |    |
| 1-21 | 研究センターに対する積極的な支援による外部資金獲得、研究センターの質の向上に向けた取組  | A    |    |
| 1-22 | 国内外への効果的な研究広報活動の推進、プレミアム講座の継続開講・オンラインスペシャル講座の充実、高校生向け講座の充実                         | S    |    |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 6] 年度評価**

| 評価素案 |  | 委員評定 |  |
|------|--|------|--|
| 評定   | 評定説明   | 評定   | 評定説明(コメント)   |
| (2)  | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンユニバーシティの講座で最先端の研究やユニークな研究などの成果を発信し、一般受講者・高校生いずれも前年を上回る参加を得た。</li> <li>研究センター所属の教員に研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど、様々な支援を展開しており、センターの外部資金獲得額は、前年度に引き続き過去最高額を更新した。</li> </ul> <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被引用度トップ10%論文の比率(過去5年平均)や国際共著論文の割合が過去6年間で最低となった。学内研究費を効果的に配分するなど、研究力や国際的存在感の向上に資する取組を一層推進されたい。</li> </ul> | 2    | ◎ 外部資金獲得について、コロナ禍で減少していたものが回復しておりその努力が評価できる。   |
|      |  | 3    |  |
|      |  | 2    | ◎ 令和元年、2年に低迷していた研究センターの外部資金獲得額が増加し、平成26～28年度の平均獲得額比で184%に達した。<br>◎ EurekAlert!に研究成果を積極的に発表し、一部の論文は特に高い注目を集めている。  |
|      |  | 2    | ◎ 外部資金獲得額の向上により、平成26(2014)～28(2016)年度の平均獲得額比で150%以上に増加させる目標に対し、研究センターの外部資金獲得額は184%、研究センター等(リサーチコアを含む)の外部資金獲得額は215%に達している点が評価できる。提案公募情報を研究センター所属の教員に研究内容との親和性を加味した上で提供したり、外部資金の事業担当者との折衝、事業化計画の策定や市場調査支援等、様々な支援による効果と思われる。<br>◎ EurekAlert!において、平均2,674ページビューを記録するとともに、山添教授の論文が11,087ページビューを記録する等、研究成果の効果的な発信が推進されている点が評価できる。<br>◎ オープンユニバーシティにおける新たな講座の開講により、受講者の拡大を図ることが出来た点が評価できる。オンラインスペシャル講座は受講しやすさやテーマ性より多くの受講者を確保できている。新聞やラジオで紹介されるなど、PR効果も得ている。         |
|      |  | 2    | ◎ 外部資金獲得実績<br>◎ オープンユニバーシティの参加実績拡大<br>▲ 被引用度 TOP10 論文割合が過去最低(3.9%)<br>▲ 国際共著論文割合も低下(42%→35%)   |
|      |  | 3    | ◎ 論文被引用度の高い教員に研究力の向上につながると思われる施策・取組に関するヒアリングを実施するとともに都立大の研究力向上に資する研究費の効果的な配分のあり方について全学で議論し、都立大における研究力の強化策を検討した。<br>◎ 研究費配分検討プロジェクトチームにおいて、研究力の向上に資する学内研究費の効果的な配分のあり方について議論し、学内研究費の効果的な配分のあり方についての検討結果を取りまとめた。<br>◎ 外部資金獲得額の向上がなされ、平成26～28年度平均獲得額対比で研究センターの外部資金獲得額は184%、研究センター等(リサーチコアを含む)の外部資金獲得額は215%を達成した。<br>◎ オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信を行い、一般及び高校生から前年を上回る多くの参加があった。<br>▲ 令和5(2023)年4月1日時点における令和4(2022)年度のトップ10%論文割合は3.9%、過去5カ年平均は8.6%であり、KPIの達成には至らなかった。 |
| 2    | ◎ 社会ニーズを早期に取り入れ、都民生活向上に向けた高度通信社会実装のための研究を進めている。<br>◎ 研究センター13、リサーチコア3を設置し、質の向上を目指していることから、更なる飛躍が期待できる。<br>◇ 高校生向け講座の充実が図られており今後、受講高校生数の増加が望まれる。  |      |  |

参考意見

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目6] 期間評価   |   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
|---|---|------|------------|---|--|----|------------|---|---|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(2)<br/>(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し、都民生活の向上に資する都立大ならではの研究を推進した。<br/>                     ・研究センター所属の教員に、研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど様々な支援を展開しており、研究センターの外部資金獲得額は、平成 26～28 年度の平均獲得額比で、目標の 150%を大幅に上回る 205%を達成した。<br/>                     ◇更なる充実が期待される点<br/>                     ・被引用度トップ 10%論文の比率（過去5年平均）は近年減少傾向にあり、令和5年4月1日時点では、8.6%と目標を下回る状況になっている。効果的な研究支援の方法を検証し、研究力の強化を図る取組の推進を期待する。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定  | 評定説明 | (2)<br>(3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し、都民生活の向上に資する都立大ならではの研究を推進した。<br>・研究センター所属の教員に、研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど様々な支援を展開しており、研究センターの外部資金獲得額は、平成 26～28 年度の平均獲得額比で、目標の 150%を大幅に上回る 205%を達成した。<br>◇更なる充実が期待される点<br>・被引用度トップ 10%論文の比率（過去5年平均）は近年減少傾向にあり、令和5年4月1日時点では、8.6%と目標を下回る状況になっている。効果的な研究支援の方法を検証し、研究力の強化を図る取組の推進を期待する。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 論文被引用度の目標値はほぼ達成し、また外部資金獲得については目標値を上回る達成をされており評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>▲ 被引用度トップ 10%論文の割合の減少は日本全体の傾向ではあるが、都立大学でも深刻な状況となっている。原因の分析等はなされているが、効果的な研究支援の方法について検証していただきたい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 研究センターの外部資金獲得額を、平成 26(2014)～28(2016)年度の平均獲得額比で 150%以上に増加させる目標に対し、申請支援を行うことで、令和3(2021)年度は 164%、令和4(2022)年度は 184%となり、目標を達成している点が評価できる。<br/>◇ 被引用度の高いトップ 10%論文割合について、近年減少傾向にあることから、研究力の向上に資する研究費の効果的な配分に関する全学での議論、都立大における研究力強化策の検討が行われた。今後の取組の推進が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 外部資金獲得支援強化と成果(右肩上がりに増加)<br/>◎ オープンユニバーシティの着実な実績拡充<br/>◇ TOP10 論文、国際共著論文拡充への取組み</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 世界最大規模の科学ニュース配信プラットフォーム EurekAlert!における研究成果の発信を開始し、計 93 本の研究成果を世界に向けて発信することができた。<br/>◎ 電子ジャーナル・データベース等については、全学的に財源を確保する方法を提案し学術情報の利用環境を堅持した。<br/>◎ 南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し 8 件の研究を重点的に支援し、Society5.0 実現の基幹インフラを通じた都民生活の向上に資する都立大ならではの研究の活性化を図ることができた。<br/>▲ トップ 10%論文の割合の過去 5 年平均は、令和 4(2022)年 4 月 1 日時点までは 10%前後を維持してきたが、令和 5(2023)年 4 月 1 日時点では 8.6%と低下している。論文の引用は研究動向のトレンドに左右されるので、必ずしも研究の質評価には適さないのではないか。引用数による評価を続けるのであれば、研究動向に合わせた研究分野の再編を常に行わなければならない、基礎研究の強化につながるとは言い難い。研究力の評価に関する新たな指標の導入を考えるべきではないか。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 世界をリードする研究者として高い目標を持ち、コロナ禍であっても論文作成に邁進している様子が伺える。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 1 | ◎ 論文被引用度の目標値はほぼ達成し、また外部資金獲得については目標値を上回る達成をされており評価できる。 | 3 |  | 3 | ▲ 被引用度トップ 10%論文の割合の減少は日本全体の傾向ではあるが、都立大学でも深刻な状況となっている。原因の分析等はなされているが、効果的な研究支援の方法について検証していただきたい。 | 3 | ◎ 研究センターの外部資金獲得額を、平成 26(2014)～28(2016)年度の平均獲得額比で 150%以上に増加させる目標に対し、申請支援を行うことで、令和3(2021)年度は 164%、令和4(2022)年度は 184%となり、目標を達成している点が評価できる。<br>◇ 被引用度の高いトップ 10%論文割合について、近年減少傾向にあることから、研究力の向上に資する研究費の効果的な配分に関する全学での議論、都立大における研究力強化策の検討が行われた。今後の取組の推進が期待される。 | 2 | ◎ 外部資金獲得支援強化と成果(右肩上がりに増加)<br>◎ オープンユニバーシティの着実な実績拡充<br>◇ TOP10 論文、国際共著論文拡充への取組み | 2 | ◎ 世界最大規模の科学ニュース配信プラットフォーム EurekAlert!における研究成果の発信を開始し、計 93 本の研究成果を世界に向けて発信することができた。<br>◎ 電子ジャーナル・データベース等については、全学的に財源を確保する方法を提案し学術情報の利用環境を堅持した。<br>◎ 南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し 8 件の研究を重点的に支援し、Society5.0 実現の基幹インフラを通じた都民生活の向上に資する都立大ならではの研究の活性化を図ることができた。<br>▲ トップ 10%論文の割合の過去 5 年平均は、令和 4(2022)年 4 月 1 日時点までは 10%前後を維持してきたが、令和 5(2023)年 4 月 1 日時点では 8.6%と低下している。論文の引用は研究動向のトレンドに左右されるので、必ずしも研究の質評価には適さないのではないか。引用数による評価を続けるのであれば、研究動向に合わせた研究分野の再編を常に行わなければならない、基礎研究の強化につながるとは言い難い。研究力の評価に関する新たな指標の導入を考えるべきではないか。 | 2 | ◎ 世界をリードする研究者として高い目標を持ち、コロナ禍であっても論文作成に邁進している様子が伺える。 |
| 評定  | 評定説明  |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| (2)<br>(3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し、都民生活の向上に資する都立大ならではの研究を推進した。<br>・研究センター所属の教員に、研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど様々な支援を展開しており、研究センターの外部資金獲得額は、平成 26～28 年度の平均獲得額比で、目標の 150%を大幅に上回る 205%を達成した。<br>◇更なる充実が期待される点<br>・被引用度トップ 10%論文の比率（過去5年平均）は近年減少傾向にあり、令和5年4月1日時点では、8.6%と目標を下回る状況になっている。効果的な研究支援の方法を検証し、研究力の強化を図る取組の推進を期待する。   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 評定  | 評定説明（コメント）  |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 1   | ◎ 論文被引用度の目標値はほぼ達成し、また外部資金獲得については目標値を上回る達成をされており評価できる。   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3   |   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3   | ▲ 被引用度トップ 10%論文の割合の減少は日本全体の傾向ではあるが、都立大学でも深刻な状況となっている。原因の分析等はなされているが、効果的な研究支援の方法について検証していただきたい。  |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 研究センターの外部資金獲得額を、平成 26(2014)～28(2016)年度の平均獲得額比で 150%以上に増加させる目標に対し、申請支援を行うことで、令和3(2021)年度は 164%、令和4(2022)年度は 184%となり、目標を達成している点が評価できる。<br>◇ 被引用度の高いトップ 10%論文割合について、近年減少傾向にあることから、研究力の向上に資する研究費の効果的な配分に関する全学での議論、都立大における研究力強化策の検討が行われた。今後の取組の推進が期待される。   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 外部資金獲得支援強化と成果(右肩上がりに増加)<br>◎ オープンユニバーシティの着実な実績拡充<br>◇ TOP10 論文、国際共著論文拡充への取組み  |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 世界最大規模の科学ニュース配信プラットフォーム EurekAlert!における研究成果の発信を開始し、計 93 本の研究成果を世界に向けて発信することができた。<br>◎ 電子ジャーナル・データベース等については、全学的に財源を確保する方法を提案し学術情報の利用環境を堅持した。<br>◎ 南大沢キャンパスと日野キャンパスに整備した国内最大級となるローカル 5G ネットワークを活用し 8 件の研究を重点的に支援し、Society5.0 実現の基幹インフラを通じた都民生活の向上に資する都立大ならではの研究の活性化を図ることができた。<br>▲ トップ 10%論文の割合の過去 5 年平均は、令和 4(2022)年 4 月 1 日時点までは 10%前後を維持してきたが、令和 5(2023)年 4 月 1 日時点では 8.6%と低下している。論文の引用は研究動向のトレンドに左右されるので、必ずしも研究の質評価には適さないのではないか。引用数による評価を続けるのであれば、研究動向に合わせた研究分野の再編を常に行わなければならない、基礎研究の強化につながるとは言い難い。研究力の評価に関する新たな指標の導入を考えるべきではないか。 |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 世界をリードする研究者として高い目標を持ち、コロナ禍であっても論文作成に邁進している様子が伺える。   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>論文の引用は研究動向のトレンドに左右されるので、被引用度を高めるには、研究動向に合わせた研究分野の再編を常に行わなければならない、基礎研究の強化につながるとは言い難い。研究力の評価に関する新たな指標の導入を考えるべきではないか。</li> </ul>  |   |      |            |   |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

**大項目 7**  
研究実施体制等

| 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 1-23 | 総合研究推進機構における組織的かつ戦略的な研究支援事業の実施   | B    | B  |
| 1-24 | 研究センターの質の向上に向けた取組、プロジェクトマネジメントスキル向上に向けた取組、将来を担う若手研究者の支援・育成の推進            | B    |    |
| 1-25 | 海外の有力な研究者等との連携強化に向けた取組、トップ研究者を招へいするための仕組みや研究環境等の整備                       | B    |    |
| 1-26 | 若手研究者の海外派遣による研究力強化   | B    |    |
| 1-27 | 国際カンファレンス等での研究情報の発信・収集   | B    |    |
| 1-28 | 科研費新規採択率 30%達成に向けた取組、競争的資金獲得に向けた取組                                       | A    |    |
| 1-29 | 共用機器の拡充・機器共用センター開設及び運用方法の整備、スマートラボ化実証実験、ローカル5G 環境の有効活用                   | A    |    |
| 1-30 | 研究センター所属の外国人研究者比率向上、女性教員が働きやすい職場環境の整備、ライフ・ワーク・バランス実現のための研究支援制度、構成員の子育て支援 | B    |    |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 7] 年度評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費獲得増加に向けて、研究計画調書の組織的な作成支援、学長裁量研究費による上位種目へのチャレンジ支援などを実施しており、新規採択率及び採択金額が過去最高を記録した。</li> <li>・ 国の大型研究プロジェクト獲得について、6年間の中期目標期間中に 12 件の目標に対し、令和4年度の採択数は4件に達した。</li> <li>・ キャンパス間で研究機器をリモートで共用することを可能とするスマートラボ化の実証実験に取り組むとともに、日野キャンパスの研究機器共用センター開設に伴う共用機器の大幅な増設に向けた準備を進めた。</li> <li>・ 都立大のローカル5G環境を民間企業等に無償提供する「実証フィールド提供事業」を7件実施し、5Gの新たなユースケースやサービスの社会実装の促進に向けた取組を推進している。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時保育施設について、構成員のニーズを調査し、利用対象者を学内で開催する学会に参加する学外者にも拡大するなど、利用者数の確保や利用満足度の向上に取り組んでいる。今後、こうした取組により更に利用しやすくなることを期待する。</li> </ul> |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)  |
|----|---|
| 3  |   |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費新規採択率(挑戦的研究(萌芽・開拓)を除く)は、目標 30%に対し【39.9%】であった。</li> <li>◎ 国の大型プロジェクト獲得について中期目標12件に対し単年度で【4件】獲得した点は評価したい。</li> </ul>  |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 令和4年度の科研費新規採択率(挑戦的研究(開拓・萌芽)を除く)は 39.9%に上り、国の大型研究プロジェクト採択数は 4 件に達した。</li> <li>◎ 日野キャンパスの研究機器共用センター開設に伴って、共用機器が大幅に増設できることとなった。</li> </ul>  |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費の新規採択率向上を目指し、全ての研究種目に対して研究計画調書の組織的な作成支援、オンライン形式による科研費に関するセミナーや説明会の開催、学長裁量枠等による科研費チャレンジ支援などにより、新規採択率が 39.9%まで高まっている点が評価できる。</li> <li>◎ ローカル5G環境について、「実証フィールド提供事業」「5G事業活用型開発等足跡事業」の「街中実装パートナー」として、すでに7件の実証フィールドの提供を行い、取組が推進されている点が評価できる。</li> <li>◎ 一時保育施設について、学内ニーズを把握し、利用対象者を学内で開催する学会に参加する学外者にも拡大する等に対応を行い、利用者数の確保とともに、学内外のニーズに対応した点が評価できる。利用満足度の向上を得られている。</li> </ul>   |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費獲得増加に向けて、傾斜的研究費学長裁量枠等による科研費チャレンジ支援(基盤研究(A))及び同(基盤研究(B))の公募を行い、それぞれ 3 名、12 名を支援した。</li> <li>◎ 科研費の新規採択率(挑戦的研究(開拓・萌芽)を除く)は 39.9%となり、令和元(2019)年度以降、引き続き新規採択率 30%以上を維持した。</li> <li>◎ 国の大型研究プロジェクトを 4 件獲得することができた(図表 1-28-2、図表 1-28-3)。</li> <li>◎ 「東京都立大学研究設備・機器共用方針(案)」を策定し調整を行った。</li> <li>◎ スマートラボ化の実証実験として、TEMのリモート観察・制御技術を始めた研究機器のリモート利用及び操作に関する技術開発に取り組んだ。</li> <li>◎ 都立大のローカル 5G 環境を民間企業等に無償提供する「実証フィールド提供事業」を実施した。</li> <li>◇ 研究センター所属外国人研究者比率が 26.6%となったが、30%以上という KPI の達成には至らなかった。</li> </ul> |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ URAを活用した研究費獲得や若手研究者支援が推進されている点。</li> <li>◎ 外国人研究者が26.6%と昨年度から増加した点。</li> <li>◇ ライフワークバランスの実現の推進のために具体的な事例集配布などを行った点。</li> <li>◇ 学会や研究データ収集のための長期出張での一時保育施設の利用は大変有効。利用しやすくなることを期待します。</li> </ul>  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目7】 期間評価   |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
|---|--|--|----|------|-----|--|---|--------|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|--------------------------|---|--|---|--|
| <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価素案</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費獲得増加に向けて、研究計画調書の組織的な作成支援、学長裁量研究費による上位種目へのチャレンジ支援などを実施しており、令和元年度以降の科研費新規採択率は目標の30%を上回っている。</li> <li>・ URAの増員・スキルアップなど研究推進体制を強化するとともに、URAが主導して申請を行うことで、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」などに採択された。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究センターの外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進を期待する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案   |  | 評定 | 評定説明 | (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費獲得増加に向けて、研究計画調書の組織的な作成支援、学長裁量研究費による上位種目へのチャレンジ支援などを実施しており、令和元年度以降の科研費新規採択率は目標の30%を上回っている。</li> <li>・ URAの増員・スキルアップなど研究推進体制を強化するとともに、URAが主導して申請を行うことで、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」などに採択された。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究センターの外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進を期待する。</li> </ul> | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">委員別評定等</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 令和元年度以降の科研費新規採択率は目標値の30%を上回っている。</li> <li>◇ 外国人研究者の割合は令和4年度に増加し、目標値に近づいている。さらなる増加を期待したい。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費の新規採択率について、研究計画書の作成支援やヒアリング審査支援の改善を行ったことにより、令和元年度以降、目標の30%を上回っている点が評価できる。採択金額も拡大している。</li> <li>◇ 外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進が期待される。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 女性教員比率のさらなる向上(中期目標は達成)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ URAが主導して申請を行うことで、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」や国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された。</li> <li>◎ 研究機器共用センターを設置し、機器利用料等の研究機器共用の運用に関する規定・ルールを検討し、「東京都立大学研究設備・機器共用方針(案)」を策定した。</li> <li>◎ 女性教員比率は平成30(2018)年度以降、20%以上を維持し、KPI達成した。</li> <li>◇ 国の国際研究プロジェクト採択は49件、外国機関との共同・受託研究契約件数は20件となり、第二期中期計画期間の累計件数比190%となったが、200%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> <li>◇ 研究センター所属外国人研究者比率が徐々に増加し、令和4(2022)年度には26.6%となったが、30%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 分野横断的な研究プロジェクトを推進しており、新しい学問の創設につながりについては、科学技術の向上など社会の発展に大きく寄与できる。</li> <li>◎ URAの設置とその活用が進んでいる点。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 委員別評定等 |  | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 |  | 3 |  | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 令和元年度以降の科研費新規採択率は目標値の30%を上回っている。</li> <li>◇ 外国人研究者の割合は令和4年度に増加し、目標値に近づいている。さらなる増加を期待したい。</li> </ul> | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費の新規採択率について、研究計画書の作成支援やヒアリング審査支援の改善を行ったことにより、令和元年度以降、目標の30%を上回っている点が評価できる。採択金額も拡大している。</li> <li>◇ 外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進が期待される。</li> </ul> | 3 | ◇ 女性教員比率のさらなる向上(中期目標は達成) | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ URAが主導して申請を行うことで、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」や国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された。</li> <li>◎ 研究機器共用センターを設置し、機器利用料等の研究機器共用の運用に関する規定・ルールを検討し、「東京都立大学研究設備・機器共用方針(案)」を策定した。</li> <li>◎ 女性教員比率は平成30(2018)年度以降、20%以上を維持し、KPI達成した。</li> <li>◇ 国の国際研究プロジェクト採択は49件、外国機関との共同・受託研究契約件数は20件となり、第二期中期計画期間の累計件数比190%となったが、200%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> <li>◇ 研究センター所属外国人研究者比率が徐々に増加し、令和4(2022)年度には26.6%となったが、30%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> </ul> | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 分野横断的な研究プロジェクトを推進しており、新しい学問の創設につながりについては、科学技術の向上など社会の発展に大きく寄与できる。</li> <li>◎ URAの設置とその活用が進んでいる点。</li> </ul> |
| 評価素案  |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| (3)   | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費獲得増加に向けて、研究計画調書の組織的な作成支援、学長裁量研究費による上位種目へのチャレンジ支援などを実施しており、令和元年度以降の科研費新規採択率は目標の30%を上回っている。</li> <li>・ URAの増員・スキルアップなど研究推進体制を強化するとともに、URAが主導して申請を行うことで、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」などに採択された。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究センターの外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進を期待する。</li> </ul>   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 委員別評定等  |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明（コメント）   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 令和元年度以降の科研費新規採択率は目標値の30%を上回っている。</li> <li>◇ 外国人研究者の割合は令和4年度に増加し、目標値に近づいている。さらなる増加を期待したい。</li> </ul>   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 科研費の新規採択率について、研究計画書の作成支援やヒアリング審査支援の改善を行ったことにより、令和元年度以降、目標の30%を上回っている点が評価できる。採択金額も拡大している。</li> <li>◇ 外国人研究者比率について、年々比率は高まっており、令和4年度は26.6%となった。目標の30%に近づいていることから、引き続き、比率向上に向けた取組の推進が期待される。</li> </ul>   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   | ◇ 女性教員比率のさらなる向上(中期目標は達成)   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ URAが主導して申請を行うことで、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けたフェロウシップ創設事業」や国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された。</li> <li>◎ 研究機器共用センターを設置し、機器利用料等の研究機器共用の運用に関する規定・ルールを検討し、「東京都立大学研究設備・機器共用方針(案)」を策定した。</li> <li>◎ 女性教員比率は平成30(2018)年度以降、20%以上を維持し、KPI達成した。</li> <li>◇ 国の国際研究プロジェクト採択は49件、外国機関との共同・受託研究契約件数は20件となり、第二期中期計画期間の累計件数比190%となったが、200%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> <li>◇ 研究センター所属外国人研究者比率が徐々に増加し、令和4(2022)年度には26.6%となったが、30%以上というKPIの達成には至らなかった。</li> </ul> |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 分野横断的な研究プロジェクトを推進しており、新しい学問の創設につながりについては、科学技術の向上など社会の発展に大きく寄与できる。</li> <li>◎ URAの設置とその活用が進んでいる点。</li> </ul>   |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |
| <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>   |  |  |    |      |     |  |   |        |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                          |   |  |   |  |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

**大項目 8**

**都政との連携**

| 小項目  | 主な取組  | 自己評価 |    |
|------|---|------|----|
|      |   | 年度   | 期間 |
| 1-31 | 都連携事業の推進強化及び学際的大型プロジェクトの組成、TMU サステナブル研究推進機構、「高度研究」プロジェクトの支援強化                         | B    | B  |
| 1-32 | 障がい者スポーツ理解促進・裾野拡大、ボランティアプログラム提供、ボランティア文化維持・活動機会提供、ボランティア活動体験の共有・連携イベント、「障害者とスポーツ論」の取組 | B    |    |
| 1-33 | 都市政策・経営管理等研修の受託、大都市課題解決に係る文理融合型教育の実施による公共政策部門で活躍する人材の育成・輩出                            | B    |    |
| 1-34 | 「高度金融専門人材」の養成及び最先端研究の実施   | B    |    |
| 1-35 | 修了生・在学生と都立大とのネットワーク強化に向けた取組、国際共同研究支援による高度研究修了生との研究ネットワークの強化、帰国留学生短期研究支援制度の理解促進        | B    |    |
| 1-36 | 都関連研究機関との連携強化に向けた取組   | B    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 8] 年度評価**

| 評価素案       |  | 委員別評定等   |  |
|------------|--|----------|--|
| 評定         | 評定説明   | 評定       | 評定説明 (コメント)  |
| <b>(3)</b> | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の感染症対策に資する大型の学際的研究プログラムを開始するとともに、新たに4件の都との共同研究を立ち上げるなど、都連携事業の実績が向上している。</li> <li>コロナ禍による行動制限の緩和に伴い、対面による障害者スポーツの講習会等を再開するとともに、健康福祉学部の全学科の学生が「障害者とスポーツ論」を履修することを可能とするなど、障がい者スポーツへの理解促進に向けて取組の充実を図った。</li> <li>高度金融専門人材を養成するプログラムの修了生のうち4名が博士後期課程に進学し、さらに高度な専門人材の育成につながっている。また、金融工学に関する多数のセミナーやシンポジウム等を開催し、国内外の研究者との共同研究、交流を推進した。</li> </ul> | <b>3</b> |  |
|            |  | <b>3</b> |  |
|            |  | <b>3</b> |  |
|            |  | <b>3</b> | ◎ コロナ禍にあるが、行動制限の緩和に伴い、障がい者スポーツに関する講習会等を再開し多くの参加者を得るとともに、動画配信も行い、障がい者スポーツへの理解促進に向けて充実を図った点が評価できる  |
|            |  | <b>3</b> | ◎ 高度金融専門人材の養成について、令和4年度の修了生のうち4名が都立大大学院経営研究科博士後期課程に進学しており、さらに高度な専門人材育成につながっている点が評価できる。   |
|            |  | <b>3</b> | ◎ 大型学際プログラム(感染症対策)開始<br>◇ 東京都との共同研究(4件)の一層の拡大  |
| <b>3</b>   |  | <b>3</b> | ◎ 「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」や「将来の感染症対策に資する研究」など、都政課題の解決に貢献する学際的大型プロジェクト組成に取り組んだ。<br>◎ 高度な実践的課題を解決するためのファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供した。<br>◎ 障がい者スポーツの理解促進に向けた「障害者とスポーツ論」の履修を健康福祉学部全学科に拡大した。<br>◎ 丸の内サテライトキャンパス内に設置されている金融工学研究センターにおいて、東京ファイナンスフォーラムを計6回、研究セミナーを計9回、シンポジウムを1回、ワークショップを1回開催し、研究成果の発信や議論の場を設け、海外等をはじめとする研究者との共同研究、交流を推進した。 |
|            |  | <b>2</b> | ◎ 都と関連する研究の採択などの実績が向上している。(1-31.35.36)<br>◎ 文理融合型カリキュラムの実施と公共政策部門で活躍する人材の育成輩出をしたこと<br>◇ 学生からの政策提言をする機会を関連部局との協働で設けてはどうか。   |

**参考意見 (案)**

都の各局等と協働して、学生が都に政策提言をする機会を設けてはどうか。

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目8】 期間評価   |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
|---|---|------|-----|---|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---------------------------|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 東京都との連携事業の件数は令和元年度に大幅に増加し、その後高い値を維持している。また、島しょエリアの産業活性化や災害対策など都政のシンクタンクとして多くの研究に取り組んでいる。<br/><br/>                     ◇更なる充実が期待される点<br/>                     ・ 東京 2020 大会を契機として、学生が地域や自治体と連携して体験教室等に参画する機会の提供が行われている。今後もこうした取組を学生の育成機会としていくことを期待する。<br/><br/>                     ・ 金融分野の高度な実践的課題を解決するため、ファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供しており、今後、こうした都立の大学ならではの人材育成の更なる展開に期待する。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定  | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 東京都との連携事業の件数は令和元年度に大幅に増加し、その後高い値を維持している。また、島しょエリアの産業活性化や災害対策など都政のシンクタンクとして多くの研究に取り組んでいる。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 東京 2020 大会を契機として、学生が地域や自治体と連携して体験教室等に参画する機会の提供が行われている。今後もこうした取組を学生の育成機会としていくことを期待する。<br><br>・ 金融分野の高度な実践的課題を解決するため、ファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供しており、今後、こうした都立の大学ならではの人材育成の更なる展開に期待する。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 東京都との連携事業の件数は令和元年度には 171 件と大幅に増加し、その後高い値を維持している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 東京 2020 大会を契機に、学生が地域や自治体と連携して取り組む体験教室等の活動機会の提供が行われたこと評価できる。大会後もこれらの取組を継続し、学生の育成機会となることが期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 高度金融人材養成プログラム(ユニークさを期待)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」や「将来の感染症対策に資する研究」など、都政課題の解決に貢献する学際的大型プロジェクト組成に取り組んだ。<br/>◎ 高度な実践的課題を解決するためのファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 都政に関与する首都東京のシンクタンクとして多くの研究成果を挙げている。特に島しょエリアの研究や災害対策などは都としては重要であり不可欠なことである。<br/>◎ 障がい者スポーツに特化した活動や研究を進めている。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 東京都との連携事業の件数は令和元年度には 171 件と大幅に増加し、その後高い値を維持している。 | 3 | ◎ 東京 2020 大会を契機に、学生が地域や自治体と連携して取り組む体験教室等の活動機会の提供が行われたこと評価できる。大会後もこれらの取組を継続し、学生の育成機会となることが期待される。 | 3 | ◇ 高度金融人材養成プログラム(ユニークさを期待) | 3 | ◎ 「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」や「将来の感染症対策に資する研究」など、都政課題の解決に貢献する学際的大型プロジェクト組成に取り組んだ。<br>◎ 高度な実践的課題を解決するためのファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供した。 | 2 | ◎ 都政に関与する首都東京のシンクタンクとして多くの研究成果を挙げている。特に島しょエリアの研究や災害対策などは都としては重要であり不可欠なことである。<br>◎ 障がい者スポーツに特化した活動や研究を進めている。 |
| 評定  | 評定説明  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 東京都との連携事業の件数は令和元年度に大幅に増加し、その後高い値を維持している。また、島しょエリアの産業活性化や災害対策など都政のシンクタンクとして多くの研究に取り組んでいる。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 東京 2020 大会を契機として、学生が地域や自治体と連携して体験教室等に参画する機会の提供が行われている。今後もこうした取組を学生の育成機会としていくことを期待する。<br><br>・ 金融分野の高度な実践的課題を解決するため、ファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供しており、今後、こうした都立の大学ならではの人材育成の更なる展開に期待する。 |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 評定  | 評定説明（コメント）  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 東京都との連携事業の件数は令和元年度には 171 件と大幅に増加し、その後高い値を維持している。  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 東京 2020 大会を契機に、学生が地域や自治体と連携して取り組む体験教室等の活動機会の提供が行われたこと評価できる。大会後もこれらの取組を継続し、学生の育成機会となることが期待される。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   | ◇ 高度金融人材養成プログラム(ユニークさを期待)   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」や「将来の感染症対策に資する研究」など、都政課題の解決に貢献する学際的大型プロジェクト組成に取り組んだ。<br>◎ 高度な実践的課題を解決するためのファイナンス・金融工学に特化した教育プログラムを提供した。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 都政に関与する首都東京のシンクタンクとして多くの研究成果を挙げている。特に島しょエリアの研究や災害対策などは都としては重要であり不可欠なことである。<br>◎ 障がい者スポーツに特化した活動や研究を進めている。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>   |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                           |   |   |   |   |



I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 9

社会貢献等

| 小項目    | 主な取組  | 自己評価 |    |
|--------|---|------|----|
|        |   | 年度   | 期間 |
| 1-37   | 外部資金獲得促進のための施策の実施と組織体制の強化、技術移転活動の強化に向けた取組、大学発ベンチャー創出に向けた講座充実・他大学との連携による支援 | B    | A  |
| 1-38   | 他大学・研究機関等との連携強化、日野キャンパス新棟の産学公連携スペースの活用検討                                  | B    |    |
| 1-39   | 地域課題解決に向けた関係機関との連携強化  | B    |    |
| 1-40   | オープンコースウェアの充実、オープンユニバーシティにおける連携講座の実施・改善、ニーズを反映した講座提供                      | A    |    |
| 1-40-2 | 都立大プレミアム・カレッジの円滑な運営   | A    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目9】年度評価

評価素案

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・シニア向けの講演会や高校生向けの講座など様々な分野のオープンコースウェアの動画コンテンツの充実を図るとともに、高校や図書館への広報を開始するなど、都立大の学術成果をより幅広い都民に還元する取組を実施している。<br>・オープンユニバーシティにおいて、都や特別区協議会などとの連携講座の開講や、対面とオンラインそれぞれのニーズに応える講座の企画などにより、受講者数の拡大や新規会員の獲得、都立大のプレゼンス向上につながった。<br>・プレミアム・カレッジにおいて、令和5年度から本科の定員を増員したが、引き続き3倍を超える志願者があり、60名の合格者全員が入学手続を行った。 |

参考意見(案)

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>プレミアム・カレッジの専攻科の修了生を対象とする研究生コースの令和5年度の志願者数が急減している。原因究明と対応策の検討が望まれる。</li> <li>大学発ベンチャー支援において海外での活動に拡充してはどうか。</li> </ul> |
|--|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明(コメント)  |
|----|---|
| 2  | ◎生涯学習のためのオープンコースウェアが各種展開され、受講者も多く集めて発展していることは評価できる。   |
| 2  | ◎「東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて、令和5(2023)年度から本科の定員を50人から55人に増員した。」<br>◎「東京都立大学プレミアム・カレッジの令和5(2023)年度入学者の本科選考において、募集人員を超える志願者を獲得し、志願倍率3倍となった。」というように計画を上回った。  |
| 2  | ◎これまでの実績及び志願者のニーズに応じて、東京都立大学プレミアムカレッジの本科の定員を55名に増員したところ、60名の合格者全員が入学手続を行った。同カレッジが順調に発展してきていることがうかがえる。   |
| 2  | ◎東京都立大学オープンユニバーシティについて、特別区協議会、都、区市町村との連携により、講座内容や広報の充実を図り、受講者数の拡大や都立大のプレゼンス向上につながった点が評価できる。行動制限が緩和される中、オンライン講座、対面講座、それぞれのニーズを踏まえて開講することで、様々な受講者の受講機会の拡大を図っており、前年を上回る新規会員の確保にもつながっている点が評価できる。<br>◎プレミアムカレッジについて、最長4年間学んだ修了生を輩出するとともに、受講ニーズに対応するために、定員の増員を図るなどの対応を行った点が評価できる。志願者確保に向けて、対面でのイベント開催、効果の高い広告媒体の活用等の取組の工夫を行い、3倍を超える志願倍率を確保している。 |
| 2  | ◎プレミアムカレッジの定員増  |
| 2  | ◎都立大の学術成果をより広く都民に還元する取り組みとして、様々な分野のオープンコースウェアコンテンツの充実に取り組むとともに、近隣の高等学校や図書館への広報を開始した。<br>◎東京都立大学オープンユニバーシティにおいて、特別区協議会をはじめ、都、区市町村との連携講座を開講することにより、新規受講生の獲得や都立大のプレゼンス向上に繋がった。<br>◎定員を50名から55名に増員したプレミアム・カレッジ本科に定員を大きく上回る179名の志願者があった。<br>▲プレミアム・カレッジ開講以来、最長4年間学んだ研究生コース2年目の修了生を輩出したが、令和5年度の志願者数が急減している。原因究明と対応策の検討が望まれる。                    |
| 2  | ◎オープンユニバーシティにおいて「東京23区の・・・」のシリーズの開始が、体系的に都の在り方を考えられるため都民の関心を高められる。<br>◎生涯現役都市を目指して、高等学校や図書館に研究成果を発信しており、長期スパンで都に役だつことを実施している点が優れている。<br>◇大学発ベンチャー支援において海外での活動に拡充してはどうか。<br>◇地域課題解決に向けた各キャンパスの特長をふまえた金融、民間企業との連携強化と地域支援の取り組みの増加が期待される。   |

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目9] 期間評価  |  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
|--|--|------|-----|--|---|----|------------|---|---|---|--|---|---|---|--|---|--|---|--|---|--|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td> <p>◎<b>優れた点・特色ある点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>URAによる教員へのサポートや企業向けイベントにおける情報発信を行ったことなどにより、共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、目標を達成した。</li> <li>起業マインドの醸成を目的としたイベントの開講などによる機運の向上や、大学発ベンチャーの創出・育成に向けた方針の明確化等に取り組み、大学発ベンチャーは目標を上回る累計13社となった。</li> </ul> <p>◇<b>更なる充実が期待される点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決に向け、金融機関や民間企業との連携を強化するとともに地域ニーズを積極的に調査・発掘し、各キャンパスの特長を踏まえた地域支援の取組を拡充することを期待する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シニア層への生涯学習の場への学生の参画の拡充を検討いただきたい。</li> </ul> | 評定   | 評定説明 | (2) | <p>◎<b>優れた点・特色ある点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>URAによる教員へのサポートや企業向けイベントにおける情報発信を行ったことなどにより、共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、目標を達成した。</li> <li>起業マインドの醸成を目的としたイベントの開講などによる機運の向上や、大学発ベンチャーの創出・育成に向けた方針の明確化等に取り組み、大学発ベンチャーは目標を上回る累計13社となった。</li> </ul> <p>◇<b>更なる充実が期待される点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決に向け、金融機関や民間企業との連携を強化するとともに地域ニーズを積極的に調査・発掘し、各キャンパスの特長を踏まえた地域支援の取組を拡充することを期待する。</li> </ul> | <p><b>委員評定</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 様々な情報発信活動を行い、その成果によって外部資金の大幅な獲得を実現したことは評価に値する。また大学発ベンチャーにも取り組み一定の成果を得ている点やプレミアムカレッジ等の展開による生涯学習への貢献も評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて、令和5(2023)年度から本科の定員を50人から55人に増員した。」<br/>◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジの令和5(2023)年度入学者の本科選考において、募集人員を超える志願者を獲得し、志願倍率3倍となった。」というように計画を上回った。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 東京都立大学プレミアムカレッジは専攻科及び研究生コースを設置し、最長4年間学べる学修環境を整備し、カリキュラムを充実させて多様な学修ニーズに対応できるプログラムを提供している。志願者も安定的に確保している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 共同研究・受託研究による外部資金について、第二期中期計画期間の平均金額比120%以上、大学発ベンチャーを累計で10社の目標について、いずれも達成し、産学公の連携を推進した点が評価できる。<br/>◎ 幅広い分野のオープンコースウェアの公開、東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラム充実を図り、生涯を通じた学びの充実に貢献した点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ プレミアムカレッジの拡充と体制整備(定員増等)<br/>◇ 地域との連携強化拡大（地域ニーズの積極的な調査・発掘、提言を期待）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第三期中期計画期間内に、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、【120%以上】の獲得とするKPIを達成した。<br/>◎ 「大学発ベンチャーの創出・育成に向けた基本方針」の策定により今後の都立大におけるベンチャー支援のあり方を明確に示したことで、大学発ベンチャーは第三期中期計画期間中に累計13社となった。<br/>◎ 東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、都立大が有する教育研究資源を活用する多様なカリキュラムを提供したことで、多くのシニア世代の志願者があった。<br/>◇ プレミアム・カレッジの志願倍率、定着率等の定量的データを加えた上での自己評価が望ましい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 地域と連携しシニア層への生涯学習の場を整備し人生100年を学び続けられるような環境づくりをしたこと。<br/>◇ 上記の学びの場に学生の参画が可能でしょうか。可能であれば拡充をお願いしたいです。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 1 | ◎ 様々な情報発信活動を行い、その成果によって外部資金の大幅な獲得を実現したことは評価に値する。また大学発ベンチャーにも取り組み一定の成果を得ている点やプレミアムカレッジ等の展開による生涯学習への貢献も評価できる。 | 2 | ◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて、令和5(2023)年度から本科の定員を50人から55人に増員した。」<br>◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジの令和5(2023)年度入学者の本科選考において、募集人員を超える志願者を獲得し、志願倍率3倍となった。」というように計画を上回った。 | 2 | ◎ 東京都立大学プレミアムカレッジは専攻科及び研究生コースを設置し、最長4年間学べる学修環境を整備し、カリキュラムを充実させて多様な学修ニーズに対応できるプログラムを提供している。志願者も安定的に確保している。 | 2 | ◎ 共同研究・受託研究による外部資金について、第二期中期計画期間の平均金額比120%以上、大学発ベンチャーを累計で10社の目標について、いずれも達成し、産学公の連携を推進した点が評価できる。<br>◎ 幅広い分野のオープンコースウェアの公開、東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラム充実を図り、生涯を通じた学びの充実に貢献した点が評価できる。 | 2 | ◎ プレミアムカレッジの拡充と体制整備(定員増等)<br>◇ 地域との連携強化拡大（地域ニーズの積極的な調査・発掘、提言を期待） | 2 | ◎ 共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第三期中期計画期間内に、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、【120%以上】の獲得とするKPIを達成した。<br>◎ 「大学発ベンチャーの創出・育成に向けた基本方針」の策定により今後の都立大におけるベンチャー支援のあり方を明確に示したことで、大学発ベンチャーは第三期中期計画期間中に累計13社となった。<br>◎ 東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、都立大が有する教育研究資源を活用する多様なカリキュラムを提供したことで、多くのシニア世代の志願者があった。<br>◇ プレミアム・カレッジの志願倍率、定着率等の定量的データを加えた上での自己評価が望ましい。 | 2 | ◎ 地域と連携しシニア層への生涯学習の場を整備し人生100年を学び続けられるような環境づくりをしたこと。<br>◇ 上記の学びの場に学生の参画が可能でしょうか。可能であれば拡充をお願いしたいです。 |
| 評定   | 評定説明   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| (2)  | <p>◎<b>優れた点・特色ある点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>URAによる教員へのサポートや企業向けイベントにおける情報発信を行ったことなどにより、共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、目標を達成した。</li> <li>起業マインドの醸成を目的としたイベントの開講などによる機運の向上や、大学発ベンチャーの創出・育成に向けた方針の明確化等に取り組み、大学発ベンチャーは目標を上回る累計13社となった。</li> </ul> <p>◇<b>更なる充実が期待される点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題解決に向け、金融機関や民間企業との連携を強化するとともに地域ニーズを積極的に調査・発掘し、各キャンパスの特長を踏まえた地域支援の取組を拡充することを期待する。</li> </ul> |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 評定   | 評定説明（コメント）   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 1  | ◎ 様々な情報発信活動を行い、その成果によって外部資金の大幅な獲得を実現したことは評価に値する。また大学発ベンチャーにも取り組み一定の成果を得ている点やプレミアムカレッジ等の展開による生涯学習への貢献も評価できる。  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて、令和5(2023)年度から本科の定員を50人から55人に増員した。」<br>◎ 「東京都立大学プレミアム・カレッジの令和5(2023)年度入学者の本科選考において、募集人員を超える志願者を獲得し、志願倍率3倍となった。」というように計画を上回った。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 東京都立大学プレミアムカレッジは専攻科及び研究生コースを設置し、最長4年間学べる学修環境を整備し、カリキュラムを充実させて多様な学修ニーズに対応できるプログラムを提供している。志願者も安定的に確保している。  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 共同研究・受託研究による外部資金について、第二期中期計画期間の平均金額比120%以上、大学発ベンチャーを累計で10社の目標について、いずれも達成し、産学公の連携を推進した点が評価できる。<br>◎ 幅広い分野のオープンコースウェアの公開、東京都立大学プレミアム・カレッジのカリキュラム充実を図り、生涯を通じた学びの充実に貢献した点が評価できる。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ プレミアムカレッジの拡充と体制整備(定員増等)<br>◇ 地域との連携強化拡大（地域ニーズの積極的な調査・発掘、提言を期待）   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 共同研究・受託研究による外部資金の獲得が、第三期中期計画期間内に、第二期中期計画期間の平均金額比で概ね140%程度となり、【120%以上】の獲得とするKPIを達成した。<br>◎ 「大学発ベンチャーの創出・育成に向けた基本方針」の策定により今後の都立大におけるベンチャー支援のあり方を明確に示したことで、大学発ベンチャーは第三期中期計画期間中に累計13社となった。<br>◎ 東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、都立大が有する教育研究資源を活用する多様なカリキュラムを提供したことで、多くのシニア世代の志願者があった。<br>◇ プレミアム・カレッジの志願倍率、定着率等の定量的データを加えた上での自己評価が望ましい。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 地域と連携しシニア層への生涯学習の場を整備し人生100年を学び続けられるような環境づくりをしたこと。<br>◇ 上記の学びの場に学生の参画が可能でしょうか。可能であれば拡充をお願いしたいです。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |  |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

| 大項目 10                                    | 小項目  | 主な取組  | 自己評価 |    |
|---|------|---|------|----|
|   |      |   | 年度   | 期間 |
| グローバル化<br>【教育の国際通用性、学生の海外派遣の拡充及び外国人学生の受入】 | 1-41 | 四半期授業及び科目ナンバリングの導入(令和2年度に達成済)   | -    | B  |
|   | 1-42 | 国際社会で活躍できる人材の育成に資する取組等の検討   | B    |    |
|   | 1-43 | 国際副専攻コースの着実な運用・広報活動の積極展開、奨学金プログラムの運用、学生の留学意欲向上に向けた取組、世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる講義 | B    |    |
|   | 1-44 | 新英語教育プログラムの開発、英語教育の改善に向けた取組   | B    |    |
|   | 1-45 | 海外企業インターンシップの充実、「海外インターンシップ体験」の推進   | B    |    |
|   | 1-46 | 留学生受入拡大に向けた広報の充実、短期留学生への教育の充実、短期集中コース実施、日本語力が十分でない留学生でも学位(博士前期)を取得しやすい環境整備、秋入学導入検討  | B    |    |
|   | 1-47 | 都市外交人材育成基金及び東京グローバルパートナー奨学金による優秀な留学生の受入れ  | B    |    |
|   | 1-48 | アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受入れ、アジア各国の大学や医療機関等への技術支援の実施                                 | B    |    |
|   | 1-49 | 留学生の受入環境の整備   | B    |    |
|   | 1-50 | 異文化理解講座・留学生セミナー等の実施、日本語教育プログラムの実施(大学院人文科学研究科)                                       | B    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 10] 年度評価

| 評価素案 |  | 委員別評定等 |  |
|------|--|--------|--|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 海外インターンシップ体験参加後に、学生の自発的なコミュニケーションの面で変化が見られる等、成果を挙げている。<br>・ 留学促進チームに、教職員に加え学生も参加し、学生の発案により、SNSで留学中の学生から提供された留学先のレポートを発信する等、学生の留学意欲向上に資する取組を実施した。<br>・ 世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義からなる特別講座を実施し、グローバルな視点を育むとともに、留学意識の醸成を図った。 | 3      |  |
|      |  | 3      |  |
|      |  | 3      |  |
|      |  | 3      | ◎ 留学促進チームに、教員、職員のみならず、学生も参加し、学生の発案により、留学機運向上に向けたポスター展示等の活動を行ったり、SNSで交換留学中の学生から提供された留学先のレポート等を掲載する等、学生の留学意欲向上に資する取組の充実や工夫を図った点が評価できる。             |
|      |  | 3      | ◎ 新たな海外インターンシップへの取組み   |
|      |  | 3      | ◎ 世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義からなる特別講座を実施し、好評を得た。<br>◎ 海外インターンシップ体験参加者の中には研究室で個別に報告会を開催する学生や、研究室内で令和5(2023)年度の参加を希望する学生が出てくる等、学生の意識に変化が見られた。 |
|      |  | 2      | ◎ コロナ禍であるにもかかわらず、学生の海外派遣136名、在席留学生数606名、留学生32名の受け入れを行った点   |

参考意見(案)

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 10] 期間評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍によって学生の海外派遣や、留学生の受入を当初の計画通りに実施できなかったものの、短期受入プログラムや海外インターンシップをオンラインで実施する等、オンライン活用したグローバル化への取組を行った。</li> <li>コロナ禍であっても、奨学金プログラムや留学ガイダンス、語学研修の実施、さらにはグローバル教養講座の開講等によって、学生の留学意識の涵養に努め、第三期中期目標期間合計で学生 885 人の海外派遣を達成した。</li> <li>留学生受入れに向けてオンラインによる広報、科目開講、また英語実施科目の拡充を行い、令和4年度には600名程度の在籍留学生数を維持している。</li> </ul> |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 3  | ◎ コロナ禍によって当初の計画通りに実行することができなかったものの、オンラインを活用したグローバル化への取組の工夫は評価したい   |
| 3  |  |
| 3  | ◎ コロナ禍であっても、奨学金プログラムや留学ガイダンス、語学研修の実施、さらにはグローバル教養講座の開講等によって、学生の留学意識の涵養に努めた。その結果、第三期中期目標期間合計で学生 885 人の海外派遣を達成した。と同時に、留学生受入れに向けてオンラインによる広報、科目開講、また英語実施科目の拡充を行い、令和4年度には600名程度の在籍留学生数を維持している。 |
| 3  | ◎ 海外留学等の派遣者数について、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、令和3年度以降、オンラインツールを活用する等の工夫を行い、学生の留学へのニーズに対応したり、令和4年度には136名の派遣が行われた。学生に対する留学意識の醸成を図るため、外部講師の招へいによる講座開講など、学生への働きかけを行った点も評価できる。          |
| 3  |  |
| 3  | ◎ 優秀な留学生等を確保し、都立大の国際化を推進するため、学部の秋入学制度を令和6(2024)年度に導入することとし、入試方法やカリキュラム構成等、課題整理を行うとともに、海外向けのPRを行った。   |
| 3  | ◎ 新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響下においても留学生の受入れに向けた積極的な海外プロモーションや短期受入プログラムのオンライン実施等の取組を継続し、600人程度の留学生数を維持したことは評価できる。<br>▲ 新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響により、中期計画 I-43、I-46、I-47 において、KPI が達成できなかった。        |
| 2  | ◎ アジアの中心として医療水準の向上に努める意識を持ち、留学生を受け入れたり技術支援を実施している点。  |

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

**大項目 11**

グローバル化  
【海外の大学等との連携、都市外交を支えるネットワーク形成、キャンパスの国際化】

| 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 1-51 | 国際交流協定校の拡充、海外大学と単位の相互認定を伴う学生交換の実施、交流重点校との教育・研究交流の強化、GCCの実施及びGDCの開催             | B    | B  |
| 1-52 | 大学の将来を担う若手研究者育成、若手研究者海外派遣支援制度及び若手研究力強化派遣制度の運用による研究力強化                          | B    |    |
| 1-53 | 国際カンファレンス等での研究情報の発信・収集   | B    |    |
| 1-54 | 外国人研究者等受入環境の整備   | B    |    |
| 1-55 | 修了生・在学生と都立大とのネットワーク強化に向けた取組、国際共同研究支援による高度研究修了生との研究ネットワークの強化、帰国留学生短期研究支援制度の理解促進 | B    |    |
| 1-56 | 学内文書等の多言語化(令和元年度に達成済)  | -    |    |
| 1-57 | 外国人教員比率の向上に向けた取組、職員の語学力の向上に向けた取組   | B    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 11] 年度評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合を 25.1%に高め、正規職員の TOEIC600 点以上のスコア取得者割合においては 33.2%となった。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 若手研究者育成のため、若手研究者海外派遣支援制度等の取組を実施しているが、件数増加に向けて、取組が強化されることを期待する。 |

**参考意見(案)**

|                                |
|--------------------------------|
| ・ 留学生の出身国・地域の多様化が推進されることを期待する。 |
|--------------------------------|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)  |
|----|---|
| 3  |   |
| 3  |   |
| 3  |   |
| 3  | ◎ エジプト日本科学技術大学との包括学術交流協定の締結、マレーシア工科大学への学生派遣、マラヤ大学やソウル市立大学校との共同シンポジウムの開催、GCC、GDCといった国際交流プログラムの開催等、コロナ禍での感染拡大防止の配慮も行いつつ、オンライン活用の利点、対面実施の効果を踏まえて、取組を推進した点が評価できる。                           |
| 3  | ◇ 留学生の出身国・地域の多様化推進(説明会等への取組みを進めていることは評価)  |
| 3  | ◎ ポストドクターのキャリア形成に向けた支援を充実させ、優れた人材の受入れを促進するため、フルタイムで研究活動に専念できる「東京都立大学法人特別研究員」の職を新設し、4名の特別研究員の任用した。<br>◎ TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合を 25.1%に高め、正規職員における TOEIC600 点以上のスコア取得者は 33.2%となった。 |
| 2  | ◎ 若手研究者育成のための取り組みとしてサバティカルやテニュアトラックを制度として取り入れて実施している。<br>◎ TOEIC600 点以上の職員比率を目標向上している。<br>◇ 若手研究者育成のための取り組みとしてサバティカルやテニュアトラックの件数の増加。そのための体制整備。  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 11】 期間評価**

| 評価素案  |   | 委員別評定等 |   |
|---|---|--------|---|
| 評定  | 評定説明  | 評定     | 評定説明 (コメント)   |
| <b>(3)</b>  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ TOEIC スコア 600 点以上の職員の割合が 25.1%となり、KPI を達成した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 外国人教員の割合は令和 4 年度に 4.6%に達し、目標値に近づいている。大学のグローバル化を一層推進するため、さらなる増加を期待したい。 | 3      |   |
|   |   | 3      |   |
|   |   | 3      | ◇ 外国人教員の割合は令和 4 年度に 4.6%に達し、目標値に近づいている。さらなる増加を期待したい。  |
|   |   | 3      | ◎ TOEIC スコア 600 点以上の職員比率が 25.1%となり、目標の 25%を上回った。海外研修等の実施によって、語学力に加えて、異文化・多様性理解力の向上に資する取組も行われている。<br>◇ 外国人教員比率について、4.6%まで高まったものの、目標の5%以上に満たなかったことから、引き続き、教職員の国際化の推進のため、外国人教員採用のための取組の充実が期待される。   |
|   |   | 3      | ◎ (コロナ禍での)海外インターンへの取組み<br>▲ 留学生の出身国・地域の多様化推進  |
|   |   | 3      | ◎ 若手研究者等選抜型研究支援により、若手研究者に対して研究課題の遂行に必要な研究費を戦略的に配分し、支援及び育成を進めた。<br>◎ 多様な研修の実施により、TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合を年度ごとに増加させ、令和 4(2022)年度には 25.1%となり、KPI を達成した。<br>◇ 国の国際研究プロジェクト採択は 49 件、外国機関との共同・受託研究契約件数は 20 件となり、第二期中期計画期間の累計件数比 190%となり、KPI の達成には至らなかった。<br>◇ 外国人教員の能動的採用を促す取組や学長裁量枠の活用等を推進し、外国人教員比率が 4.6%まで向上しものの KPI の達成には至らなかった。 |
| <b>参考意見 (案)</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> |   | 2      | ◎ TOEIC600 点以上の職員比率を目標値とし、向上に努めている点。<br>◇ 外国人教員割合の改善に向けて、要因の分析をしてはどうでしょうか。就職のために要件の緩和策が必要かもしれません。   |

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

|                               |                                  |  |      |    |
|-------------------------------|----------------------------------|--|------|----|
| <b>大項目 12</b><br>教育内容及び教育の成果等 | 小項目                              | 主な取組   | 自己評価 |    |
|                               |                                  |  | 年度   | 期間 |
|                               | 2-01                             | 教育プログラムの開発・設計・実施、カリキュラムの見直し                      | A    | A  |
|                               | 2-02                             | PDCA サイクルの仕組みの充実、PBL に対する評価指標の検討・実施、PBL 成果報告書の作成 | B    |    |
| 2-03                          | アクティブ・ラーニングの積極的導入、教育の質の保証の可視化の推進 | -  |      |    |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 12] 年度評価**

| 評価素案  |  | 委員別評定等 |  |
|---|--|--------|--|
| 評定  | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)   |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 運営諮問会議からの提案を踏まえて、創造技術コースにヘルス・サイエンス科目群を新設した。<br>・ PBL 評価方法の共通化、PBL 成果報告書の作成等、PBL 型教育に関する取組を積極的に実施している。 | 2      | ◎ コロナ対応による新たな教育方法への取組ノウハウを培ってブレンドドラーニングを展開している。また PBL の評価方法に積極的に取り組むなどの姿勢が評価できる。 |
|   |  | 2      | ◎ 「起業・創業・事業承継を視野に入れた学位プログラムを含む新専攻全体のカリキュラムを着実に実施した。」点が評価できる。                     |
|   |  | 3      |  |
|   |  | 3      | ◎ 運営諮問会議からの提案を踏まえて、創造技術コースにヘルス・サイエンス科目群を新設することとなった点が評価できる。                       |
|   |  | 2      | ◎ アクティブラーニング、PBLの定着活動  |
|   |  | 3      | ◎ 運営諮問会議の答申内容等を組み込み、創造技術コースにヘルス・サイエンス科目群を新設した。                                   |
|   |  | 2      | ◎ 社会のニーズを取り入れた学位プログラムの実施<br>◎ PBL 成果報告書の作成と海外への発信                                |
| <b>参考意見</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> |  |        |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 12] 期間評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (2) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規事業開発や起業・創業・事業継承を担う人材を育成するために、2専攻から1専攻3コース体制に研究科を再編し、新たな学位プログラムを導入することにより、実践的な教育を着実に実施した。</li> <li>産技大のPBL教育を独自の「AIIT PBL Method」として体系化し、国内外に広く発信しており、認証評価においても、特色ある実践教育として高く評価されている。</li> <li>アクティブ・ラーニング導入科目の割合について、第三期中期計画期間を通して8割を超え、KPIを達成した。</li> </ul> |

**参考意見（案）**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明（コメント）  |
|----|---|
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 2専攻から1専攻3コース体制へと研究科再編を行い時代に沿った改革を進めている。</li> <li>◎ 特色であるPBLによる教育を体系的にさらに深化させ、日英版で国内外に広く発信している点も高く評価できる。</li> <li>◎ アクティブラーニングに関するKPIも達成している。</li> </ul>  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の割合が高く評価できる。</li> </ul>  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 新規事業開発や起業・創業・事業継承を担う人材を育成するために、1専攻3コース体制に研究科を再編し、新たな学位プログラムを導入して実践的な教育を推進している。</li> <li>◎ 産技大のPBL教育を独自の「AIIT PBL Method」として体系化し、国内外に広く発信している。その特色ある実践教育については認証評価においても高く評価されている。</li> </ul>   |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 起業・創業・事業継承を視野に入れた学位プログラムを含む新たな専攻として「産業技術専攻」を設置し、着実に実施した点が評価できる。</li> <li>◎ 「AIIT PBL Method」としてPBL型教育のノウハウを体系化し、国内外に広く発信している点、PBL検討部会を目標の年4回を毎年開催し、産業界や外部評価者の意見・助言を取り入れ、改善を図っている点が評価できる。</li> </ul>  |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ アクティブラーニング、PBL定着</li> </ul>  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 事業設計工学コース、情報アーキテクチャコース、創造技術コースの3コースからなる新たな専攻として「産業技術専攻」を設置し、新規事業開発や起業・創業・事業承継を担う人材育成を目指すカリキュラムを作成し着実に実施した。</li> <li>◎ 産技大のPBL型教育のノウハウを体系化した「AIIT PBL Method」を日本語版及び英語版で発行し、ホームページで公開するなど、国内外に広く発信した。</li> <li>◎ 教育効果が見込まれる科目に積極的にアクティブ・ラーニングを導入した。導入授業科目は、第三期中期計画期間を通して8割を超えKPIを達成した。</li> </ul> |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 社会のニーズ・産業界ニーズを取り入れた学位プログラムの導入と運営。産業界のニーズを取り入れるための諮問会議を設定。</li> </ul>   |



Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

**大項目 13**

教育の実施体制等  
【産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備、都立大及び高専との連携】

| 小項目  | 主な取組                                      | 自己評価 |    |
|------|---|------|----|
|      |   | 年度   | 期間 |
| 2-04 | 産業界のニーズの教育体制への反映、PDCA サイクルの各要素の強化、教育環境の整備 | A    | A  |
| 2-05 | 他大学等との連携による教育の普及、関係機関との連携強化・交流促進          | A    |    |
| 2-06 | 高専出身者の確保、産技高専との連携強化、2大学1高専の連携             | A    |    |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 13] 年度評価**

| 評価素案    |  | 委員別評定等 |   |
|---------|--|--------|---|
| 評定      | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (2)     | ◎優れた点・特色ある点<br>・オンラインを活用し、海外と共同でPBLを行ったり、AIITフォーラムを開講する等、運営諮問会議からの答申によって、グローバル人材の育成や社会人リカレント教育の面で充実を図った。<br>・文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」において、他大学と連携し、デジタルコンテンツの作成等を行った。<br>・産技高専との連携について、学生のリクルーティングや共同研究など多面的に取り組んでいる。 | 2      | ◎ 全般的に計画が順調に達成されていて、特に産技高専との連携は学生のリクルーティングや共同研究など多面的に取り組まれており評価したい。   |
|         |  | 3      |   |
|         |  | 3      |   |
|         |  | 2      | ◎ オンラインを活用し、海外と共同でPBLを行ったり、AIITフォーラムを開講する等、運営諮問会議からの答申に対し、グローバル人材の育成、社会人リカレント教育の充実を図った点が評価できる。  |
|         |  | 3      |   |
| 参考意見(案) |  | 2      | ◎ 公開講座「AIITフォーラム」等をオンラインで開講し、1,379人の延べ参加者があった。<br>◎ 実務家教員数の比率において、継続して3割以上を維持した。<br>◎ 東京都立産業技術研究センターと連携し、現場実習を実施した。<br>◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」において、宮城大学及び公立小松大学と連携し、デジタルコンテンツの作成等を行った。 |
|         |  | 2      | ◎ 2大学1高専の連携強化、関係機関との連携は、ネットワークの推進につながり基盤強化となる。  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 13] 期間評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 運営諮問会議の答申に基づき、2専攻から1専攻3コース体制に研究科を再編した。<br>・ 実務家教員比率について、計画的な採用を実施することで、中期計画期間を通して3割以上を維持した。<br>・ 文部科学省や品川区、インドネシアの大学など、他機関との連携事業を多岐にわたり実施し、KPIを達成した。<br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 産技高専との共同研究や同校専攻科生のインターンシップの受入れ等、連携強化が図られているが、都立大と連携した取組については、今後の更なる充実を期待する。 |

**参考意見（案）**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明（コメント）   |
|----|--|
| 1  | ◎ 研究科再編は順調に行われ、また実務家教員の確保も目標を達成している。特筆すべきは他機関との連携事業が多岐にわたって進められたことで、文科省第2期 enPIT や品川区、インドネシアの大学などの国内外に広い連携が進んでいることは評価されるべきである。また、産技高専との連携も順調に進みつつある。   |
| 3  |  |
| 3  | ◎ 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に公立大学で唯一採択された。<br>◇ 産技高専との共同研究や同校専攻科生のインターンシップの受入れ等、連携強化が図られているが、さらに都立大学との連携が進むことを期待する。  |
| 2  | ◇ 都立大・産技高専と連携した取組について、産技高専への授業提供、共同研究、インターンシップなどが行われた点が評価できる一方、都立大と連携した取組について、今後の充実が期待される。   |
| 2  | ◎ 実務家教員比率30%以上を定着させたこと   |
| 2  | ◎ 運営諮問会議の諮問に基づき、2専攻から1専攻3コースへと研究科再編を実施した。<br>◎ 計画的な採用を実施することで、実務家教員比率は、中期計画期間を通して3割以上を維持した。<br>◎ 多数の大学等との間で新たな取組を実施し、KPIを越える多くの連携事業を達成した。<br>◎ 「産技大接続授業プログラム」として産技大教員による授業提供や、産技高専専攻科生との共同研究、インターンシップの受け入れなどを行い、産技高専との連携を強化した。 |
| 2  | ◎ 組織としてPDCAの中でPBLを検討しており体系的に教育を実施している。   |

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

**大項目 14**

**教育の実施体制等  
【教育の評価・改善】**

| 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|------|--|------|----|
|      |  | 年度   | 期間 |
| 2-07 | 自己点検・評価活動における新たな PDCA サイクルの実施、授業設計に関する教員向けのガイダンス・教員のフォローアップの実施、FD フォーラムの開催による教育の質の向上 | A    | A  |
| 2-08 | 機関別認証評価の受審結果を踏まえた改善策の実施、産業技術専攻の分野別認証評価の受審  | B    | A  |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 14】 年度評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 授業評価アンケートでの授業評価について、平均で 4.46 となった。<br>・ FD フォーラムを 2 回実施し、教員参加率が 100%である。 |

**参考意見(案)**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 2  | ◎ 各種 FD 活動を展開し、学生による授業アンケートの平均点が 5 年間の最高得点となる成果が出ている。  |
| 2  | ◎ 「学生の授業評価アンケート結果で【4.46】の評価を得た。」が6年間で最高得点であり、評価できる。  |
| 3  |  |
| 2  | ◎ 教育の質向上のための PDCA サイクルを回すことで、学生の授業に対する満足度向上を図り、授業評価アンケートは、令和4年度、平均 4.46 まで高まった。                          |
| 2  | ◎ 新たな内部品質保証システム、PDCA構築<br>◎ FDフォーラムへの教員参加100%継続  |
| 2  | ◎ 授業評価アンケートで全授業の評価が平均 4.46 となった。<br>◎ FD フォーラムを 2 回実施し、全教員が参加した。<br>◎ 産業技術専攻として初の分野別認証評価を受審し、「適合」判定を受けた。 |
| 2  | ◇ FD の成果を学生授業満足度アンケートとの関連で見直してはどうか。  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 14】 期間評価   |  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
|---|--|------|-----|--|---|--------|------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|-----------------------|---|---|---|---|
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価素案</th> <th style="width: 90%;">評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築し、PDCA サイクルのマネジメントを強化した。</li> <li>・ 学生の授業評価アンケートにおいて、全ての年度で5点満点中平均4点以上の高い評価を得た。</li> <li>・ FD フォーラムを開催し、第三期中期計画期間中の全ての年度において、全教員が参加した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案   | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築し、PDCA サイクルのマネジメントを強化した。</li> <li>・ 学生の授業評価アンケートにおいて、全ての年度で5点満点中平均4点以上の高い評価を得た。</li> <li>・ FD フォーラムを開催し、第三期中期計画期間中の全ての年度において、全教員が参加した。</li> </ul> | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">委員別評定等</th> <th style="width: 90%;">評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 教育の内部質保証システムを機能させるべく、PDCA サイクル強化やFD フォーラムの実施(100%参加)などを進め、学生授業アンケートも高得点かつ5年間上昇傾向にあるのは評価に値する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 教育の質向上を図るためのFD フォーラムを年2回開催し、毎年、教員の100%が参加している点が評価できる。<br/>◎ 学生の授業評価アンケートの結果も、毎年4以上の評価を得ている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 自己点検・評価サイクルを定着させたこと</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 責任主体として内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築しPDCA サイクルのマネジメントを強化した。<br/>◎ FD フォーラムを開催し、中期計画期間中のすべての年度において、後日視聴含め100%の教員が参加した。<br/>◎ 学生の授業評価アンケート結果では、全ての年度で平均4以上の評価を得た。<br/>◎ 中期計画期間中に受審した分野別認証評価は全て「適合」判定であった。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 更なる教育改善に向けて第三者評価を受け改善策を実施している点<br/>◇ 評価機関からの指摘について上記を引き続き改善を図ってほしい</td> </tr> </tbody> </table> | 委員別評定等 | 評定説明（コメント） | 1 | ◎ 教育の内部質保証システムを機能させるべく、PDCA サイクル強化やFD フォーラムの実施(100%参加)などを進め、学生授業アンケートも高得点かつ5年間上昇傾向にあるのは評価に値する。 | 3 |  | 3 |  | 2 | ◎ 教育の質向上を図るためのFD フォーラムを年2回開催し、毎年、教員の100%が参加している点が評価できる。<br>◎ 学生の授業評価アンケートの結果も、毎年4以上の評価を得ている。 | 2 | ◎ 自己点検・評価サイクルを定着させたこと | 2 | ◎ 責任主体として内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築しPDCA サイクルのマネジメントを強化した。<br>◎ FD フォーラムを開催し、中期計画期間中のすべての年度において、後日視聴含め100%の教員が参加した。<br>◎ 学生の授業評価アンケート結果では、全ての年度で平均4以上の評価を得た。<br>◎ 中期計画期間中に受審した分野別認証評価は全て「適合」判定であった。 | 2 | ◎ 更なる教育改善に向けて第三者評価を受け改善策を実施している点<br>◇ 評価機関からの指摘について上記を引き続き改善を図ってほしい |
| 評価素案  | 評定説明   |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築し、PDCA サイクルのマネジメントを強化した。</li> <li>・ 学生の授業評価アンケートにおいて、全ての年度で5点満点中平均4点以上の高い評価を得た。</li> <li>・ FD フォーラムを開催し、第三期中期計画期間中の全ての年度において、全教員が参加した。</li> </ul> |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 委員別評定等  | 評定説明（コメント）   |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 1   | ◎ 教育の内部質保証システムを機能させるべく、PDCA サイクル強化やFD フォーラムの実施(100%参加)などを進め、学生授業アンケートも高得点かつ5年間上昇傾向にあるのは評価に値する。   |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 3   |  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 3   |  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 教育の質向上を図るためのFD フォーラムを年2回開催し、毎年、教員の100%が参加している点が評価できる。<br>◎ 学生の授業評価アンケートの結果も、毎年4以上の評価を得ている。   |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 自己点検・評価サイクルを定着させたこと  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 責任主体として内部質保証室を設置することで、全学的な内部質保証システムの実施体制を構築しPDCA サイクルのマネジメントを強化した。<br>◎ FD フォーラムを開催し、中期計画期間中のすべての年度において、後日視聴含め100%の教員が参加した。<br>◎ 学生の授業評価アンケート結果では、全ての年度で平均4以上の評価を得た。<br>◎ 中期計画期間中に受審した分野別認証評価は全て「適合」判定であった。                              |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 更なる教育改善に向けて第三者評価を受け改善策を実施している点<br>◇ 評価機関からの指摘について上記を引き続き改善を図ってほしい  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">参考意見（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </tbody> </table>   | 参考意見（案）  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
| 参考意見（案）   |  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |
|   |  |      |     |  |   |        |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                       |   |   |   |   |

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

**大項目 15**

学生への支援

| 小項目  | 主な取組  | 自己評価 |    |
|------|---|------|----|
|      |   | 年度   | 期間 |
| 2-09 | 効率的な学修環境の提供、全1年次生に対する学習指導の実施・充実、AIITフォーラムの実施・学習コミュニティの運営、修了生コミュニティ支援の充実 | A    | A  |
| 2-10 | 多様な学生にきめ細かに対応したキャリア開発支援の実施  | B    | A  |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 15] 年度評価**

| 評価素案 |  | 委員別評定等 |   |
|------|--|--------|---|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ コロナ禍においてブレンディット・ラーニングを推進し、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。<br>・ 学生のニーズに基づき、修了生と在学生の橋渡しを積極的に行い、きめ細かなキャリア開発支援を行っている。 | 3      |   |
|      |  | 3      |   |
|      |  | 3      | ◎ 学生のニーズに基づき、修了生と在学生の橋渡しを積極的に行い、きめ細かなキャリア開発支援を行っている。  |
|      |  | 2      | ◎ Web会議システムを活用し、同時性・双方向性を確保したオンライン授業、録画を用いたオンデマンド授業を組み合わせ、コロナ禍においてブレンディット・ラーニングを推進し、社会人が学びやすい学修環境を整備した点が評価できる。学生の授業評価アンケート結果で、授業に対するモチベーション、負担の軽減、理解度も多くの項目で前年と比較して点数が高くなっている。<br>◎ 修了生コミュニティ制度について、令和4年度に5つの修了生コミュニティが設置され、修了後も継続して学修できる環境整備が進んでいる点が評価できる。                             |
|      |  | 3      |   |
|      |  | 3      | ◎ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。<br>◎ 公開講座「AIITフォーラム」を、一部連携自治体等(品川区、三鷹ネットワーク大学)主催の公開講座と連携し、オンライン(YouTube)形式で計5回実施し、1,379名の延べ視聴回数があった。<br>◎ 就職支援対象者全員に対する就職支援ガイダンスを9回、中国語による外国人留学生向けガイダンスを3回オンラインで実施した。<br>◎ 担任制を取り入れ、TAを活用した指導の丁寧さは、良い校風となっているのではと推測する。 |
|      |  |        |   |

**参考意見(案)**

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 15】 期間評価  |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
|--|--|------|-----|--|---|----|------------|---|--|---|--|---|---|---|--|---|-----------------------------------|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、社会人がより学びやすい学修環境を提供した。<br/>                     ・ 1年次生全員に対する担任教員の指導等、きめ細かい学生サポートが実施されている。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定   | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、社会人がより学びやすい学修環境を提供した。<br>・ 1年次生全員に対する担任教員の指導等、きめ細かい学生サポートが実施されている。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 社会人が学びやすい学修環境整備のためにブレンデッドラーニングを推進したり、学生面談やガイダンス実施によってきめ細かい学生サポートが実施されている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 全ての講義の録画を視聴できる講義支援システムの提供など、早くから学修環境が整備されている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 1年生全員との面談成果のさらなる活用(学生への情報発信を含む)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。<br/>◎ 修了生が主宰する研究会「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 担任制をとり1年次生に丁寧な対応を実施した点はコロナ禍での学生の不安対応に寄与できたと思われる</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ 社会人が学びやすい学修環境整備のためにブレンデッドラーニングを推進したり、学生面談やガイダンス実施によってきめ細かい学生サポートが実施されている点が評価できる。 | 3 |  | 3 | ◎ 全ての講義の録画を視聴できる講義支援システムの提供など、早くから学修環境が整備されている。 | 3 |  | 3 | ◇ 1年生全員との面談成果のさらなる活用(学生への情報発信を含む) | 2 | ◎ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。<br>◎ 修了生が主宰する研究会「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営した。 | 2 | ◎ 担任制をとり1年次生に丁寧な対応を実施した点はコロナ禍での学生の不安対応に寄与できたと思われる |
| 評定   | 評定説明   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、社会人がより学びやすい学修環境を提供した。<br>・ 1年次生全員に対する担任教員の指導等、きめ細かい学生サポートが実施されている。 |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 評定   | 評定説明（コメント）   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 社会人が学びやすい学修環境整備のためにブレンデッドラーニングを推進したり、学生面談やガイダンス実施によってきめ細かい学生サポートが実施されている点が評価できる。   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 3  | ◎ 全ての講義の録画を視聴できる講義支援システムの提供など、早くから学修環境が整備されている。  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 3  | ◇ 1年生全員との面談成果のさらなる活用(学生への情報発信を含む)  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 多同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせることで、より社会人が学びやすい学修環境を提供した。<br>◎ 修了生が主宰する研究会「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営した。                    |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 担任制をとり1年次生に丁寧な対応を実施した点はコロナ禍での学生の不安対応に寄与できたと思われる  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>  |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |   |   |  |   |                                   |   |   |   |   |

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

**大項目 16**

入学者選抜

| 小項目  | 主な取組  | 自己評価 |    |
|------|---|------|----|
|      |   | 年度   | 期間 |
| 2-11 | 積極的な情報発信、単位バンク生の更なる確保と正規入学に向けたアプローチ、大学院説明会への参加者確保、ターゲットを絞った新たな広報手段の検討 | S    | S  |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 16】 年度評価**

| 評価素案           |  | 委員別評定等 |   |
|----------------|--|--------|---|
| 評定             | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (1)<br>(2)     | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 積極的な広報等の取組により、大学院説明会に 463 名の参加があった(昨年度比 122%)。<br>・ 令和 5 年度 4 月入学者の志願倍率が 2.1 倍の高水準に達した。 | 2      | ◎ 年間 12 回のオンライン説明会や単位バンクの活用などきめ細かい方策によって受験者を確保できたことは評価したい。  |
|                |  | 1      | ◎ 「様々な媒体で産技大の教育成果を発信し、【463 名】の大学院説明会参加者を集めた。」点は、6年間で最高の人数であり評価できる。  |
|                |  | 1      | ◎ 令和 4 年度大学院説明会参加者は 463 名にも上り、令和 5 年度 4 月入学者の志願倍率は 2.1 倍に達した。   |
|                |  | 1      | ◎ SNS 等による積極的な情報発信、単位バンク生の確保と単位バンク生からの入学者数拡大、大学院説明会の周知の充実により、志願倍率は 2.1 倍に達し、入学者数について、十分に定員を確保することができている点が評価できる。                       |
|                |  | 2      | ◎ 大学院説明会参加者増、志願倍率2倍超達成  |
|                |  | 3      | ◎ 積極的な広報等の取組によって、オンライン実施の大学院説明会への参加者は 463 名(昨年度比 122%)<br>◎ 令和 5(2023)年度 4 月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は 2.1 倍に達し、コロナ禍にも関わらず十分な定員を確保することができた。 |
|                |  | 2      | ◎ 積極的な情報発信や単位バンク制度などの多くの工夫をしつつ、相応しい学生確保の尽力している。   |
| <b>参考意見(案)</b> |  |        |   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 16】 期間評価**

| 評価素案   |   | 委員別評定等 |   |
|--|---|--------|---|
| 評定   | 評定説明  | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (1)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 多様な PR 活動の実施により、大学院説明会参加者数は中期計画期間中の全ての年度で 250 人を越え、KPI を達成した。<br>・ 平成 30 年度以降は志願倍率が 1.5 倍程度で安定的に推移している。さらに令和5年度4月入学者においては、志願倍率は 2.1 倍まで高まった。 | 1      | ◎ 学生リクルーティングについて、多方面からの PR や入学形態などを駆使して、中期計画前には志願倍率が 1 倍前後だったものが最終的には 2.1 倍にまで上昇する大きな成果を出すことができたことは高く評価されるべきである。  |
|  |   | 1      | ◎ 大学院説明会参加者を6年間でみると総じて増加傾向に見られる点が評価できる。   |
|  |   | 1      | ◎ SNS での積極的な情報発信、教員紹介動画、ロールモデル集等を活用した広報活動により、平成 30 年度以降は志願倍率が 1.5 倍程度で安定的に推移している。また、単位バンク生からの正規入学者数も大幅に増加した。  |
|  |   | 1      | ◎ PR活動について、大学ブランディング、教職員による企業等訪問、ウェブサイトや SNS の活用等、様々な工夫、充実を図ることで、安定した志願者数の確保ができており、令和5(2023)年度4月入学においては、志願者数 189 名、志願倍率は 2.1 倍まで高まった点が評価できる。  |
|  |   | 1      | ◎ 志願者増(倍率2倍超)達成に向けた各種取組み  |
|  |   | 1      | ◎ 多様なメディアを通じた広報活動や教職員の訪問等による企業等への働きかけにより、産技大の PR を実施することで大学院説明会参加者数は中期計画期間中のすべての年度で 250 人を越え、KPI を達成した。<br>◎ 中期計画期間当初は志願倍率が 1 倍前後であったが、それ以降は安定して増大し、最終年度においては 2.1 倍となった。<br>◎ 中期計画期間中は常に学生定員が充足されていた。 |
| <b>参考意見(案)</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> |   | 1      | ◎ 専門職大学院の学生獲得のために多くの発信をしたり説明会の実施をしている。都のみならず社会を変えていく一助となると思われる。   |



Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目 17

研究

| 小項目  | 主な取組                                 | 自己評価 |    |
|------|--------------------------------------|------|----|
|      |                                      | 年度   | 期間 |
| 2-12 | PBL 型教育の研究                           | B    | B  |
| 2-13 | 高度専門職人材育成に関する教育研究の成果発信及びデータの蓄積・整理・分析 | B    |    |
| 2-14 | 開発型研究の効果的な発信、産業振興に資する教育研究の更なる推進      | A    |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 17】 年度評価

評価素案

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ PBL 教育手法の改善のため、各コースにおいて全教員参加による PBL 研究会を開催した。<br>・ 新設された2つの研究所を含む11の研究所の運営を行い、研究活動計画及び研究活動成果報告を研究所ごとにホームページ上に掲載することで、研究成果を社会へ周知した。 |

参考意見(案)

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>PBL での学生の成績とディプロマポリシーを分析し、PBL の内容の見直しを図ってはいかがでしょうか。</li> </ul> |
|---|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明(コメント)   |
|----|--|
| 3  |  |
| 3  |  |
| 3  |  |
| 3  | ◎ 新たに2つの研究所が新設され、11の研究所が運営され、研究成果の社会への還元を図っている点が評価できる。1つの研究所では、大田区のイベントに出店し、研究成果を直接、来場者に伝える機会を作っている。                             |
| 3  | ◎ 学際的研究所が11件となったこと(過去最高)   |
| 3  | ◎ PBL 教育手法の改善のため、各コースにおいて全教員参加による PBL 研究会を開催した。<br>◎ 新たに2研究所を新設し、計 11 研究所の運営を行い、研究活動計画及び研究活動成果報告を研究所ごとに産技大公式ホームページ上に掲載し、社会へ周知した。 |
| 2  | ◎ 学際的な研究所の運営を 11 件<br>◎ PBL 教育の定着が図られている<br>◇ PBL での学生の成績とディプロマポリシーを分析し PBL の内容の見直しを図ってはいかがでしょうか。                                |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 17】 期間評価**

| 評価素案   |  | 委員別評定等 |   |
|--|--|--------|---|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明（コメント）  |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ PBL 研究会の教員参加率について、第三期中期計画期間を通じて目標の90%以上、令和2年度以降は100%を維持している。<br>・ 学際的研究所について、4件からスタートし、令和4年度には11件まで拡大し、KPIを達成した。                  | 3      | ◎ 設置研究所が4から11へと増加して研究体制の充実が図られている   |
|  |  | 3      |   |
|  |  | 3      | ◎ 4つからスタートした研究所は令和4年度には11件の学際的研究所を運営するまでに拡大され、専門職大学院として研究成果の社会への還元に努めている。   |
|  |  | 3      | ◎ コロナ禍にありながら、PBL研究会の教員参加率は、令和2年度以降、100%を維持している点が評価できる。グループディスカッションを行い、PBL型教育に関する研究を深めている。   |
|  |  | 3      | ◎ PBL研究会への教員参加率90%継続<br>◇ PBLの成果を論文・知的財産化していくこと   |
|  |  | 3      | ◎ 教員のPBL型教育に係る能力及び技術の向上を目的とするPBL研究会を中期目標期間を通じて毎年度開講し、90%以上の教員の参加があった。<br>◎ 産業振興に資する開発型研究の取組として、4つからスタートした研究所は、当初の4件から、令和4(2022)年度には11件へと拡大した。 |
| 2  | ◎ 社会ニーズに対応する専門職大学院としての研究所の設置・運営などに取り組み、毎年成果を挙げている。企業とも連携し研究成果を創出している。<br>◎ PBL型教育を組織的・研究的に取り組んでいる。<br>◇ IRの活用による好事例授業の成果、オンライン活用によるPBL展開開発の学会等への発信 |        |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> |  |        |   |

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

|                         |                          |                                   |      |    |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------------------|------|----|
| <b>大項目 18</b><br>都政との連携 | 小項目                      | 主な取組                              | 自己評価 |    |
|                         |                          |                                   | 年度   | 期間 |
|                         | 2-15                     | 中小企業支援のためのPR及び政策課題に対するシンクタンク機能の発揮 | A    | B  |
| 2-16                    | 都・区市町村等への研修実施等を通じた人材育成支援 | B                                 |      |    |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 18】 年度評価**

| 評価素案           |  | 委員別評定等 |  |
|----------------|--|--------|--|
| 評定             | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)   |
| (3)            | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 都や自治体等が主催するイベントへの参加、市区町村等と連携した講座の実施などを通じて、都や市区町村等と連携し、中小企業振興等に関わる政策課題解決に向けた取組を推進した。<br>・ 教員が持つ教育・研究の知見を反映した自治体職員向けの研修・公開講座を11講座開催した。<br>・ 都が実施する大学研究者による事業提案制度により採択された受託事業「東京都地域防災計画のIoD(Internet of Documents)化による防災力向上」を開始した。 | 3      | ◎ 政策支援のためのオンライン連携講座を順調に実施している。   |
|                |  | 3      |  |
|                |  | 3      |  |
|                |  | 3      | ◎ 東京都や自治体等が主催するイベントへの参加、市区町村等と連携した講座の実施などを通じて、東京都や市区町村等と連携し、中小企業振興等に関わる政策課題解決に向けた取組を推進した点が評価できる。令和4(2022)年度から東京都からの受託事業も開始するなど、都政との連携が進んでいる。 |
|                |  | 3      |  |
|                |  | 3      | ◎ 東京都からの受託事業「東京都地域防災計画のIoD(Internet of Documents)化による防災力向上」を開始した。<br>◎ 自治体職員向けの研修・公開講座を11講座開催した。   |
|                |  | 2      | ◎ 全国での自治体職員向けの公開講座を11講座開催  |
| <b>参考意見(案)</b> |  |        |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 18】 期間評価**

| 評価素案  |  | 委員別評定等 |   |
|---|--|--------|---|
| 評定  | 評定説明   | 評定     | 評定説明（コメント）  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 自治体等職員向けの研修講座について、平成 30 年度以降は目標となる毎年 10 講座以上実施し、自治体等職員の人材育成に貢献した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 自治体等職員向けの研修・公開講座について、さらに拡充されることを期待する。 | 3      |   |
|   |  | 3      |   |
|   |  | 3      |   |
|   |  | 3      | ◎ 品川区と包括協定を結び、中小企業等からの技術相談に応じたり、品川区、大田区、三鷹ネットワーク大学と連携して連続講座を実施する等、自治体と連携して中小企業支援に取り組んだ点が評価できる。                        |
|   |  | 3      | ◇ 市区町村等の職員向け研修・公開講座の拡充(中期目標は達成している)   |
|   |  | 3      | ◎ 自治体等職員向けの研修講座を2年次以降毎年 10 講座以上実施し、自治体等職員の人材育成に貢献した。  |
|   |  | 2      | ◎ 政策課題解決のシンクタンクとしての機能を持ち、産業振興にも寄与している。併せて全国の自治体職員向けの人材育成にも協力しており、都政との連携が進んでいる。<br>◇ オリンピック時と同等程の政策課題への貢献を引き続き実施を期待する。 |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="background-color: yellow; height: 100px; width: 100%;"></div> |  |        |   |

|  |                         |   |      |    |
|--|-------------------------|---|------|----|
| II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置 |                         |   |      |    |
| <b>大項目 19</b><br>社会貢献等   | 小項目                     | 主な取組  | 自己評価 |    |
|  |                         |   | 年度   | 期間 |
|  | 2-17                    | 産業振興施策への貢献、中小企業支援の実施、AIIT シニアスタートアッププログラム実施に伴う連携    | B    | A  |
|  | 2-18                    | 学修コミュニティの更なる充実、修了生の支援の充実、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場の提供 | S    |    |
| 2-18-2   | AIIT シニアスタートアッププログラムの実施 | A   |      |    |

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 19】 年度評価   |   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
|---|---|--|----|------|-----|---|----------|--|--------|--|----|------------|---|--|---|---|---|--|---|---|---|-------------------------------|---|---|---|--|
| <table border="1"> <tr> <th colspan="2">評価素案</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・ 文科省受託事業に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える～モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム～」を実施した。<br/>・ 社会人リカレント教育として、AIIT フォーラムを実施しており、延べ 1379 名の参加者を得たほか、AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。</td> </tr> <tr> <td>参考意見（素案）</td> </tr> </table> | 評価素案  |  | 評定 | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 文科省受託事業に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える～モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム～」を実施した。<br>・ 社会人リカレント教育として、AIIT フォーラムを実施しており、延べ 1379 名の参加者を得たほか、AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。 | 参考意見（素案） | <table border="1"> <tr> <th colspan="2">委員別評定等</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 社会人リカレント教育として AIIT フォーラムや AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 「AIIT フォーラムをオンラインで計5回開催（延べ参加者数/視聴回数 1,746 人）し、社会人や遠隔地からの参加者等の継続学修に寄与した。」ことは評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT 単位バンク制度を着実に実施するとともに、社会人のキャリアアップや学び直しの機会となる短期間で修得できる新たな履修証明プログラムを開講した。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT フォーラムについて、延べ 1379 名と多くの参加を得て、学外も含めた社会人の学び直し機会の充実、産技大の知名度向上に貢献した点が評価できる。また、自治体と共催による講座を設けることで、自治体との連携の推進も図っている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ AIIT フォーラム参加者が3年連続で 1000 名超</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 文科省受託事業の公募事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」のコース II「DX 分野等リスキリングを目的としたプログラムの開発・実施」に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える「モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム」を実施した。プログラムの授業においては、品川区の中小企業への現場実習を行い、実習先企業において、モノづくりの価値を高める工夫を見出し、現場の問題発見と抽出を行った。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 長期スパンの視点に立ったシニアスタートアップ事業の実施<br/>◇ シニアスタートアップ事業への学生の参加推奨</td> </tr> </table> | 委員別評定等 |  | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ 社会人リカレント教育として AIIT フォーラムや AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。 | 2 | ◎ 「AIIT フォーラムをオンラインで計5回開催（延べ参加者数/視聴回数 1,746 人）し、社会人や遠隔地からの参加者等の継続学修に寄与した。」ことは評価できる。 | 2 | ◎ AIIT 単位バンク制度を着実に実施するとともに、社会人のキャリアアップや学び直しの機会となる短期間で修得できる新たな履修証明プログラムを開講した。 | 2 | ◎ AIIT フォーラムについて、延べ 1379 名と多くの参加を得て、学外も含めた社会人の学び直し機会の充実、産技大の知名度向上に貢献した点が評価できる。また、自治体と共催による講座を設けることで、自治体との連携の推進も図っている。 | 2 | ◎ AIIT フォーラム参加者が3年連続で 1000 名超 | 3 | ◎ 文科省受託事業の公募事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」のコース II「DX 分野等リスキリングを目的としたプログラムの開発・実施」に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える「モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム」を実施した。プログラムの授業においては、品川区の中小企業への現場実習を行い、実習先企業において、モノづくりの価値を高める工夫を見出し、現場の問題発見と抽出を行った。 | 2 | ◎ 長期スパンの視点に立ったシニアスタートアップ事業の実施<br>◇ シニアスタートアップ事業への学生の参加推奨 |
| 評価素案  |   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 評定  | 評定説明  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 文科省受託事業に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える～モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム～」を実施した。<br>・ 社会人リカレント教育として、AIIT フォーラムを実施しており、延べ 1379 名の参加者を得たほか、AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
|   | 参考意見（素案）  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 委員別評定等  |   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 評定  | 評定説明（コメント）  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ 社会人リカレント教育として AIIT フォーラムや AIIT シニアスタートアッププログラムを継続的に実施している。  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ 「AIIT フォーラムをオンラインで計5回開催（延べ参加者数/視聴回数 1,746 人）し、社会人や遠隔地からの参加者等の継続学修に寄与した。」ことは評価できる。   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ AIIT 単位バンク制度を着実に実施するとともに、社会人のキャリアアップや学び直しの機会となる短期間で修得できる新たな履修証明プログラムを開講した。  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ AIIT フォーラムについて、延べ 1379 名と多くの参加を得て、学外も含めた社会人の学び直し機会の充実、産技大の知名度向上に貢献した点が評価できる。また、自治体と共催による講座を設けることで、自治体との連携の推進も図っている。   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ AIIT フォーラム参加者が3年連続で 1000 名超   |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 文科省受託事業の公募事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」のコース II「DX 分野等リスキリングを目的としたプログラムの開発・実施」に採択され、履修証明プログラム「社会人のあと一歩を叶える「モノづくり分野の価値創造力育成のための AIIT 型リスキリングプログラム」を実施した。プログラムの授業においては、品川区の中小企業への現場実習を行い、実習先企業において、モノづくりの価値を高める工夫を見出し、現場の問題発見と抽出を行った。 |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |
| 2   | ◎ 長期スパンの視点に立ったシニアスタートアップ事業の実施<br>◇ シニアスタートアップ事業への学生の参加推奨  |  |    |      |     |   |          |  |        |  |    |            |   |  |   |   |   |  |   |   |   |                               |   |   |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 19】 期間評価  |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
|--|---|------|-----|---|--|----|------------|---|--|---|---|---|---|---|--|---|-------------------------------|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ AIIT フォーラムについて、目標値の年間 600 人程度を大幅に上回り、令和2年度以降 1000 人を超える集客を実現している。<br/>                     ・ 修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置し、修了生への支援を実施している。<br/>                     ・ 充実したリカレント教育の場を提供するため、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定  | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ AIIT フォーラムについて、目標値の年間 600 人程度を大幅に上回り、令和2年度以降 1000 人を超える集客を実現している。<br>・ 修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置し、修了生への支援を実施している。<br>・ 充実したリカレント教育の場を提供するため、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 科目単位で学びなおし可能な単位バンクの活用によって社会貢献性を高めている点は産技大にも実利もあり成功している。また AIIT フォーラムもオンラインを活用して目標値(600 人)を大幅(1000 名以上)に上回る集客を実現している点は評価すべきである。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 「AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施しており、社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を広く提供できている。」点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ AIIT フォーラムはマンスリーフォーラムの目標値であった年間 600 人程度をはるかに上回り、令和 2 年度より 1000 人を超える参加者が続いている。<br/>◎ 正規学生になった場合の単位認定につながる AIIT 単位バンク制度も、令和元年度以降の登録者は毎年 100 名を超え、学び直しの場を広く提供している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ AIIT 単位バンク制度や履修証明プログラムにより、社会人が学び直しを行いやすい環境の整備、充実を図った点が評価できる。<br/>◎ 修了生に対しても、修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営し、継続した学びの支援も行っている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 社会人リカレント教育や修了生コミュニティ等の取組み定着</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を提供すべく、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 研究を社会貢献に活かし、それを通じて産業振興に貢献している。<br/>◎ 社会人リカレント教育推進の環境を整備し参加者が年間 600 人程度となっている。<br/>◇ 都の歴史、文化の継承、さらに新しい文化を加味したものづくり産業への寄与を期待する。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 1 | ◎ 科目単位で学びなおし可能な単位バンクの活用によって社会貢献性を高めている点は産技大にも実利もあり成功している。また AIIT フォーラムもオンラインを活用して目標値(600 人)を大幅(1000 名以上)に上回る集客を実現している点は評価すべきである。 | 2 | ◎ 「AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施しており、社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を広く提供できている。」点が評価できる。 | 2 | ◎ AIIT フォーラムはマンスリーフォーラムの目標値であった年間 600 人程度をはるかに上回り、令和 2 年度より 1000 人を超える参加者が続いている。<br>◎ 正規学生になった場合の単位認定につながる AIIT 単位バンク制度も、令和元年度以降の登録者は毎年 100 名を超え、学び直しの場を広く提供している。 | 2 | ◎ AIIT 単位バンク制度や履修証明プログラムにより、社会人が学び直しを行いやすい環境の整備、充実を図った点が評価できる。<br>◎ 修了生に対しても、修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営し、継続した学びの支援も行っている。 | 2 | ◎ 社会人リカレント教育や修了生コミュニティ等の取組み定着 | 2 | ◎ 社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を提供すべく、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。 | 2 | ◎ 研究を社会貢献に活かし、それを通じて産業振興に貢献している。<br>◎ 社会人リカレント教育推進の環境を整備し参加者が年間 600 人程度となっている。<br>◇ 都の歴史、文化の継承、さらに新しい文化を加味したものづくり産業への寄与を期待する。 |
| 評定   | 評定説明  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| (2)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ AIIT フォーラムについて、目標値の年間 600 人程度を大幅に上回り、令和2年度以降 1000 人を超える集客を実現している。<br>・ 修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置し、修了生への支援を実施している。<br>・ 充実したリカレント教育の場を提供するため、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。 |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 評定   | 評定説明（コメント）  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 1  | ◎ 科目単位で学びなおし可能な単位バンクの活用によって社会貢献性を高めている点は産技大にも実利もあり成功している。また AIIT フォーラムもオンラインを活用して目標値(600 人)を大幅(1000 名以上)に上回る集客を実現している点は評価すべきである。  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 「AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施しており、社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を広く提供できている。」点が評価できる。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ AIIT フォーラムはマンスリーフォーラムの目標値であった年間 600 人程度をはるかに上回り、令和 2 年度より 1000 人を超える参加者が続いている。<br>◎ 正規学生になった場合の単位認定につながる AIIT 単位バンク制度も、令和元年度以降の登録者は毎年 100 名を超え、学び直しの場を広く提供している。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ AIIT 単位バンク制度や履修証明プログラムにより、社会人が学び直しを行いやすい環境の整備、充実を図った点が評価できる。<br>◎ 修了生に対しても、修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供する「AIIT 修了生コミュニティ」を設置運営し、継続した学びの支援も行っている。  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 社会人リカレント教育や修了生コミュニティ等の取組み定着   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を提供すべく、AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施した。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 研究を社会貢献に活かし、それを通じて産業振興に貢献している。<br>◎ 社会人リカレント教育推進の環境を整備し参加者が年間 600 人程度となっている。<br>◇ 都の歴史、文化の継承、さらに新しい文化を加味したものづくり産業への寄与を期待する。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>   |   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |   |   |   |   |  |   |                               |   |   |   |   |

| Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置 |      |                                   |         |
|---|------|-----------------------------------|---------|
| 大項目 20<br>グローバル化  | 小項目  | 主な取組                              | 自己評価    |
|   | 2-19 | グローバル人材の育成、グローバル人材として獲得すべき能力指標の活用 | 年度<br>A |
|   | 2-20 | アジア諸国等の大学との連携                     | 期間<br>A |

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 20] 年度評価   |  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
|---|--|------|-----|--|---|----|------------|---|---|---|----------------------------------|---|--|---|---|---|---------------------------------------|---|--|---|--|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。</li> <li>産技大の特色であるPBL教育を海外と共同で行うことにより、グローバル人材の育成する教育を推進した。</li> <li>アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、アジア諸国との交流を実施した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見（案）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル人材の能力指標基準について、入学時と修了時の測定方法の一定程度の統一を図り、学生個人の指標ごとの伸びを確認できる体制が整備されると、学修指導にもより活用できると思われる。</li> </ul> | 評定   | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br><ul style="list-style-type: none"> <li>学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。</li> <li>産技大の特色であるPBL教育を海外と共同で行うことにより、グローバル人材の育成する教育を推進した。</li> <li>アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、アジア諸国との交流を実施した。</li> </ul> | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ オンラインを活用した PBL 教育を継続的に行うとともに、アジア諸国との人材育成ネットワークを着実に構築している。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル人材の能力指標達成割合96.1%は高く評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 令和4年度修了生のグローバル人材の能力指標基準を満たす割合は96.1%に達している。その伸びが顕著な点は評価できるが、入学時と修了時の測定方法の一定程度の統一を図り、学生個人の指標ごとの伸びを確認できる体制が整備されると、学修指導にもより活用できると思われる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 海外と共同で行うグローバル PBL の実施などにより、グローバル人材の育成を行う教育の推進を行っている点が評価できる。グローバル指標の令和4年度の達成割合について、入学生は65.8%だが、修了生は96.1%であり、対象が異なるため、単純な比較はできないが、産技大での学びにより、修了までに多くの学生がグローバル人材としての力をつけている様子がうかがえる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 修了生の「グローバル人材」比率96.1%達成(昨年度よりも大幅に向上)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル PBL 実施・準備に係る公募を行い、採択された4件について、オンライン等を活用しつつ活動を行った。<br/>◎ アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、ハイブリッド形式での理事会と総会セミナーを行った。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 学部同様、TOEIC の目標値を上げている。<br/>◎ アジア諸国の水準向上に向けて交流し、ネットワークを創出している。<br/>◇ グローバル指標基準に満たしていない学生が数名ほどいるため、その学生への対応策の検討が必要</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ オンラインを活用した PBL 教育を継続的に行うとともに、アジア諸国との人材育成ネットワークを着実に構築している。 | 2 | ◎ グローバル人材の能力指標達成割合96.1%は高く評価できる。 | 2 | ◎ 令和4年度修了生のグローバル人材の能力指標基準を満たす割合は96.1%に達している。その伸びが顕著な点は評価できるが、入学時と修了時の測定方法の一定程度の統一を図り、学生個人の指標ごとの伸びを確認できる体制が整備されると、学修指導にもより活用できると思われる。 | 2 | ◎ 海外と共同で行うグローバル PBL の実施などにより、グローバル人材の育成を行う教育の推進を行っている点が評価できる。グローバル指標の令和4年度の達成割合について、入学生は65.8%だが、修了生は96.1%であり、対象が異なるため、単純な比較はできないが、産技大での学びにより、修了までに多くの学生がグローバル人材としての力をつけている様子がうかがえる。 | 2 | ◎ 修了生の「グローバル人材」比率96.1%達成(昨年度よりも大幅に向上) | 2 | ◎ グローバル PBL 実施・準備に係る公募を行い、採択された4件について、オンライン等を活用しつつ活動を行った。<br>◎ アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、ハイブリッド形式での理事会と総会セミナーを行った。 | 2 | ◎ 学部同様、TOEIC の目標値を上げている。<br>◎ アジア諸国の水準向上に向けて交流し、ネットワークを創出している。<br>◇ グローバル指標基準に満たしていない学生が数名ほどいるため、その学生への対応策の検討が必要 |
| 評定  | 評定説明   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br><ul style="list-style-type: none"> <li>学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。</li> <li>産技大の特色であるPBL教育を海外と共同で行うことにより、グローバル人材の育成する教育を推進した。</li> <li>アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、アジア諸国との交流を実施した。</li> </ul> |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明（コメント）   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ オンラインを活用した PBL 教育を継続的に行うとともに、アジア諸国との人材育成ネットワークを着実に構築している。  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ グローバル人材の能力指標達成割合96.1%は高く評価できる。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 令和4年度修了生のグローバル人材の能力指標基準を満たす割合は96.1%に達している。その伸びが顕著な点は評価できるが、入学時と修了時の測定方法の一定程度の統一を図り、学生個人の指標ごとの伸びを確認できる体制が整備されると、学修指導にもより活用できると思われる。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 海外と共同で行うグローバル PBL の実施などにより、グローバル人材の育成を行う教育の推進を行っている点が評価できる。グローバル指標の令和4年度の達成割合について、入学生は65.8%だが、修了生は96.1%であり、対象が異なるため、単純な比較はできないが、産技大での学びにより、修了までに多くの学生がグローバル人材としての力をつけている様子がうかがえる。  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 修了生の「グローバル人材」比率96.1%達成(昨年度よりも大幅に向上)  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ グローバル PBL 実施・準備に係る公募を行い、採択された4件について、オンライン等を活用しつつ活動を行った。<br>◎ アジア高度専門職人材育成ネットワーク(APEN: Asia Professional Education Network)を活用し、ハイブリッド形式での理事会と総会セミナーを行った。   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 学部同様、TOEIC の目標値を上げている。<br>◎ アジア諸国の水準向上に向けて交流し、ネットワークを創出している。<br>◇ グローバル指標基準に満たしていない学生が数名ほどいるため、その学生への対応策の検討が必要   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |                                  |   |  |   |   |   |                                       |   |  |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**[大項目 20] 期間評価**

**評価素案**

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合は年々高まっており、目標である8割を達成した。<br>・ コロナ禍以前は参加国・機関、またテーマを増やししながら、またコロナ禍にはオンラインを活用してグローバルPBLを着実に実施した。<br>・ アジア諸国の大学との連携について、コロナ禍においてもオンラインツールを活用し、国際シンポジウム、共同研究、学生や教員の交流等、多彩な活動を行った。 |

**参考意見（案）**

|  |
|--|
|  |
|--|

**委員別評定等**

| 評定 | 評定説明（コメント）  |
|----|---|
| 2  | ◎ グローバル人材の能力評価指標を設定し、これを運用して目標 KPI をクリアしたことは評価に値する。またコロナ前は活発な教員・学生交流のプログラムが実施されていて成果を得た。またコロナにおいてもオンラインを活用してのプログラムを実施した工夫は評価されるものである。   |
| 2  | ◎ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生が目標の8割を達成し、評価できる。   |
| 2  | ◎ コロナ禍以前は参加国・機関、またテーマを増やししながら、またコロナ禍にはオンラインを活用してグローバル PBL を着実に実施し、グローバルに活躍できる高度専門職人材の育成に力を注いできた。  |
| 2  | ◎ グローバル指標達成割合について、年々比率は高まり、令和4年度には、目標の8割を大きく上回る 96.1%となり、グローバル人材の育成が進んでいる点が評価できる。<br>◎ アジア諸国等の大学との連携について、コロナ禍においても、オンラインツールを活用し、国際シンポジウム、共同研究、学生や教員の交流等、多彩な活動が行われた点が評価できる。  |
| 2  | ◎ PBLを軸としたアジア各国の大学と連携推進<br>◇ APENのさらなる拡大発展を期待   |
| 3  | ◎ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が8割を超えて KPI を達成した。<br>◎ アジア諸国の大学ネットワークを活用した PBL 成果に関する海外での大学共催セミナーや、大学職員の受入れ、視察団の受入れ、JAIF 事業の総括会議及びセミナーを開催した。<br>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航や視察受入れが大きく制限された期間には、オンライン形式で、国際シンポジウム、APEN 理事会等を行い、学生や教員の交流を維持しつつ、国際的な教育活動等の取組を国内外に広く発信した。 |
| 2  | ◎ グローバル人材の KPI を設定しそれを達成した。<br>◎ アジア諸国との連携が毎年増加している。<br>◇ 更なる共同大学の拡充が望まれる。  |



| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 |   |      |      |                        |
|---|---|------|------|------------------------|
| 大項目 21<br>教育内容及び教育の成果等  | 小項目   | 主な取組 | 自己評価 |                        |
|   |   |      | 年度   | 期間                     |
|   |   |      | 3-00 | 新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成 |
| 3-01  | 情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施          | S    |      |                        |
| 3-02  | 新教育課程の実施(平成29年度に達成済み)   | -    |      |                        |
| 3-03  | JABEE 受審へ向けた取組  | B    |      |                        |
| 3-04  | デジタル技術の活用による新たな機械系ものづくり実習環境の構築・活用、アクティブ・ラーニング推進とデザイン思考を取り入れた授業の実施 | A    |      |                        |
| 3-05  | 国際的に活躍できる技術者の育成   | A    |      |                        |
| 3-06  | 専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組   | B    |      |                        |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 21] 年度評価  |   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
|--|---|------|-----|--|---|----|------------|---|---|---|---|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、現役エンジニアや関連企業の協力を得ながら、実践的・専門的な知識や技術を身に付けた多くの修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。</li> <li>コース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトにおいて、AIを活用した画像認識のコンペティションなどアクティブ・ラーニングを導入した授業を展開するとともに、都立大人間健康科学研究科の大学院生等と連携して共同研究を実施した。</li> <li>公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見(案)</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | 評定  | 評定説明 | (2) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、現役エンジニアや関連企業の協力を得ながら、実践的・専門的な知識や技術を身に付けた多くの修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。</li> <li>コース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトにおいて、AIを活用した画像認識のコンペティションなどアクティブ・ラーニングを導入した授業を展開するとともに、都立大人間健康科学研究科の大学院生等と連携して共同研究を実施した。</li> <li>公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> </ul> | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者、航空技術者の養成プログラムが実を結びつつあることは評価できる。</li> <li>◎ コロナ禍で中断していた海外体験プログラムも発展的に復活して成果を上げていることは素晴らしい。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「専攻科の学生全員が受講した「先端科学技術特論」の講義の一部を英語で行い、専門英語を体験させることができた。</li> <li>◎ 「グローバル化教育について、他の大学と議論した。」は、学生にとって貴重な経験であり評価できる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ 新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムは40名、航空技術者育成プログラムは31名の履修生を数え、着実に修了生を輩出している。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、40名の履修生を確保するとともに、専攻科プログラムの履修生2名の進路として、セキュリティ企業への就職が決定するなど、実践的、専門的な知識・技術を習得し、社会で活躍する人材を創出している点が評価できる。専攻科科目を現役エンジニアが担当したり、インターンシップを実施するなどして、実社会で役立つ講義、就職への支援なども工夫して行われている。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムについて、31名の履修生を確保するとともに、8名の修了生を輩出し、就職した6人は航空技術に関わる企業への就職を実現している点が評価できる。航空関連企業6社との連携協定により、E-learningによるプログラムを行い、企業と連携しながら航空産業人材の養成に関わる取組を推進した点も評価できる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ JABEE 認定後の指摘事項への取組み</li> <li>◎ 新プログラム(情報・航空)の着実な人材輩出</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 品川キャンパスにおいて新設コースの本科教育を開始した。</li> <li>◎ 荒川キャンパスにおいてコース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトを実施した。</li> <li>◎ 共同研究では、都立大大学院人間健康科学研究科の大学院生等との連携を深めた。</li> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムを40人が履修し、本科12人、専攻科2人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムを31人が履修し、8人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> <li>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、GCP15人、IEP38人の参加があり、参加者は大変高い満足度を得た。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 医工連携教育の実施</li> <li>◎ グローバル人材育成のための海外プログラムの実施</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者、航空技術者の養成プログラムが実を結びつつあることは評価できる。</li> <li>◎ コロナ禍で中断していた海外体験プログラムも発展的に復活して成果を上げていることは素晴らしい。</li> </ul> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「専攻科の学生全員が受講した「先端科学技術特論」の講義の一部を英語で行い、専門英語を体験させることができた。</li> <li>◎ 「グローバル化教育について、他の大学と議論した。」は、学生にとって貴重な経験であり評価できる。</li> </ul> | 1 | ◎ 新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムは40名、航空技術者育成プログラムは31名の履修生を数え、着実に修了生を輩出している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、40名の履修生を確保するとともに、専攻科プログラムの履修生2名の進路として、セキュリティ企業への就職が決定するなど、実践的、専門的な知識・技術を習得し、社会で活躍する人材を創出している点が評価できる。専攻科科目を現役エンジニアが担当したり、インターンシップを実施するなどして、実社会で役立つ講義、就職への支援なども工夫して行われている。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムについて、31名の履修生を確保するとともに、8名の修了生を輩出し、就職した6人は航空技術に関わる企業への就職を実現している点が評価できる。航空関連企業6社との連携協定により、E-learningによるプログラムを行い、企業と連携しながら航空産業人材の養成に関わる取組を推進した点も評価できる。</li> </ul> | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ JABEE 認定後の指摘事項への取組み</li> <li>◎ 新プログラム(情報・航空)の着実な人材輩出</li> </ul> | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 品川キャンパスにおいて新設コースの本科教育を開始した。</li> <li>◎ 荒川キャンパスにおいてコース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトを実施した。</li> <li>◎ 共同研究では、都立大大学院人間健康科学研究科の大学院生等との連携を深めた。</li> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムを40人が履修し、本科12人、専攻科2人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムを31人が履修し、8人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> <li>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、GCP15人、IEP38人の参加があり、参加者は大変高い満足度を得た。</li> </ul> | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 医工連携教育の実施</li> <li>◎ グローバル人材育成のための海外プログラムの実施</li> </ul> |
| 評定   | 評定説明  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| (2)  | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、現役エンジニアや関連企業の協力を得ながら、実践的・専門的な知識や技術を身に付けた多くの修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。</li> <li>コース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトにおいて、AIを活用した画像認識のコンペティションなどアクティブ・ラーニングを導入した授業を展開するとともに、都立大人間健康科学研究科の大学院生等と連携して共同研究を実施した。</li> <li>公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> </ul>  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 評定   | 評定説明(コメント)  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者、航空技術者の養成プログラムが実を結びつつあることは評価できる。</li> <li>◎ コロナ禍で中断していた海外体験プログラムも発展的に復活して成果を上げていることは素晴らしい。</li> </ul>   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「専攻科の学生全員が受講した「先端科学技術特論」の講義の一部を英語で行い、専門英語を体験させることができた。</li> <li>◎ 「グローバル化教育について、他の大学と議論した。」は、学生にとって貴重な経験であり評価できる。</li> </ul>   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 1  | ◎ 新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムは40名、航空技術者育成プログラムは31名の履修生を数え、着実に修了生を輩出している。  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、40名の履修生を確保するとともに、専攻科プログラムの履修生2名の進路として、セキュリティ企業への就職が決定するなど、実践的、専門的な知識・技術を習得し、社会で活躍する人材を創出している点が評価できる。専攻科科目を現役エンジニアが担当したり、インターンシップを実施するなどして、実社会で役立つ講義、就職への支援なども工夫して行われている。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムについて、31名の履修生を確保するとともに、8名の修了生を輩出し、就職した6人は航空技術に関わる企業への就職を実現している点が評価できる。航空関連企業6社との連携協定により、E-learningによるプログラムを行い、企業と連携しながら航空産業人材の養成に関わる取組を推進した点も評価できる。</li> </ul>   |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ JABEE 認定後の指摘事項への取組み</li> <li>◎ 新プログラム(情報・航空)の着実な人材輩出</li> </ul>  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 品川キャンパスにおいて新設コースの本科教育を開始した。</li> <li>◎ 荒川キャンパスにおいてコース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトを実施した。</li> <li>◎ 共同研究では、都立大大学院人間健康科学研究科の大学院生等との連携を深めた。</li> <li>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムを40人が履修し、本科12人、専攻科2人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 公立小中学校教員を対象に、「情報セキュリティ Lab. for Teachers」を対面で開催し、50人以上が受講した。</li> <li>◎ 航空技術者育成プログラムを31人が履修し、8人の修了生を輩出した。</li> <li>◎ 実験実習型の授業において実習教育 DX を実施し、作業の効率性と安全性の両方を向上させることができた。</li> <li>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、GCP15人、IEP38人の参加があり、参加者は大変高い満足度を得た。</li> </ul> |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 医工連携教育の実施</li> <li>◎ グローバル人材育成のための海外プログラムの実施</li> </ul>  |      |     |  |   |    |            |   |   |   |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 21】 期間評価   |  |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|---|--|------|--------|----|-------------|---|--|--|--|--|--|--|---|
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価素案</th> <th>委員別評定等</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6"> <p>(1)</p> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを開設するとともに、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。</li> <li>新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、目標を達成している。</li> <li>令和3年度に機械、電気電子、情報、創造の4プログラムについて、JABEE(技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関)の認定を受けることができた。</li> </ul> </td> <td> <p>◎ 時代の趨勢に対応してコースの再編、横断型プログラム、アクティブラーニング、英語による授業の一部導入などを展開する積極的な改革姿勢は高く評価できる。そしてその教育成果も着実に上がっていることも評価したい。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 「新たな職業教育プログラムの実施」と言うことで、情報セキュリティ技術者育成プログラムを継続実施している点が評価できる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。同様に、新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、専門的技術を生かせる進路実績を積み重ねている。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 産業界や社会の人材ニーズを踏まえ、新たに2つの職業教育プログラムとして、情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムを軌道に乗せ、令和4年度までに、情報セキュリティ技術者育成プログラムは 52 名、航空技術者育成プログラムは 30 名の修了者を輩出した。専門性の高い教育を推進し、修了者を産業界へ送り出した点が評価できる。</p> <p>◎ 令和3年度からは、品川キャンパスにおいて、AI スマート工学コース、情報システム工学コース、荒川キャンパスにおいて、未来工学教育プログラムを開講するなど、これからの新しいものづくりを牽引する次世代の技術者、リーダー育成を目指すプログラムを開講した点も評価できる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 新プログラム(情報・航空)の定着と人材輩出</p> <p>◎ JABEE 認定獲得と定着に向けた取組み</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 品川キャンパスに「AI スマート工学コース」と「情報システム工学コース」を設置した。</p> <p>◎ 荒川キャンパスに「医工連携 教育・研究プロジェクト」の一環として、コース横断の「未来工学教育プログラム」を開講した。</p> <p>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムは、5 年間で本科、専攻科を含めて 52 人の修了者を輩出した。航空技術者育成プログラムについては、4 年間で 30 人の修了者を輩出した。</p> <p>◎ 令和 3(2021)年度に機械、電気電子、情報、創造の 4 プログラムにおいて JABEE を受審し、いずれも認定を受けることができた。</p> <p>◎ 2 つの海外体験プログラム(GCP 及び IEP)を着実に実施した。コロナ禍の影響を受けつつも、多くの参加者があり、オンラインを活用した海外との交流や国内プログラムの活用により学生は高い満足度を得ることができた。</p> <p>◎ 専攻科の一部授業を英語で実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>◎ 実践的技術者育成の横連携を取り入れた医工連携教育、職業教育プログラムの実施</p> <p>◇ コース横断の未来プログラムとしての医工連携教育方法の確立と発信</p> </td> </tr> </tbody> </table> |  | 評価素案 | 委員別評定等 | 評定 | 評定説明 (コメント) | <p>(1)</p> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを開設するとともに、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。</li> <li>新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、目標を達成している。</li> <li>令和3年度に機械、電気電子、情報、創造の4プログラムについて、JABEE(技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関)の認定を受けることができた。</li> </ul> | <p>◎ 時代の趨勢に対応してコースの再編、横断型プログラム、アクティブラーニング、英語による授業の一部導入などを展開する積極的な改革姿勢は高く評価できる。そしてその教育成果も着実に上がっていることも評価したい。</p> | <p>◎ 「新たな職業教育プログラムの実施」と言うことで、情報セキュリティ技術者育成プログラムを継続実施している点が評価できる。</p> | <p>◎ 社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。同様に、新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、専門的技術を生かせる進路実績を積み重ねている。</p> | <p>◎ 産業界や社会の人材ニーズを踏まえ、新たに2つの職業教育プログラムとして、情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムを軌道に乗せ、令和4年度までに、情報セキュリティ技術者育成プログラムは 52 名、航空技術者育成プログラムは 30 名の修了者を輩出した。専門性の高い教育を推進し、修了者を産業界へ送り出した点が評価できる。</p> <p>◎ 令和3年度からは、品川キャンパスにおいて、AI スマート工学コース、情報システム工学コース、荒川キャンパスにおいて、未来工学教育プログラムを開講するなど、これからの新しいものづくりを牽引する次世代の技術者、リーダー育成を目指すプログラムを開講した点も評価できる。</p> | <p>◎ 新プログラム(情報・航空)の定着と人材輩出</p> <p>◎ JABEE 認定獲得と定着に向けた取組み</p> | <p>◎ 品川キャンパスに「AI スマート工学コース」と「情報システム工学コース」を設置した。</p> <p>◎ 荒川キャンパスに「医工連携 教育・研究プロジェクト」の一環として、コース横断の「未来工学教育プログラム」を開講した。</p> <p>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムは、5 年間で本科、専攻科を含めて 52 人の修了者を輩出した。航空技術者育成プログラムについては、4 年間で 30 人の修了者を輩出した。</p> <p>◎ 令和 3(2021)年度に機械、電気電子、情報、創造の 4 プログラムにおいて JABEE を受審し、いずれも認定を受けることができた。</p> <p>◎ 2 つの海外体験プログラム(GCP 及び IEP)を着実に実施した。コロナ禍の影響を受けつつも、多くの参加者があり、オンラインを活用した海外との交流や国内プログラムの活用により学生は高い満足度を得ることができた。</p> <p>◎ 専攻科の一部授業を英語で実施した。</p> | <p>◎ 実践的技術者育成の横連携を取り入れた医工連携教育、職業教育プログラムの実施</p> <p>◇ コース横断の未来プログラムとしての医工連携教育方法の確立と発信</p> |
| 評価素案  | 委員別評定等   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
| 評定  | 評定説明 (コメント)  |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
| <p>(1)</p> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを開設するとともに、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。</li> <li>新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、目標を達成している。</li> <li>令和3年度に機械、電気電子、情報、創造の4プログラムについて、JABEE(技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関)の認定を受けることができた。</li> </ul>   | <p>◎ 時代の趨勢に対応してコースの再編、横断型プログラム、アクティブラーニング、英語による授業の一部導入などを展開する積極的な改革姿勢は高く評価できる。そしてその教育成果も着実に上がっていることも評価したい。</p>   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|   | <p>◎ 「新たな職業教育プログラムの実施」と言うことで、情報セキュリティ技術者育成プログラムを継続実施している点が評価できる。</p>   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|   | <p>◎ 社会のニーズに応える実践的技術者の育成を目指し、品川キャンパスでは AI スマート工学コースと情報システム工学コースを、荒川キャンパスでは医工連携の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。同様に、新たな職業教育プログラムとして実施した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムでは着実に修了生を輩出し、専門的技術を生かせる進路実績を積み重ねている。</p>   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|   | <p>◎ 産業界や社会の人材ニーズを踏まえ、新たに2つの職業教育プログラムとして、情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムを軌道に乗せ、令和4年度までに、情報セキュリティ技術者育成プログラムは 52 名、航空技術者育成プログラムは 30 名の修了者を輩出した。専門性の高い教育を推進し、修了者を産業界へ送り出した点が評価できる。</p> <p>◎ 令和3年度からは、品川キャンパスにおいて、AI スマート工学コース、情報システム工学コース、荒川キャンパスにおいて、未来工学教育プログラムを開講するなど、これからの新しいものづくりを牽引する次世代の技術者、リーダー育成を目指すプログラムを開講した点も評価できる。</p>   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|   | <p>◎ 新プログラム(情報・航空)の定着と人材輩出</p> <p>◎ JABEE 認定獲得と定着に向けた取組み</p>   |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
|   | <p>◎ 品川キャンパスに「AI スマート工学コース」と「情報システム工学コース」を設置した。</p> <p>◎ 荒川キャンパスに「医工連携 教育・研究プロジェクト」の一環として、コース横断の「未来工学教育プログラム」を開講した。</p> <p>◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムは、5 年間で本科、専攻科を含めて 52 人の修了者を輩出した。航空技術者育成プログラムについては、4 年間で 30 人の修了者を輩出した。</p> <p>◎ 令和 3(2021)年度に機械、電気電子、情報、創造の 4 プログラムにおいて JABEE を受審し、いずれも認定を受けることができた。</p> <p>◎ 2 つの海外体験プログラム(GCP 及び IEP)を着実に実施した。コロナ禍の影響を受けつつも、多くの参加者があり、オンラインを活用した海外との交流や国内プログラムの活用により学生は高い満足度を得ることができた。</p> <p>◎ 専攻科の一部授業を英語で実施した。</p> |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
| <p>◎ 実践的技術者育成の横連携を取り入れた医工連携教育、職業教育プログラムの実施</p> <p>◇ コース横断の未来プログラムとしての医工連携教育方法の確立と発信</p>   |  |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |
| <p>参考意見 (案)</p>   |  |      |        |    |             |   |  |  |  |  |  |  |   |

|   |      |                               |       |
|---|------|-------------------------------|-------|
| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 |      |                               |       |
| <b>大項目 22</b><br>教育の実施体制等<br>【教育システムの継続的な改善、他の教育機関等との連携】  | 小項目  | 主な取組                          | 自己評価  |
|   |      |                               | 年度 期間 |
|   | 3-07 | 運営協力者会議等を活用した教育内容の改善          | B B   |
|   | 3-08 | 都立工業高校との接続プログラムの実施            | B A   |
|   | 3-09 | 産技大・都立大と連携した GCP 実施、2大学1高専の連携 |       |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 22】 年度評価   |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
|---|--|------|-----|---|---|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|--|---|--|---|--|
| <b>評価素案</b><br><table border="1"> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、コロナ禍で途絶えていた海外派遣プログラムを再開した。</td> </tr> </table> | 評定   | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、コロナ禍で途絶えていた海外派遣プログラムを再開した。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1"> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、シンガポールでの海外プログラムを実施した点が評価できる。国内プログラム、全体研修、国内合宿研修、最終報告会等、海外プログラムの前後に研修や報告会を設けるなど、十分な準備、振り返りが可能なプログラムとなっている点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 産技大、都立大との連携によりコロナ禍で途絶えていた GCP を再開した。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 工業高校からの編入学生獲得にむけて方策の検討が必要では？入学後に補えることがあれば要件を緩和することも検討。</td> </tr> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 2 | ◎ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、シンガポールでの海外プログラムを実施した点が評価できる。国内プログラム、全体研修、国内合宿研修、最終報告会等、海外プログラムの前後に研修や報告会を設けるなど、十分な準備、振り返りが可能なプログラムとなっている点も評価できる。 | 3 |  | 3 | ◎ 産技大、都立大との連携によりコロナ禍で途絶えていた GCP を再開した。 | 3 | ◇ 工業高校からの編入学生獲得にむけて方策の検討が必要では？入学後に補えることがあれば要件を緩和することも検討。 |
| 評定  | 評定説明   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、コロナ禍で途絶えていた海外派遣プログラムを再開した。  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明(コメント)   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、感染症対策を十分にとりながら、産技大、都立大と連携して、シンガポールでの海外プログラムを実施した点が評価できる。国内プログラム、全体研修、国内合宿研修、最終報告会等、海外プログラムの前後に研修や報告会を設けるなど、十分な準備、振り返りが可能なプログラムとなっている点も評価できる。 |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   | ◎ 産技大、都立大との連携によりコロナ禍で途絶えていた GCP を再開した。   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| 3   | ◇ 工業高校からの編入学生獲得にむけて方策の検討が必要では？入学後に補えることがあれば要件を緩和することも検討。   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |
| <b>参考意見(案)</b><br>・ 工業高校からの編入学生獲得にむけて方策の検討が必要では。入学後に補えることがあれば要件を緩和することも検討。  |  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 22】 期間評価  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
|--|--|------|-----|--|---|----|-------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 運営協力者会議を毎年開催し、産業界のニーズなど、多くの意見をコース等にフィードバックすることで、教育内容の改善を図った。<br/><br/>                     ・ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。<br/><br/>                     ◇更なる充実が期待される点<br/>                     ・ グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けた新たな渡航先の調査や、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことを期待する。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定   | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 運営協力者会議を毎年開催し、産業界のニーズなど、多くの意見をコース等にフィードバックすることで、教育内容の改善を図った。<br><br>・ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けた新たな渡航先の調査や、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことを期待する。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 東京都立産業技術大学院大学、東京都立大学等との連携について、グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けて新たな渡航先につながる調査等の実施、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた点が評価できる。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことが期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 運営協力者会議を毎年開催し、多くの意見をコース等にフィードバックし、カリキュラムや実習内容の精査を行った。<br/>◎ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 外部評価を受けながら産業界のニーズを実習等に取り入れる努力をし、企業との連携強化に努め、さらに海外でのプログラムを実施した</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明 (コメント) | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 3 | ◇ 東京都立産業技術大学院大学、東京都立大学等との連携について、グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けて新たな渡航先につながる調査等の実施、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた点が評価できる。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことが期待される。 | 3 |  | 3 | ◎ 運営協力者会議を毎年開催し、多くの意見をコース等にフィードバックし、カリキュラムや実習内容の精査を行った。<br>◎ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。 | 2 | ◎ 外部評価を受けながら産業界のニーズを実習等に取り入れる努力をし、企業との連携強化に努め、さらに海外でのプログラムを実施した |
| 評定   | 評定説明   |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 運営協力者会議を毎年開催し、産業界のニーズなど、多くの意見をコース等にフィードバックすることで、教育内容の改善を図った。<br><br>・ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けた新たな渡航先の調査や、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことを期待する。 |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 評定   | 評定説明 (コメント)  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  | ◇ 東京都立産業技術大学院大学、東京都立大学等との連携について、グローバル・コミュニケーション・プログラムの強化・改善に向けて新たな渡航先につながる調査等の実施、共同研究の活性化に向けた教員間連携の仕組みの構築が行われた点が評価できる。今後、これらの取組により、2大学1高専の連携がさらに進むことが期待される。  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 3  | ◎ 運営協力者会議を毎年開催し、多くの意見をコース等にフィードバックし、カリキュラムや実習内容の精査を行った。<br>◎ 事前に数学、専門科目の補習を実施することにより、都立工業高校からの編入学生の受入がスムーズに行われ、全ての編入学生は編入学の通常(2年間)で卒業できた。  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| 2  | ◎ 外部評価を受けながら産業界のニーズを実習等に取り入れる努力をし、企業との連携強化に努め、さらに海外でのプログラムを実施した  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |
| <b>参考意見 (案)</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>  |  |      |     |  |   |    |             |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |   |

| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 |      |                               |       |
|---|------|-------------------------------|-------|
| <b>大項目 23</b><br>教育の実施体制等<br>【教育の質の評価・改善】   | 小項目  | 主な取組                          | 自己評価  |
|   |      |                               | 年度 期間 |
|   | 3-10 | 学生の学習到達度評価の充実(平成30年度に達成済)     | -     |
|   | 3-11 | 機関別認証評価を踏まえた改善策の実施(令和2年度に達成済) | -     |
|   | 3-12 | 更なる教育の質の向上へ向けた教員研修の取組         | B     |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 23】年度評価  |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
|---|--|------|-----|--|---|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|------------------|---|---|---|--|
| <b>評価素案</b><br><table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 教員を対象とした新任研修、昇任者研修、管理職研修及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった。<br/>                     ・ 技術職員を対象として、地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行う研修を実施するなど、教職員のニーズに応じた研修機会の充実を図った。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定   | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教員を対象とした新任研修、昇任者研修、管理職研修及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった。<br>・ 技術職員を対象として、地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行う研修を実施するなど、教職員のニーズに応じた研修機会の充実を図った。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 技能職員を対象として地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行い、職員に対する研修機会の充実を図った点が評価できる。今後も教職員のニーズに応じた研修機会の充実が期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 教員の研修参加率100%継続</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 新任研修、昇任者研修、管理職研修の参加率及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 技能職員を対象として地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行い、職員に対する研修機会の充実を図った点が評価できる。今後も教職員のニーズに応じた研修機会の充実が期待される。 | 3 | ◎ 教員の研修参加率100%継続 | 3 | ◎ 新任研修、昇任者研修、管理職研修の参加率及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった | 3 |  |
| 評定  | 評定説明   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教員を対象とした新任研修、昇任者研修、管理職研修及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった。<br>・ 技術職員を対象として、地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行う研修を実施するなど、教職員のニーズに応じた研修機会の充実を図った。 |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 評定  | 評定説明(コメント)   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 技能職員を対象として地域のものづくり企業の見学や社員との意見交換を行い、職員に対する研修機会の充実を図った点が評価できる。今後も教職員のニーズに応じた研修機会の充実が期待される。  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 教員の研修参加率100%継続   |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 新任研修、昇任者研修、管理職研修の参加率及び個別課題研修の参加率がいずれも100%であった  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
| <b>参考意見(案)</b><br><table border="1"> <tbody> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |
|   |  |      |     |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |                  |   |   |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 23】 期間評価**

| 評価素案           |  | 委員別評定等 |   |
|----------------|--|--------|---|
| 評定             | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| <b>(3)</b>     | ◎優れた点・特色ある点<br>・ ルーブリック作成要領を整備し、授業改善に向けた課題発掘を可能とするとともに、カリキュラムマップを見直すなど、教育の質の改善に取り組んだ。<br><br>・ 教員の新任研修、昇任者研修及び管理職研修について、中期目標期間を通して参加率 100%を実現するなど、目標を達成し、教育レベルの向上を図っている。 | 3      |   |
|                |  | 3      |   |
|                |  | 3      |   |
|                |  | 3      | ◎ 教員研修について、新任研修、昇任者研修、管理職研修は平成 29 年度～平成4年度まで毎年 100%、個別課題研修は令和3年度以降 100%となっており、目標に達している点が評価でき、教育レベルの向上が図られている。技術職員の教育及び技能の資質向上を図るための取組の推進も期待される。   |
|                |  | 2      | ◎ 各種研修への教員参加率100達成  |
| <b>参考意見(案)</b> |  | 3      | ◎ ルーブリック作成要領を整備したことで、教員による自己評価と学生による他者評価が行えるようになり、授業改善に向けた課題発掘が可能となった。<br>◎ 機関別認証評価を受審し、「適」であるとの認証を受けた。<br>◎ 学生の課外活動を支援する顧問等の役割を明確にしたほか、課外活動に関する指導方針を作成し、クラブ活動指導員を導入するなどの改善を行った。<br>◎ 中期目標期間を通して、新任研修、昇任者研修及び管理職研修の参加率 100%、個別課題研修の参加率 80%以上であり、KPI を達成し、教育レベルのアップにつながった。 |
|                |  | 2      | ◎ カリキュラムマップを作成・活用しての教育内容の精選は教育内容の更なる体系化につながる。   |

|   |      |  |       |
|---|------|--|-------|
| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 |      |  |       |
| 大項目 24<br>学生への支援  | 小項目  | 主な取組                                     | 自己評価  |
|   |      |  | 年度 期間 |
|   | 3-13 | 多様な課外活動の支援、学生相談体制の強化、経済的支援の拡充            | A     |
|   | 3-14 | 体系化したキャリア支援の実施、キャリアポートフォリオを活用したキャリア支援の試行 | B A   |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 24】 年度評価   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
|---|---|------|-----|---|--|---|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|---|------------------|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 未来工房プロジェクトなど、充実した課外活動支援を実施し、支援を受けた団体が大会で上位の成績を収めるなど、課外活動の活性化のみならず、高専の知名度向上にもつなげた。<br/>                     ・ クラブ活動指導員を導入し、指導内容の充実や活動の活性化を図り、全国大会への進出を果たすなど、学生生活の充実に向けた取組を推進した。<br/>                     ・ キャリアポートフォリオを活用し、学生に早期から自らの将来に対する目的意識を持たせるなど、きめ細かなキャリア支援を充実させた。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見(案)</b></p> <table border="1"> <tr> <td style="height: 50px;"></td> </tr> </table> | 評定  | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 未来工房プロジェクトなど、充実した課外活動支援を実施し、支援を受けた団体が大会で上位の成績を収めるなど、課外活動の活性化のみならず、高専の知名度向上にもつなげた。<br>・ クラブ活動指導員を導入し、指導内容の充実や活動の活性化を図り、全国大会への進出を果たすなど、学生生活の充実に向けた取組を推進した。<br>・ キャリアポートフォリオを活用し、学生に早期から自らの将来に対する目的意識を持たせるなど、きめ細かなキャリア支援を充実させた。 |  | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクトや未来工房ジュニア等の充実した支援制度やキャリアポートフォリオの活用を継続して活発に活用している点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ クラブ活動指導員による課外活動の活性化の成果は、全国大会への出場にも表れている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニア、提案公募方式による課外活動支援など、多様な課外活動支援が行われている点が評価できる。提案公募形式による課外活動では、支援を受けた団体それぞれが大会で上位の成績を収めており、学生の支援のみならず、高専の知名度向上にも貢献している。<br/>◎ クラブ指導員の導入について、クラブ顧問の負担軽減を図ることに加え、全国大会への出場を果たすなど、クラブ活動の活性化、学生の学生生活の充実も行われた点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクト(申請8件、採択7件)及び未来工房ジュニア(申請8件、採択8件)を実施し、両キャンパスの文化祭で成果発表会を開催した。<br/>◎ クラブ活動の指導内容を充実させることを目的としてクラブ活動指導員を導入(品川キャンパス5人(6クラブ)、荒川キャンパス7人(7クラブ))したことで、全国大会への進出を果たすなど、練習内容の充実、活動自体の活性化等の効果が見られた。<br/>◎ キャリア支援講座を実施し、多くの参加者があった。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ キャリアポートフォリオを活用</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 3 |  | 2 | ◎ 未来工房プロジェクトや未来工房ジュニア等の充実した支援制度やキャリアポートフォリオの活用を継続して活発に活用している点が評価できる。 | 2 | ◎ クラブ活動指導員による課外活動の活性化の成果は、全国大会への出場にも表れている。 | 2 | ◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニア、提案公募方式による課外活動支援など、多様な課外活動支援が行われている点が評価できる。提案公募形式による課外活動では、支援を受けた団体それぞれが大会で上位の成績を収めており、学生の支援のみならず、高専の知名度向上にも貢献している。<br>◎ クラブ指導員の導入について、クラブ顧問の負担軽減を図ることに加え、全国大会への出場を果たすなど、クラブ活動の活性化、学生の学生生活の充実も行われた点が評価できる。 | 3 |  | 2 | ◎ 課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクト(申請8件、採択7件)及び未来工房ジュニア(申請8件、採択8件)を実施し、両キャンパスの文化祭で成果発表会を開催した。<br>◎ クラブ活動の指導内容を充実させることを目的としてクラブ活動指導員を導入(品川キャンパス5人(6クラブ)、荒川キャンパス7人(7クラブ))したことで、全国大会への進出を果たすなど、練習内容の充実、活動自体の活性化等の効果が見られた。<br>◎ キャリア支援講座を実施し、多くの参加者があった。 | 2 | ◎ キャリアポートフォリオを活用 |
| 評定  | 評定説明  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 未来工房プロジェクトなど、充実した課外活動支援を実施し、支援を受けた団体が大会で上位の成績を収めるなど、課外活動の活性化のみならず、高専の知名度向上にもつなげた。<br>・ クラブ活動指導員を導入し、指導内容の充実や活動の活性化を図り、全国大会への進出を果たすなど、学生生活の充実に向けた取組を推進した。<br>・ キャリアポートフォリオを活用し、学生に早期から自らの将来に対する目的意識を持たせるなど、きめ細かなキャリア支援を充実させた。 |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
|   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 評定  | 評定説明(コメント)  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 3   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 2   | ◎ 未来工房プロジェクトや未来工房ジュニア等の充実した支援制度やキャリアポートフォリオの活用を継続して活発に活用している点が評価できる。  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 2   | ◎ クラブ活動指導員による課外活動の活性化の成果は、全国大会への出場にも表れている。  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 2   | ◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニア、提案公募方式による課外活動支援など、多様な課外活動支援が行われている点が評価できる。提案公募形式による課外活動では、支援を受けた団体それぞれが大会で上位の成績を収めており、学生の支援のみならず、高専の知名度向上にも貢献している。<br>◎ クラブ指導員の導入について、クラブ顧問の負担軽減を図ることに加え、全国大会への出場を果たすなど、クラブ活動の活性化、学生の学生生活の充実も行われた点が評価できる。               |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 3   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 2   | ◎ 課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクト(申請8件、採択7件)及び未来工房ジュニア(申請8件、採択8件)を実施し、両キャンパスの文化祭で成果発表会を開催した。<br>◎ クラブ活動の指導内容を充実させることを目的としてクラブ活動指導員を導入(品川キャンパス5人(6クラブ)、荒川キャンパス7人(7クラブ))したことで、全国大会への進出を果たすなど、練習内容の充実、活動自体の活性化等の効果が見られた。<br>◎ キャリア支援講座を実施し、多くの参加者があった。  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |
| 2   | ◎ キャリアポートフォリオを活用  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |                  |

【評定（期間評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 24】 期間評価

評価素案

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 未来工房プロジェクトによる支援やクラブ活動指導員の導入など、多様な課外活動への支援を実施し、全国大会への出場などの成果につなげた。<br>・ キャリアポートフォリオを導入し、学生に早期からキャリアについて検討させるなど、キャリア支援を充実しており、高い進路決定率を実現している。 |

参考意見（案）

|  |
|--|
|  |
|--|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明（コメント）  |
|----|---|
| 2  | ◎ 未来工房プロジェクトなどユニークな課外課外活動支援が実を結んでいる。  |
| 2  | ◎ キャリアポートフォリオの活用により3年生、4年生の早期からキャリアについて学生自身に検討をさせており、学生の自己分析や進路の選択に役立ちが大きいと考えられ評価できる。   |
| 2  | ◎ 未来工房プロジェクトやクラブ活動指導員など、学生への経済的支援も含めて学生支援が拡充され、多様な課外活動が推進されている。   |
| 2  | ◎ 未来工房プロジェクト、クラブ活動指導員の導入などにより、全国大会出場を果たすなど、課外活動の充実を図っている点が評価できる。  |
| 2  | ◎ (コロナ下で)課外活動支援の取組みを継続  |
| 3  | ◎ 未来工房プロジェクトによる支援やクラブ活動指導員の導入により課外活動への支援を充実させることで、全国大会への出場などの成果につながった。<br>◎ キャリアポートフォリオの導入と検証を行い、キャリア支援を充実させることより、本科・専攻科とも高い進路決定率となった |
| 2  | ◎ ポートフォリオを活用したキャリア支援の実践に取り組み、検証につなげている点<br>◇ 上記検証の結果を学会等で報告してほしい  |



| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置 |                   |      |      |                   |
|--|-------------------|------|------|-------------------|
| 大項目 25<br>入学者選抜  | 小項目               | 主な取組 | 自己評価 |                   |
|  |                   |      | 年度   | 期間                |
|  |                   |      | 3-15 | 特別推薦入試制度の実施に向けた取組 |
| 3-16   | 女子学生確保に向けた取組      | A    |      |                   |
| 3-17   | ターゲットを定めた戦略的な広報活動 | A    |      |                   |

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 25】 年度評価   |  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
|---|--|------|-----|---|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|--|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度について、令和4年度から募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また、中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び説明会を実施しており、特別推薦入試による入学希望者も増加している。<br/>・女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載するなど工夫を行い、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保した。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見(案)</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | 評定   | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度について、令和4年度から募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また、中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び説明会を実施しており、特別推薦入試による入学希望者も増加している。<br>・女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載するなど工夫を行い、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保した。 | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度では募集人員を増加し、計4名の学生を受入れた。<br/>◎女子学生が増加し、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保している。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎特別推薦入試制度について、品川区、荒川区と協定を締結し、令和5(2023)年度も4名の受け入れが決定した点が評価できる。中学2年生や保護者に対する説明会の開催などにより、入学希望者の増加も図っている。<br/>◎女性学生確保に向けて、女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載する等、取組の工夫を行い、令和5(2023)年度入試における女子入学者数は令和3年度と同数で最多の49名を確保した点が評価できる。出願時アンケートも行い、女子志願者のニーズに合った情報提供の工夫を行うための情報収集を行っている点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎特別推薦枠4名の充足を継続<br/>◇女子入学者数の増加(令和5年度は入学者数減)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎特別推薦入試の対象となる中学2年生とその保護者を対象に、スクーリング及び特別推薦入試説明会を実施し、特別推薦入試による入学希望者が増加した。<br/>◎令和5(2023)年度入試による女子入学者はこれまで最多の令和3(2021)年度と同数の49人(14.8%)であった。<br/>◎受検生に近い学生のアイデアにより、ニーズが高い情報の更なる発信が期待できる。学生広報チームに本科生11人の応募があり、令和5(2023)年度からの活動が決定した。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎品川区の中学生保護者に向けた働きかけは、早期から都立高専を目指す意識を育むことにつながる。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 3 |  | 3 |  | 2 | ◎品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度では募集人員を増加し、計4名の学生を受入れた。<br>◎女子学生が増加し、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保している。 | 2 | ◎特別推薦入試制度について、品川区、荒川区と協定を締結し、令和5(2023)年度も4名の受け入れが決定した点が評価できる。中学2年生や保護者に対する説明会の開催などにより、入学希望者の増加も図っている。<br>◎女性学生確保に向けて、女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載する等、取組の工夫を行い、令和5(2023)年度入試における女子入学者数は令和3年度と同数で最多の49名を確保した点が評価できる。出願時アンケートも行い、女子志願者のニーズに合った情報提供の工夫を行うための情報収集を行っている点も評価できる。 | 2 | ◎特別推薦枠4名の充足を継続<br>◇女子入学者数の増加(令和5年度は入学者数減) | 1 | ◎特別推薦入試の対象となる中学2年生とその保護者を対象に、スクーリング及び特別推薦入試説明会を実施し、特別推薦入試による入学希望者が増加した。<br>◎令和5(2023)年度入試による女子入学者はこれまで最多の令和3(2021)年度と同数の49人(14.8%)であった。<br>◎受検生に近い学生のアイデアにより、ニーズが高い情報の更なる発信が期待できる。学生広報チームに本科生11人の応募があり、令和5(2023)年度からの活動が決定した。 | 2 | ◎品川区の中学生保護者に向けた働きかけは、早期から都立高専を目指す意識を育むことにつながる。 |
| 評定  | 評定説明   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度について、令和4年度から募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また、中学2年生とその保護者を対象としたスクーリング及び説明会を実施しており、特別推薦入試による入学希望者も増加している。<br>・女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載するなど工夫を行い、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保した。  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 評定  | 評定説明(コメント)   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 3   |  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 2   | ◎品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度では募集人員を増加し、計4名の学生を受入れた。<br>◎女子学生が増加し、令和5年度入試では過去最多と同数の49人の女子入学者を確保している。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 2   | ◎特別推薦入試制度について、品川区、荒川区と協定を締結し、令和5(2023)年度も4名の受け入れが決定した点が評価できる。中学2年生や保護者に対する説明会の開催などにより、入学希望者の増加も図っている。<br>◎女性学生確保に向けて、女子在校生のインタビューや女子学生向けキャリア支援講座の様子を公式ホームページに掲載する等、取組の工夫を行い、令和5(2023)年度入試における女子入学者数は令和3年度と同数で最多の49名を確保した点が評価できる。出願時アンケートも行い、女子志願者のニーズに合った情報提供の工夫を行うための情報収集を行っている点も評価できる。 |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 2   | ◎特別推薦枠4名の充足を継続<br>◇女子入学者数の増加(令和5年度は入学者数減)  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 1   | ◎特別推薦入試の対象となる中学2年生とその保護者を対象に、スクーリング及び特別推薦入試説明会を実施し、特別推薦入試による入学希望者が増加した。<br>◎令和5(2023)年度入試による女子入学者はこれまで最多の令和3(2021)年度と同数の49人(14.8%)であった。<br>◎受検生に近い学生のアイデアにより、ニーズが高い情報の更なる発信が期待できる。学生広報チームに本科生11人の応募があり、令和5(2023)年度からの活動が決定した。  |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |
| 2   | ◎品川区の中学生保護者に向けた働きかけは、早期から都立高専を目指す意識を育むことにつながる。   |      |     |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 25】 期間評価

| 評価素案           |   | 委員別評定等 |   |
|----------------|---|--------|---|
| 評定             | 評定説明  | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (2)            | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別推薦入試制度について、品川区に加え荒川区と協定を締結して、令和4年度より募集人員を4人に拡大する目標を達成し、ものづくりに意欲的な学生の確保を行っている。</li> <li>女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページにおけるコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生数が着実に増加している。</li> <li>ホームページや各種 SNS を活用した積極的な広報活動を展開し、公式コンテンツのアクセス数・フォロワー数を増加させている。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般入試の志願倍率が、令和3年度入試以降、2倍を下回り、伸び悩んでいることから、回復に向けた更なる取組を期待する。</li> </ul> | 2      | ◎ 入学希望者を増加するための方策として、特別推薦入試制度の拡大、ホームページの女子向け情報提供、各種 SNS の活用などを展開して徐々に成果を上げつつあり、こうした努力は評価されるべきである  |
|                |   | 2      | ◎ 中期計画の6年間を通じて「②女子学生の志願者確保に向けた取組を推進」している点が評価できる。  |
|                |   | 2      | ◎ 積極的な広報活動により、すべての公式コンテンツのアクセス数・フォロワー数が大幅に増加した。また、女子学生の志願者確保に向けて注力し、女子学生の割合も増加してきている。   |
|                |   | 2      | ◎ 品川区、荒川区と協定を締結して、特別推薦入試制度の募集枠を設けるとともに、令和4年度より、1人枠のところ4人に拡大し、目標を達成し、ものづくりに意欲的な学生の確保を行った点が評価できる。特別推薦による入学を希望する生徒は2回のスクーリングに参加するなど、選抜にあたっての取組も工夫している。   |
|                |   | 2      | ◎ (令和5年度は減少したが)女子入学者数の漸増<br>◎ 広報活動への取組みとアクセス件数の向上<br>◇ 一般入試倍率で2倍超を達成して欲しい   |
|                |   | 1      | ◎ 特別推薦入試制度について、品川区及び荒川区と協定を締結し、令和4年度入試までに募集人員を4人に増大する目標を達成している。<br>◎ 女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページにおけるコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生数が着実に増加している。<br>◎ ホームページや SNS の活用にも注力し、効果的な情報発信を行うことで、アクセス数、フォロワー数等を直実に増加させることができた。 |
|                |   | 2      | ◎ 地元自治体と連携した入試制度を作ることは、流動性が高い東京に一定割合の定着促進を図るためにも意義がある。<br>◇ 中小企業が多い他の区にも拡充してほしい   |
| <p>参考意見(案)</p> |   |        |   |

| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 |                           |                                  |       |   |
|--|---------------------------|----------------------------------|-------|---|
| <b>大項目 26</b><br>研究  | 小項目                       | 主な取組                             | 自己評価  |   |
|  |                           |                                  | 年度 期間 |   |
|  | 3-18                      | 外部資金獲得に資する支援等、特別研究期間取得教員増加へ向けた取組 | A     | B |
|  | 3-19                      | 東京 2020 大会プロジェクト型教育研究(令和元年度に達成済) | -     |   |
| 3-20   | 都立大・産技大と連携した共同研究の充実に向けた取組 | B                                |       |   |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 26】 年度評価   |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
|---|---|------|-----|--|--|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|
| <b>評価素案</b>   | <b>委員別評定等</b>   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・ 科学研究費獲得の拡大に向け、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を専門業者に委託するとともに、都立大と連携して支援を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図っている。</td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点<br/>・ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備を行い、令和5年度の取得予定者が増加した。引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待する。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定  | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 科学研究費獲得の拡大に向け、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を専門業者に委託するとともに、都立大と連携して支援を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図っている。 | ◇更なる充実が期待される点<br>・ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備を行い、令和5年度の取得予定者が増加した。引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待する。 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備が行われ、令和5年度予定の取得者が増加した。役職や業務の分担上難しい面もあろうが、引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待したい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 科学研究費獲得支援事業について、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を外部専門業者に委託して支援したり、都立大と連携して「科研費獲得向上に向けた支援」を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図った点が評価できる。令和5(2023)年度の申請件数は36件となり、前年の29件から増加している。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 特別研究期間制度の着実な実施に向けて、校務分掌への配慮や分散取得を認めるなど、特別研究期間を取得しやすい環境整備を行った。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備が行われ、令和5年度予定の取得者が増加した。役職や業務の分担上難しい面もあろうが、引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待したい。 | 3 | ◎ 科学研究費獲得支援事業について、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を外部専門業者に委託して支援したり、都立大と連携して「科研費獲得向上に向けた支援」を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図った点が評価できる。令和5(2023)年度の申請件数は36件となり、前年の29件から増加している。 | 3 |  | 3 | ◎ 特別研究期間制度の着実な実施に向けて、校務分掌への配慮や分散取得を認めるなど、特別研究期間を取得しやすい環境整備を行った。 | 3 |  |
| 評定  | 評定説明  |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 科学研究費獲得の拡大に向け、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を専門業者に委託するとともに、都立大と連携して支援を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図っている。  |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
|   | ◇更なる充実が期待される点<br>・ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備を行い、令和5年度の取得予定者が増加した。引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待する。  |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 評定  | 評定説明(コメント)  |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 特別研究期間制度を取得しやすいように取得者の年齢制限の撤廃、取得時期の分散などの環境整備が行われ、令和5年度予定の取得者が増加した。役職や業務の分担上難しい面もあろうが、引き続き取得しやすい環境づくりが進むことを期待したい。                                    |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 科学研究費獲得支援事業について、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を外部専門業者に委託して支援したり、都立大と連携して「科研費獲得向上に向けた支援」を行う仕組みを構築する等、取組の充実を図った点が評価できる。令和5(2023)年度の申請件数は36件となり、前年の29件から増加している。 |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   | ◎ 特別研究期間制度の着実な実施に向けて、校務分掌への配慮や分散取得を認めるなど、特別研究期間を取得しやすい環境整備を行った。   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3   |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| <b>参考意見(案)</b>  |   |      |     |  |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 26】 期間評価

| 評価素案 |  | 委員別評定等 |  |
|------|--|--------|--|
| 評定   | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 高専の専攻科生とその指導教員の研究に、都立大・産技大の教員が協力して実施する共同研究を毎年度公募し、6年間で25件のプロジェクトを採択した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ 特別研究期間制度について、年齢や職位の制限をなくすなどの取組を行ったが、最高でも年間2人の利用であった。引き続き、取得の促進に向けた取組、働きかけを期待する。<br><br>・ 都立大・産技大との共同研究について、令和4年度に導入した研究者間のマッチングの仕組みの活用などにより、更に拡充することを期待する。 | 3      |  |
|      |  | 3      |  |
|      |  | 3      |  |
|      |  | 3      | ◇ 特別研究期間制度について、取得教員が目標の年間4人となるよう、年齢や職位の制限をなくすといった制度変更を行い、継続した働きかけも行われたが、最高でも年間2人の利用であった。引き続き、取得の促進に向けた取組、働きかけが期待される。 |
|      |  | 3      | ◇ 都立大、産技大との連携強化  |
|      |  | 3      | ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」を実施し、高専の教員と都立大・産技大の教員との共同研究を毎年公募するとともに、効果的な連携に向けて研究者マッチングの仕組みを構築した。           |
|      | 参考意見(案)  | 2      | ◎ 2 大学との協働のためにマッチングを取り入れたこと。<br>◇ 2 大学と今後の共同研究の拡充を図る<br>◇ 特別研究期間制度の活用の周知を図る  |

|   |      |   |      |    |
|---|------|---|------|----|
| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置 |      |   |      |    |
| <b>大項目 27</b><br>都政との連携   | 小項目  | 主な取組  | 自己評価 |    |
|   |      |   | 年度   | 期間 |
|   | 3-21 | 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会支援に向けた取組(令和元年度に達成済)                                       | -    | A  |
|   | 3-22 | ものづくり人材の育成に貢献する小中学校向けの情報セキュリティ研修の実施、出前授業、理科・技術サポーターの派遣、情報セキュリティに関する都職員向け講座の実施に向けた取組 | A    | A  |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 27】 年度評価   |   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
|---|---|------|-----|---|---|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|---|--|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生を対象として、楽しみながら情報セキュリティを学べる「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」やサーバ等の実機に触れる機会を提供する「ICT 基礎 Lab. for Junior」を開催し、100%に近い満足度を得ている。</li> <li>高専の教員が中学校に出向いて行う出前授業を 22 件実施し、高専の教育内容への理解を深める機会としている。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見(案)</b></p> <table border="1"> <tr> <td style="height: 100px;">.</td> </tr> </table> | 評定  | 評定説明 | (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生を対象として、楽しみながら情報セキュリティを学べる「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」やサーバ等の実機に触れる機会を提供する「ICT 基礎 Lab. for Junior」を開催し、100%に近い満足度を得ている。</li> <li>高専の教員が中学校に出向いて行う出前授業を 22 件実施し、高専の教育内容への理解を深める機会としている。</li> </ul> | . | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 中学生向けに情報セキュリティ研修や出前授業を行い、情報発信が積極的になされ、受験生獲得にもつながっている効果を得ていることは評価したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、感染症防止対策を徹底した上で開催し、定員 20 名のところ 34 人の申込を得て、当日は 20 名の参加を得た。参加者の満足度は高く、中学生に対し、情報セキュリティに関する関心を高める機会を提供している点が評価できる。後援企業等として、新規で2企業を獲得し、47 団体と連携した点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 中学生向けサイバーセキュリティ研修の拡充(定員を上回る希望者への対応拡充を期待)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 小中学校向けのプログラムの実施は早期からの意識づけとなり意義がある。<br/>◎ 若年層からの情報セキュリティ技術教育はリーダー養成のためにも不可欠である。都職員への研修も有効である。<br/>◇ コロナで中止となっている都職員への研修の復活を期待します。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明(コメント) | 2 | ◎ 中学生向けに情報セキュリティ研修や出前授業を行い、情報発信が積極的になされ、受験生獲得にもつながっている効果を得ていることは評価したい。 | 3 |  | 3 |  | 2 | ◎ 「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、感染症防止対策を徹底した上で開催し、定員 20 名のところ 34 人の申込を得て、当日は 20 名の参加を得た。参加者の満足度は高く、中学生に対し、情報セキュリティに関する関心を高める機会を提供している点が評価できる。後援企業等として、新規で2企業を獲得し、47 団体と連携した点も評価できる。 | 3 | ◇ 中学生向けサイバーセキュリティ研修の拡充(定員を上回る希望者への対応拡充を期待) | 3 |  | 2 | ◎ 小中学校向けのプログラムの実施は早期からの意識づけとなり意義がある。<br>◎ 若年層からの情報セキュリティ技術教育はリーダー養成のためにも不可欠である。都職員への研修も有効である。<br>◇ コロナで中止となっている都職員への研修の復活を期待します。 |
| 評定  | 評定説明  |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| (3)   | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生を対象として、楽しみながら情報セキュリティを学べる「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」やサーバ等の実機に触れる機会を提供する「ICT 基礎 Lab. for Junior」を開催し、100%に近い満足度を得ている。</li> <li>高専の教員が中学校に出向いて行う出前授業を 22 件実施し、高専の教育内容への理解を深める機会としている。</li> </ul> |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| .   |   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明(コメント)  |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 中学生向けに情報セキュリティ研修や出前授業を行い、情報発信が積極的になされ、受験生獲得にもつながっている効果を得ていることは評価したい。  |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、感染症防止対策を徹底した上で開催し、定員 20 名のところ 34 人の申込を得て、当日は 20 名の参加を得た。参加者の満足度は高く、中学生に対し、情報セキュリティに関する関心を高める機会を提供している点が評価できる。後援企業等として、新規で2企業を獲得し、47 団体と連携した点も評価できる。   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   | ◇ 中学生向けサイバーセキュリティ研修の拡充(定員を上回る希望者への対応拡充を期待)  |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 小中学校向けのプログラムの実施は早期からの意識づけとなり意義がある。<br>◎ 若年層からの情報セキュリティ技術教育はリーダー養成のためにも不可欠である。都職員への研修も有効である。<br>◇ コロナで中止となっている都職員への研修の復活を期待します。  |      |     |   |   |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

**【大項目 27】 期間評価**

| 評価素案  |   | 委員別評定等 |   |
|---|---|--------|---|
| 評定  | 評定説明  | 評定     | 評定説明(コメント)  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 中学生向けの体験型情報セキュリティ研修を継続して開催し、社会的なテーマでもある情報セキュリティについて、中学生が楽しみながら理解を深める機会を提供している。 | 3      |   |
|   |   | 3      |   |
|   |   | 3      |   |
|   |   | 2      | ◎ 中学生向けの体験型情報セキュリティ研修を継続して開催し、中学生に向けた教育プログラムの充実を図った点が評価できる。社会的なテーマでもある情報セキュリティについて、中学生が楽しみながら理解を深める機会を提供している。 |
|   |   | 3      | ◎ 中学生向けサイバーセキュリティ研修の定着化<br>◇ 中学生向けサイバーセキュリティ研修の拡充(受入れ枠拡大を期待)  |
|   |   | 3      |   |
|   |   | 2      | ◎ 中学生からの対応を実施している点  |
| <b>参考意見(案)</b><br>・ 中学生向けサイバーセキュリティ研修について、定員を上回る希望者への対応など、受入れ枠の拡大を期待する。 |   |        |   |

|   |      |  |      |    |
|---|------|--|------|----|
| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校 <sup>（1）</sup> の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するため <sup>（2）</sup> のべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 （2）社会貢献等に関する目標を達成するための措置 |      |  |      |    |
| <b>大項目 28</b><br>社会貢献等  | 小項目  | 主な取組   | 自己評価 |    |
|   |      |  | 年度   | 期間 |
|   | 3-23 | 共同研究等の機会の拡充に向けた取組  | B    | A  |
|   | 3-24 | 地域のものづくり技術者のスキルアップに資する取組、地域の技術者のスキルアップに資するオープンカレッジ講座の充実、中小企業におけるサイバーセキュリティ意識向上に資する取組 | A    | A  |

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 28】 年度評価  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
|--|---|------|-----|--|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|-----------------|---|--|---|---|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、荒川キャンパスでは、医工連携技術者育成プログラムの一環として学び直し<sup>（3）</sup>の場を提供するなど、各キャンパスの特長を生かしながら実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得ている。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見（案）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域での産学公連携・共同研究推進のための方策を体系的に組み立てることが必要と考える</li> <li>・ 地域貢献の充実に向け、中小企業経営者や労働者のニーズを調査するとともに、ALL 都立で共有してはどうか。</li> </ul> | 評定  | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、荒川キャンパスでは、医工連携技術者育成プログラムの一環として学び直し <sup>（3）</sup> の場を提供するなど、各キャンパスの特長を生かしながら実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得ている。 | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、感染症対策を行いながら、地域ニーズに応えた実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得た点が評価できる。荒川キャンパスの3講座は、令和3(2021)年にスタートした医工連携技術者育成プログラムのリカレント教育に位置付けられおり、技術者の学び直し<sup>（3）</sup>の場として、引き続き、今後の充実が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 出前授業の実績(2件)拡大</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 2キャンパスでの多様なスタイルでの講座の開催をしており工夫をしつつ実施しているところが評価できる<br/>◇ 地域での産学公連携・共同研究推進のための方策を体系的に組み立てることが必要と思います。<br/>◇ 地域貢献での中小企業管理者、労働者のニーズの把握はできていますか。調査はいつしていますか。ALL 都立で共有はできますか。<br/>◇ さらに講座開設が増える仕組みを工夫してはどうか。若手技術者へのニーズ調査などです。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、感染症対策を行いながら、地域ニーズに応えた実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得た点が評価できる。荒川キャンパスの3講座は、令和3(2021)年にスタートした医工連携技術者育成プログラムのリカレント教育に位置付けられおり、技術者の学び直し <sup>（3）</sup> の場として、引き続き、今後の充実が期待される。 | 3 | ◇ 出前授業の実績(2件)拡大 | 3 |  | 2 | ◎ 2キャンパスでの多様なスタイルでの講座の開催をしており工夫をしつつ実施しているところが評価できる<br>◇ 地域での産学公連携・共同研究推進のための方策を体系的に組み立てることが必要と思います。<br>◇ 地域貢献での中小企業管理者、労働者のニーズの把握はできていますか。調査はいつしていますか。ALL 都立で共有はできますか。<br>◇ さらに講座開設が増える仕組みを工夫してはどうか。若手技術者へのニーズ調査などです。 |
| 評定   | 評定説明  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、荒川キャンパスでは、医工連携技術者育成プログラムの一環として学び直し <sup>（3）</sup> の場を提供するなど、各キャンパスの特長を生かしながら実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得ている。  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 評定   | 評定説明（コメント）  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  | ◎ 技術者のためのオープンカレッジ講座について、感染症対策を行いながら、地域ニーズに応えた実践的な内容の講座を開催し、高い満足度を得た点が評価できる。荒川キャンパスの3講座は、令和3(2021)年にスタートした医工連携技術者育成プログラムのリカレント教育に位置付けられおり、技術者の学び直し <sup>（3）</sup> の場として、引き続き、今後の充実が期待される。                              |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  | ◇ 出前授業の実績(2件)拡大   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |
| 2  | ◎ 2キャンパスでの多様なスタイルでの講座の開催をしており工夫をしつつ実施しているところが評価できる<br>◇ 地域での産学公連携・共同研究推進のための方策を体系的に組み立てることが必要と思います。<br>◇ 地域貢献での中小企業管理者、労働者のニーズの把握はできていますか。調査はいつしていますか。ALL 都立で共有はできますか。<br>◇ さらに講座開設が増える仕組みを工夫してはどうか。若手技術者へのニーズ調査などです。 |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |  |   |                 |   |  |   |   |

【評定（期間評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 28】 期間評価

評価素案

| 評定  | 評定説明   |
|-----|--|
| (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ ホームページのシーズ集等をきっかけに、区との連携事業として技術相談や出前講座を実施するなど、地元企業との連携・協働を推進している。<br>・ 地元区と連携した若手技術者支援講座や技術者のためのオープンカレッジについて、令和3年度以降、毎年いずれも5回以上開催しており、地域のものづくり技術者に学びなおしの場を提供している。 |

参考意見（案）

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業との連携について、他自治体への拡充を期待する。</li> </ul> |
|---|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明（コメント）   |
|----|--|
| 3  |  |
| 3  |  |
| 3  |  |
| 3  | ◎ 若手技術者支援講座、オープンカレッジについて、令和3年度以降、毎年、いずれも5～6回ずつ、開催されている。引き続き、地元企業の人材育成に資する取組の充実が期待される。  |
| 3  |  |
| 2  | ◎ 高専公式ホームページのシーズ集等をきっかけに、品川キャンパスでは、品川区・大田区連携事業として4件の技術相談、2件の出前講座を開催し、荒川キャンパスでは5件の技術相談を受けた。<br>◎ 「若手技術者支援のための講座」や「技術者のためのオープンカレッジ」の開講により、学びなおしの場を提供すると共に、高専教員のプレゼンスが向上し、技術相談や設備の有効活用機会を増やすことにつながった。 |
| 2  | ◎ 地元企業との協働連携の活動実績が確実にある。<br>◇ 中小企業は他の区にもあるため他区への拡充を期待します。  |



| Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置 |                 |      |      |                         |
|--|-----------------|------|------|-------------------------|
| 大項目 29<br>グローバル化   | 小項目             | 主な取組 | 自己評価 |                         |
|  |                 |      | 年度   | 期間                      |
|  |                 |      | 3-25 | 専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組 |
| 3-26   | JABEE 受審へ向けた取組  | B    |      |                         |
| 3-27   | 国際的に活躍できる技術者の育成 | A    |      |                         |

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 29】 年度評価 |  |            |   |
|---------------|--|------------|---|
| 評価素案          |  | 委員別評定等     |   |
| 評定            | 評定説明   | 評定説明（コメント） |   |
| (3)           | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 専攻科の1年生が全員履修する共通科目「先端科学技術特論」において、半数の講義を英語で実施し、専門英語を身近に体験できる機会を提供した。<br><br>・ 2つの海外体験プログラムの参加者は定員の70人に対し、参加者は53名と目標を下回ったが、上級生向けのグローバル・コミュニケーション・プログラムでは、3年ぶりにシンガポールに渡航して現地の学生と協働・交流するプログラムを実施した。 | 3          |   |
|               |  | 3          | ◎ 英語での授業の実施は計画通りでよかった。<br>◇ GCP及びIEPの2つの海外体験プログラムの参加者目標は定員の70人の参加であったが、実績は参加者53名と目標を下回った。ただ、グローバル化に対する目標として継続して期待したい。   |
|               |  | 2          | ◎ 新型コロナウイルス感染症への対策を十分に行いつつ、GCPとIEPの2つの海外プログラムで目標の70名に対して53名の参加者を得た。   |
|               |  | 3          | ◎ 海外プログラムの1つであるGCPにおいて、シンガポールへ渡航してのプログラムが実施された。自己評価におけるスキル到達度で、課題解決力、コミュニケーション力、プロジェクト実行力の向上が見られるなど、参加による効果を得ている点が評価できる。もう1つのプログラムであるIEPは、シアトルへの渡航はかなわなかったものの、対面とオンラインを組み合わせ合わせたプログラムを行い、参加者より高い満足度を得ている。 |
|               |  | 2          | ◎ JABEE 指摘事項への着実な対応(PDCA)<br>◎ 海外研修(GCP)復活  |
|               |  | 3          | ◎ グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)には15名が参加し、2年ぶりに海外派遣を再開した。   |
|               | 参考意見（案）  | 2          | ◎ 英語を取り入れての授業を行うなど、学生の意識向上を図っている。<br>◎ 第三者評価の結果を踏まえてプログラムの改変を行っている。国際化を目指した取り組みが複数行われている。<br>◇ グローバル化をALL都立で共通事項になることを目指して教員間でのディスカッションを進めてはどうかでしょうか。   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 29】 期間評価

評価素案

| 評定  | 評定説明  |
|-----|---|
| (2) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻科の1年生全員が履修する共通科目の一部の授業で英語による講義を試行し、ものづくり産業のグローバル化に対する学生の意識の向上を図った。</li> <li>2つの海外体験プログラムについて、初年度から参加者の目標70名を達成し、コロナ禍でもオンラインを活用したプログラムに変更しつつ、過去2年は50名以上の参加者を得るなど、様々な努力を行いながらプログラムを遂行した。</li> </ul> |

参考意見（案）

|  |
|--|
|  |
|--|

委員別評定等

| 評定 | 評定説明（コメント）  |
|----|---|
| 2  | ◎ 英語による授業の一部実施やコロナ禍でのオンラインによる海外との連携実施、さらにはコロナ後の海外体験プログラムを改善しての復活など様々な努力がなされていることは評価できる  |
| 2  | ◎ GCP及びIEPの2つの海外体験プログラムは、定員である70人の参加を初年度より実現し評価できる。中期計画の後半は、コロナ禍の影響も考えられるため見込評価を踏襲したい。  |
| 2  | ◎ GCPとIEPの2つの海外プログラムは目標値の70名を初年度より達成し、コロナ禍でもオンラインを活用したプログラムに変更しつつ、過去2年は50名以上の参加者となっている。   |
| 2  | ◎ 海外体験プログラムとして、GCP、IEPの2つのプログラムについて、コロナ禍においても、オンラインを活用して海外との交流や国内プログラムを活用したプログラム変更等を行い、確実にプログラムを遂行した点が評価できる。ビジネスの要素を取り入れた実践的な内容とするなど、プログラムの工夫も行われている。                           |
| 2  | ◎ 教育「品質」のグローバル化(JABEE受審)  |
| 2  | ◎ 専攻科の一部授業を英語で実施することができた。多くの専攻科生が履修し、専門英語を身近に体験した。<br>◎ GCP及びIEPの2つの海外体験プログラムは、定員である70人の参加を初年度より実現した。コロナ禍によりプログラムの中止を余儀なくされたものの、オンラインツールを活用した現地との交流等を行うことで参加学生にとって満足度の高い取組となった。 |
| 2  | ◎ グローバル化を図るための海外研修等を工夫して実施しており参加者数も70名と多い。<br>◇ 英語教育導入に向けて目標値を設けてはどうか。例)英語授業の実施率  |

| IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 |  |      |      |  |
|---|--|------|------|--|
| 大項目 30<br>組織運営の改善   | 小項目  | 主な取組 | 自己評価 |  |
|   |  |      | 年度   | 期間   |
|   |  |      | 4-01 | 認知度の更なる向上とトップマネジメントの強化、各学校や法人の適正かつ効率的な運営、法人のコンプライアンスの確保・向上のための体制整備 |
| 4-01-2  | 自治体との連携枠組構築による社会貢献、TMU サステナブル研究推進機構における調査研究の推進           | A    |      |  |
| 4-02  | 計画策定、予算編成作業を通じた各学校の支援、(2大学1高専)マネジメント推進等                  | A    |      |  |
| 4-03  | 教員人事制度の適切な運用・改善  | B    |      |  |
| 4-04  | 大学の将来を担う若手研究者育成、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組    | B    |      |  |
| 4-05  | 学長の裁量による採用選考手続き、教員人事計画の策定                                | B    |      |  |
| 4-06  | 「人材育成プログラム」に基づく効果的な人材育成及び業務遂行上のノウハウの継承の推進、職員のキャリア形成意識の醸成 | B    |      |  |
| 4-07  | 専門職人事制度の検証   | B    |      |  |
| 4-08  | 職員の語学力の向上に向けた取組  | B    |      |  |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 30】 年度評価 |  |        |  |
|---------------|--|--------|--|
| 評価素案          |  | 委員別評定等 |  |
| 評定            | 評定説明   | 評定     | 評定説明(コメント)   |
| (3)           | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 都や区市町村等との連携を推進するため、都各局等へのヒアリング、アンケート等によるニーズ調査に加え、新たに、ニーズ調査の結果を踏まえた調査研究の公募を行った。都とのマッチングが促進され、各種研究の組成につながっている。<br><br>・ 都立大に内部質保証推進会議を設置し、運用フローの見直し等により、内部質保証の更なる実質化を実現し、全学的な教学マネジメントを推進するための学内体制の強化を図った。 | 3      |  |
|               |  | 3      |  |
|               |  | 3      |  |
|               |  | 2      | ◎ 都や区市町村等との連携を推進するため、都各局等への個別ヒアリング、各局へのアンケートなどによるニーズ調査のみならず、新たな取組として、ニーズ調査の結果を元に、2大学1高専の教員に対して調査研究の公募を行った点が評価できる。応募された調査研究を都に提案することで、法人とのマッチングが促進され、各種研究の組成につながっている。<br>◎ 新たに内部品質保証推進会議を設置し、それに伴う運用フローを見直し等の対応を行ったことにより、全学的な教学マネジメントを推進するための学内体制の強化が行われた点が評価できる。<br>◎ 職員研修について、令和4(2022)年度は、活発なディスカッション等を行う研修は対面開催とともに、座学形式の知識教授型研修はオンライン開催とするなど、研修目的に応じて、受講効果や受講しやすさを考慮した開催方法を検討した点が評価できる。管理監督職に対してマネジメント能力の伸長を目的とした研修を実施したり、社会情勢等を踏まえた新たな研修を実施して、組織力向上を図った点も評価できる。 |
|               |  | 3      |  |
| 参考意見(案)       |  | 3      | ◎ 監事が書面だけでなく直接職員へヒアリングを行うことで、業務改善に繋がる実効性ある監査が実施された。<br>◎ 2大学1高専及び法人が抱える課題について組織横断的に検討を進める法人検討課題タスクフォース(電力・物価高騰対策編)を発足させた。<br>◎ 都立大の内部質保証に関する総合的な評価を行う組織として、新たに内部質保証推進会議を設置し、運用フローの見直し等により、内部質保証の更なる実質化を実現し、全学的な教学マネジメントの取組推進にかかる学内体制を強化した。<br>◎ 教員の勤続年数の通算方法の見直しにより、法人の役員人事がより柔軟に実施可能となった。<br>◎ 休暇・休業等制度の見直しの実施により、教員における柔軟な休暇・休業等制度の活用を推進した。  |
|               |  | 2      | ◎ TOEIC600点以上の職員比率向上<br>◎ 教学IRのデータを活用して全学的に教学マネジメントに取り組んでいる点   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 30] 期間評価   |   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
|---|---|------|-----|---|---|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|---|--|
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年4月から大学・法人の名称変更を行い、各大学・高専の認知度やプレゼンス向上に努めるとともに、名称変更を踏まえ、更なる発展に向けた取組を推進した。</li> <li>・ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備したほか、東京都下水道局等との包括連携協定の締結などにより、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばした。</li> <li>・ 2大学1高専の教育研究活動の活発化を図るため、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などに取り組んだ。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見（案）</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | 評定  | 評定説明 | (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年4月から大学・法人の名称変更を行い、各大学・高専の認知度やプレゼンス向上に努めるとともに、名称変更を踏まえ、更なる発展に向けた取組を推進した。</li> <li>・ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備したほか、東京都下水道局等との包括連携協定の締結などにより、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばした。</li> <li>・ 2大学1高専の教育研究活動の活発化を図るため、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などに取り組んだ。</li> </ul> | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 2大学1高専の教育研究活動を活発化するために、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などを実行してきたことは評価に値するものであり、その成果はなかなか直接図ることは難しいが、各校の教育・研究において顕現されていると捉えている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 大学・法人の名称変更を行い、名称変更も踏まえて、各大学・高専の更なる発展に向けた取組の推進を図った点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 各大学・高専の認知度やプレゼンスの向上を図る取組として、令和2(2020)年4月から大学・法人の名称変更を行った。<br/>◎ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備し、東京都下水道局等との包括連携協定締結等、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばすことができた。<br/>◎ 都立大において、教学IR委員会を設置し、「TMU Vision 2030」を策定するなど、全学的な教学マネジメントが推進された。<br/>◎ URA(リサーチ・アドミニストレーター)業務やDX、研究機器共用等への対応に向けた高度な専門性を必要とする人材を確保するため、特定任用職員の採用を実施した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ リーダーは内部統制をシステムティックに整え、教員、職員ともに能力向上に向けて取り組んでいる。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ 2大学1高専の教育研究活動を活発化するために、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などを実行してきたことは評価に値するものであり、その成果はなかなか直接図ることは難しいが、各校の教育・研究において顕現されていると捉えている | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 大学・法人の名称変更を行い、名称変更も踏まえて、各大学・高専の更なる発展に向けた取組の推進を図った点が評価できる。 | 3 |  | 3 | ◎ 各大学・高専の認知度やプレゼンスの向上を図る取組として、令和2(2020)年4月から大学・法人の名称変更を行った。<br>◎ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備し、東京都下水道局等との包括連携協定締結等、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばすことができた。<br>◎ 都立大において、教学IR委員会を設置し、「TMU Vision 2030」を策定するなど、全学的な教学マネジメントが推進された。<br>◎ URA(リサーチ・アドミニストレーター)業務やDX、研究機器共用等への対応に向けた高度な専門性を必要とする人材を確保するため、特定任用職員の採用を実施した。 | 2 | ◎ リーダーは内部統制をシステムティックに整え、教員、職員ともに能力向上に向けて取り組んでいる。 |
| 評定  | 評定説明  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| (3)   | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年4月から大学・法人の名称変更を行い、各大学・高専の認知度やプレゼンス向上に努めるとともに、名称変更を踏まえ、更なる発展に向けた取組を推進した。</li> <li>・ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備したほか、東京都下水道局等との包括連携協定の締結などにより、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばした。</li> <li>・ 2大学1高専の教育研究活動の活発化を図るため、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などに取り組んだ。</li> </ul> |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 評定  | 評定説明（コメント）  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 2大学1高専の教育研究活動を活発化するために、組織改編や各種人事制度の見直し、教学IRシステムの有効活用などを実行してきたことは評価に値するものであり、その成果はなかなか直接図ることは難しいが、各校の教育・研究において顕現されていると捉えている  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   | ◎ 大学・法人の名称変更を行い、名称変更も踏まえて、各大学・高専の更なる発展に向けた取組の推進を図った点が評価できる。   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   |   |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3   | ◎ 各大学・高専の認知度やプレゼンスの向上を図る取組として、令和2(2020)年4月から大学・法人の名称変更を行った。<br>◎ 東京都等との連携強化に向けて、機能的・機動的な事務組織体制を整備し、東京都下水道局等との包括連携協定締結等、連携実績を100件未満平均から170件程度にまで大幅に伸ばすことができた。<br>◎ 都立大において、教学IR委員会を設置し、「TMU Vision 2030」を策定するなど、全学的な教学マネジメントが推進された。<br>◎ URA(リサーチ・アドミニストレーター)業務やDX、研究機器共用等への対応に向けた高度な専門性を必要とする人材を確保するため、特定任用職員の採用を実施した。                |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2   | ◎ リーダーは内部統制をシステムティックに整え、教員、職員ともに能力向上に向けて取り組んでいる。  |      |     |   |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |

| IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置 |   |      |      |                                   |
|---|---|------|------|-----------------------------------|
| 大項目 31<br>組織運営の改善   | 小項目   | 主な取組 | 自己評価 |                                   |
|   |   |      | 年度   | 期間                                |
|   |   |      | 4-09 | 学長の裁量による採用選考手続き、指名人事による採用手続き(都立大) |
| 4-10  | 新たな学位プログラムの着実な実施  | A    |      |                                   |
| 4-11  | 情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施、新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成 | S    |      |                                   |
| 4-12  | 2大学1高専の連携、グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施   | B    |      |                                   |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 31】 年度評価 |   |  |
|---------------|---|--|
| 評価素案          | 評定  | 評定説明   |
|               | (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 令和2年度に策定した「新たな連携の在り方」に基づき、入試連携や研究機器共用について教職員とのヒアリングや意見交換を実施し、2大学1高専の連携強化や交流機会の拡充を図った。 |
| 参考意見(案)       |   |  |
|               |   |  |
| 委員別評定等        |   |  |
| 評定            | 評定説明(コメント)  |  |
| 3             |   |  |
| 3             |   |  |
| 3             |   |  |
| 3             |   |  |
| 3             |   |  |
| 3             | ◎ 令和2(2020)年度に策定した「新たな連携の在り方」に基づき、入試連携や機器共用について、教職員へのヒアリングを行った。 |  |
| 2             | ◎ 2大学1高専の連携体制が創られ交流の強化が図られた。                                    |  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 31] 期間評価  |   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
|--|---|------|-----|---|---|--------|------------|---|---|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|---|--|
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価素案</th> <th style="width: 90%;">評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った。</li> <li>2大学1高専の教職員が連携して、令和2年度に、「新たな連携の在り方」を策定し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、将来的な目的・シナジー等の明確な戦略性が見受けられないので、法人が各校に方向性を示すことを期待する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案  | 評定説明 | (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った。</li> <li>2大学1高専の教職員が連携して、令和2年度に、「新たな連携の在り方」を策定し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、将来的な目的・シナジー等の明確な戦略性が見受けられないので、法人が各校に方向性を示すことを期待する。</li> </ul> | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">委員別評定等</th> <th style="width: 90%;">評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>◎ 各校の教育研究体制の見直しのために組織改編を十分にバックアップしたことは各校での教育研究成果から見て取れる。</p> <p>◇ 2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、そこに明確な戦略性(将来的な目的・シナジー等)が見受けられないので、法人がこの青写真を描いて各校に降ろしていく作業が今後必要なのではないか。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>◎ 平成30(2018)年度に、東京都立大学の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った点が評価できる。</p> <p>◎ 2大学1高専の教職員が連携して、令和2(2020)年度に、「新たな連携の在り方」を作成し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した点が評価できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <p>◎ 2大学1高専の連携に関して、法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループが作られ、現場教職員の情報交換・意見交換の機会が設けられた。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>◎ グローバル化を進める取り組みが組織的に体系的に法人が一体となって行われている。</p> </td> </tr> </tbody> </table> | 委員別評定等 | 評定説明（コメント） | 2 | <p>◎ 各校の教育研究体制の見直しのために組織改編を十分にバックアップしたことは各校での教育研究成果から見て取れる。</p> <p>◇ 2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、そこに明確な戦略性(将来的な目的・シナジー等)が見受けられないので、法人がこの青写真を描いて各校に降ろしていく作業が今後必要なのではないか。</p> | 3 |  | 3 |  | 2 | <p>◎ 平成30(2018)年度に、東京都立大学の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った点が評価できる。</p> <p>◎ 2大学1高専の教職員が連携して、令和2(2020)年度に、「新たな連携の在り方」を作成し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した点が評価できる。</p> | 3 |  | 3 | <p>◎ 2大学1高専の連携に関して、法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループが作られ、現場教職員の情報交換・意見交換の機会が設けられた。</p> | 2 | <p>◎ グローバル化を進める取り組みが組織的に体系的に法人が一体となって行われている。</p> |
| 評価素案   | 評定説明  |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| (3)  | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った。</li> <li>2大学1高専の教職員が連携して、令和2年度に、「新たな連携の在り方」を策定し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、将来的な目的・シナジー等の明確な戦略性が見受けられないので、法人が各校に方向性を示すことを期待する。</li> </ul> |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 委員別評定等   | 評定説明（コメント）  |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2  | <p>◎ 各校の教育研究体制の見直しのために組織改編を十分にバックアップしたことは各校での教育研究成果から見て取れる。</p> <p>◇ 2大学1高専の連携は個別事業としては行われているものの、そこに明確な戦略性(将来的な目的・シナジー等)が見受けられないので、法人がこの青写真を描いて各校に降ろしていく作業が今後必要なのではないか。</p>   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3  |   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3  |   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2  | <p>◎ 平成30(2018)年度に、東京都立大学の教育研究組織の再編を行い、質の高い教育の提供と研究力のさらなる強化を図った点が評価できる。</p> <p>◎ 2大学1高専の教職員が連携して、令和2(2020)年度に、「新たな連携の在り方」を作成し、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した点が評価できる。</p>   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3  |   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 3  | <p>◎ 2大学1高専の連携に関して、法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループが作られ、現場教職員の情報交換・意見交換の機会が設けられた。</p>  |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| 2  | <p>◎ グローバル化を進める取り組みが組織的に体系的に法人が一体となって行われている。</p>  |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |
| <p><b>参考意見（案）</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>   |   |      |     |   |   |        |            |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |   |  |

| IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置 |      |   |       |
|---|------|---|-------|
| <b>大項目 32</b><br>事務の効率化・合理化等                                      | 小項目  | 主な取組  | 自己評価  |
|   |      |   | 年度 期間 |
|   | 4-13 | 機能的・機動的な組織体制の確立、多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化へ向けた検討 | A     |
|   | 4-14 | 新たなシステムの適切な導入・運用、施設予約システムの安定的な運用            | B A   |

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 32] 年度評価   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|------|-----|---|--|---|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| <b>評価素案</b>   | <b>委員別評定等</b>   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・ 働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、職員のモチベーションの向上や、法人の働き方改革の機運醸成を図った。</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 評定  | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、職員のモチベーションの向上や、法人の働き方改革の機運醸成を図った。 |  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 働き方改革の推進に貢献した取組に対し職員表彰が行われ、受賞者の取組の工夫等について、インタビュー記事を法人ポータルに掲載するなどして情報共有を図り、取組の推進を図った点が評価できる。働き方推進本部会議では、各支部が主体的に取り組む重点取組事項の検討が行われ、様々な業務の見直しも促進されている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 「ワークプラクティスオブザイヤー」表彰創設<br/>◎ 旅費システム導入など効率化への取組み</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 各所属を対象とした組織人事ヒアリングを実施し、産学公連携の一層の強化及び教育研究成果の都政への還元を図るため、組織再編を行った。<br/>◎ 働き方改革の推進に貢献した取組について、「第1回ワークプラクティス・オブザイヤー」と称して職員表彰を実施した。<br/>◎ ハンコレス・ペーパーレスの取組を推し進めた結果、法人及び事業者双方の省力化、効率的な業務の遂行につながった。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 産学連携の推進、グローバルな視点に立った事業推進等意欲的に取り組んでいます。<br/>◎ ワークプラクティス表彰を設けるなど職員のモチベーション向上の取り組みもなされ大事なことと思います<br/>◇ 働き方改善に基づく業務の見直しを早急に図り、多様な働き方ができる組織作りを期待します。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 2 | ◎ 働き方改革の推進に貢献した取組に対し職員表彰が行われ、受賞者の取組の工夫等について、インタビュー記事を法人ポータルに掲載するなどして情報共有を図り、取組の推進を図った点が評価できる。働き方推進本部会議では、各支部が主体的に取り組む重点取組事項の検討が行われ、様々な業務の見直しも促進されている。 | 2 | ◎ 「ワークプラクティスオブザイヤー」表彰創設<br>◎ 旅費システム導入など効率化への取組み | 2 | ◎ 各所属を対象とした組織人事ヒアリングを実施し、産学公連携の一層の強化及び教育研究成果の都政への還元を図るため、組織再編を行った。<br>◎ 働き方改革の推進に貢献した取組について、「第1回ワークプラクティス・オブザイヤー」と称して職員表彰を実施した。<br>◎ ハンコレス・ペーパーレスの取組を推し進めた結果、法人及び事業者双方の省力化、効率的な業務の遂行につながった。 | 2 | ◎ 産学連携の推進、グローバルな視点に立った事業推進等意欲的に取り組んでいます。<br>◎ ワークプラクティス表彰を設けるなど職員のモチベーション向上の取り組みもなされ大事なことと思います<br>◇ 働き方改善に基づく業務の見直しを早急に図り、多様な働き方ができる組織作りを期待します。 |
| 評定  | 評定説明  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、職員のモチベーションの向上や、法人の働き方改革の機運醸成を図った。   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 評定  | 評定説明（コメント）  |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 働き方改革の推進に貢献した取組に対し職員表彰が行われ、受賞者の取組の工夫等について、インタビュー記事を法人ポータルに掲載するなどして情報共有を図り、取組の推進を図った点が評価できる。働き方推進本部会議では、各支部が主体的に取り組む重点取組事項の検討が行われ、様々な業務の見直しも促進されている。                                       |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 「ワークプラクティスオブザイヤー」表彰創設<br>◎ 旅費システム導入など効率化への取組み   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 各所属を対象とした組織人事ヒアリングを実施し、産学公連携の一層の強化及び教育研究成果の都政への還元を図るため、組織再編を行った。<br>◎ 働き方改革の推進に貢献した取組について、「第1回ワークプラクティス・オブザイヤー」と称して職員表彰を実施した。<br>◎ ハンコレス・ペーパーレスの取組を推し進めた結果、法人及び事業者双方の省力化、効率的な業務の遂行につながった。 |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 産学連携の推進、グローバルな視点に立った事業推進等意欲的に取り組んでいます。<br>◎ ワークプラクティス表彰を設けるなど職員のモチベーション向上の取り組みもなされ大事なことと思います<br>◇ 働き方改善に基づく業務の見直しを早急に図り、多様な働き方ができる組織作りを期待します。   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>参考意見（案）</b>  |   |      |     |   |  |   |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 32】 期間評価   |  |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
|---|--|------|-----|--|--|----|------------|---|---|---|--|---|---|---|---|---|--|---|---|---|-------------------------------------|
| <b>評価素案</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・「働き方改革推進計画」を策定し、組織的に取組を推進する体制を構築するとともに、職員表彰制度を導入することで働き方改革の機運醸成と職員のモチベーションの向上を図った。<br/>                     ・新たなシステムの導入などにより、業務運営の合理化・効率化を継続的に進めている。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評定   | 評定説明 | (2) | ◎優れた点・特色ある点<br>・「働き方改革推進計画」を策定し、組織的に取組を推進する体制を構築するとともに、職員表彰制度を導入することで働き方改革の機運醸成と職員のモチベーションの向上を図った。<br>・新たなシステムの導入などにより、業務運営の合理化・効率化を継続的に進めている。 | <b>委員別評定等</b><br><table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 各種の事務関係情報システムの高度化が進みつつあり、事務効率化が進行していることは評価したい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 「働き方改革推進計画」の策定や業務見直しにより、超過勤務手当支払業務等の多くの労働力が割かれていた業務の合理化・効率化が図られた。」点はとても評価できる(令和3年度)。<br/>◇ 「契約関係書類におけるハンコレス・ペーパーレスの取組を推進」していることなので、必要に応じて、より幅広くペーパーレスの検討を期待します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 新財務会計システムをはじめ新たなシステムの導入によって、業務運営の効率化を継続的に進めている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ コロナ禍での感染症対策を踏まえつつ、多様な働き方の実現、業務の効率化を目指して、自宅勤務の導入、定型業務の見直し等が行われ、令和3(2021)年度には、「働き方改革推進計画」が策定され、組織的に取組を推進した点が評価できる。コロナ禍を転機として、業務効率化・合理化が行われ、継続・発展した取組が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 業務効率化や働き方改革への取組み強化(システム化、アワード創設など)<br/>◇ 経費(旅費)システム化に不正防止の視点を追加</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 都と連携した新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場の運営を行うための組織を迅速に新設した。<br/>◎ 令和3(2021)年度に、「働き方改革推進計画」を策定し、組織的な取組を推進した。<br/>◎ 会計、旅費、文書管理及び施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 働き方改革の職員表彰は働くモチベーションにもつながると思われます。</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◇ 各種の事務関係情報システムの高度化が進みつつあり、事務効率化が進行していることは評価したい | 2 | ◎ 「働き方改革推進計画」の策定や業務見直しにより、超過勤務手当支払業務等の多くの労働力が割かれていた業務の合理化・効率化が図られた。」点はとても評価できる(令和3年度)。<br>◇ 「契約関係書類におけるハンコレス・ペーパーレスの取組を推進」していることなので、必要に応じて、より幅広くペーパーレスの検討を期待します。 | 2 | ◎ 新財務会計システムをはじめ新たなシステムの導入によって、業務運営の効率化を継続的に進めている。 | 2 | ◎ コロナ禍での感染症対策を踏まえつつ、多様な働き方の実現、業務の効率化を目指して、自宅勤務の導入、定型業務の見直し等が行われ、令和3(2021)年度には、「働き方改革推進計画」が策定され、組織的に取組を推進した点が評価できる。コロナ禍を転機として、業務効率化・合理化が行われ、継続・発展した取組が期待される。 | 2 | ◎ 業務効率化や働き方改革への取組み強化(システム化、アワード創設など)<br>◇ 経費(旅費)システム化に不正防止の視点を追加 | 2 | ◎ 都と連携した新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場の運営を行うための組織を迅速に新設した。<br>◎ 令和3(2021)年度に、「働き方改革推進計画」を策定し、組織的な取組を推進した。<br>◎ 会計、旅費、文書管理及び施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 | 2 | ◎ 働き方改革の職員表彰は働くモチベーションにもつながると思われます。 |
| 評定  | 評定説明   |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| (2)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・「働き方改革推進計画」を策定し、組織的に取組を推進する体制を構築するとともに、職員表彰制度を導入することで働き方改革の機運醸成と職員のモチベーションの向上を図った。<br>・新たなシステムの導入などにより、業務運営の合理化・効率化を継続的に進めている。                   |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 評定  | 評定説明（コメント）   |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◇ 各種の事務関係情報システムの高度化が進みつつあり、事務効率化が進行していることは評価したい  |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ 「働き方改革推進計画」の策定や業務見直しにより、超過勤務手当支払業務等の多くの労働力が割かれていた業務の合理化・効率化が図られた。」点はとても評価できる(令和3年度)。<br>◇ 「契約関係書類におけるハンコレス・ペーパーレスの取組を推進」していることなので、必要に応じて、より幅広くペーパーレスの検討を期待します。 |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ 新財務会計システムをはじめ新たなシステムの導入によって、業務運営の効率化を継続的に進めている。  |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ コロナ禍での感染症対策を踏まえつつ、多様な働き方の実現、業務の効率化を目指して、自宅勤務の導入、定型業務の見直し等が行われ、令和3(2021)年度には、「働き方改革推進計画」が策定され、組織的に取組を推進した点が評価できる。コロナ禍を転機として、業務効率化・合理化が行われ、継続・発展した取組が期待される。      |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ 業務効率化や働き方改革への取組み強化(システム化、アワード創設など)<br>◇ 経費(旅費)システム化に不正防止の視点を追加   |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ 都と連携した新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場の運営を行うための組織を迅速に新設した。<br>◎ 令和3(2021)年度に、「働き方改革推進計画」を策定し、組織的な取組を推進した。<br>◎ 会計、旅費、文書管理及び施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。                        |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| 2   | ◎ 働き方改革の職員表彰は働くモチベーションにもつながると思われます。  |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |
| <b>参考意見（案）</b><br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>  |  |      |     |  |  |    |            |   |   |   |  |   |   |   |   |   |  |   |   |   |                                     |



V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 / 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 / 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

| 大項目 33<br>事務の効率化・合理化等 | 小項目  | 主な取組 | 自己評価 |   |
|-----------------------|--|------|------|---|
|                       |  |      | 年度   | 期間  |
|                       |  |      | 4-15 | 都立大学の入学考査料収入確保、オープンユニバーシティの公開講座等収入及びプレミアム・カレッジ選考手数料収入、外部資金獲得促進のための施策策定と組織体制強化 |
| 4-16                  | 寄附金受付システムの周知促進・利用拡大  | A    |      |   |
| 4-17                  | 学生納付金等の適正水準の検討   | B    |      |   |
| 4-18                  | 人件費の適正な管理、過年度決算分析及び戦略的な予算措置                                    | B    |      |   |
| 4-19                  | 強固な財政基盤の構築   | B    |      |   |
| 4-20                  | 学内施設(有形資産)の有効活用の促進、知的財産等(無形資産)の有効活用の促進のための情報発信、技術移転活動の強化に向けた取組 | B    |      |   |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 33】 年度評価

| 評価素案 |   | 委員評定 |  |
|------|---|------|--|
| 評定   | 評定説明  | 評定   | 評定説明(コメント)   |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 同窓会と法人内の関係課が連携して、ホームカミングデーに合わせて寄附イベントを開催し、延べ13人に感謝状を贈呈する等、継続的な寄附意欲の促進による寄附金獲得額の拡大を図った。 | 3    |  |
|      |   | 3    |  |
|      |   | 3    |  |
|      |   | 3    | ◎ 産学公連携センターミーティングで、共同研究費、受託研究費、提案公募型研究費等の獲得情報を毎月共有したり、産技大のOPI規格経営委員会に産学公連携センターの職員が参加し、情報共有や連携を図るなど、外部資金獲得促進のための施策を充実したことで、受託研究費等受け入れ金額実績において、法人化以降、最高額を獲得した点が評価できる。<br>◎ 同窓会と法人内の関係課が連携して、ホームカミングデーに合わせて寄附イベントを開催し、寄付金獲得額の拡大を図った点が評価できる。延べ13人に感謝状を贈呈する等の工夫を行い、継続的な寄附意欲及び遺贈寄附意欲の促進も図っている。 |
|      |   | 2    | ◎ 寄付金獲得では目標を大幅に超過達成<br>◎ 寄付に対する「感謝の集い」を開催  |
|      |   | 3    | ◎ 技術移転活動プロジェクトとして、移転候補となり得る技術シーズとして未利用特許113件を抽出し、特許事務所に(運用を)委託した。  |
|      |   | 2    | ◎ 自然災害により影響があった学生への学費減免などの支援<br>◎ 継続的な寄付者への感謝状の贈呈  |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 33】 期間評価   |   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|------|-----|---|---|------|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| <table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: #e1eef6;">評価素案</th> <th style="background-color: #e1eef6;">評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都立大同窓会組織との包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での寄附金獲得において構築した卒業生との関係を一過性のものとせず、タイミングを逸することなく速やかに取組を実施することを期待する。</li> <li>OB・OG とのネットワークを活用したクラウドファンディングの広がり期待する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案  | 評定説明 | (3) | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都立大同窓会組織との包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での寄附金獲得において構築した卒業生との関係を一過性のものとせず、タイミングを逸することなく速やかに取組を実施することを期待する。</li> <li>OB・OG とのネットワークを活用したクラウドファンディングの広がり期待する。</li> </ul> | <table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: #e1eef6;">委員評定</th> <th style="background-color: #e1eef6;">評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 寄付金の獲得について、コロナ禍での卒業生への呼びかけによる約 3000 万円の寄付金が集まったことは素晴らしい努力の結果と評価したい。また、寄付金を集めるための様々な仕掛けを準備しつつあることも今後期待ができるが、コロナ禍での寄付金獲得が卒業生との関係性を構築した好機であったので、それ一過性のものに終わらないよう、タイミングを逸することなく速やかに行動されることを望みたい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 都立大と同窓会の包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った点が評価できる。コロナ後も引き続き、これらの取組を推進、充実を図ることにより、寄付金の確保・拡大が継続することが期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 寄付金獲得では目標を大幅に超過達成<br/>◎ 寄付に対する「感謝の集い」を開催</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 都立大と同窓会との包括連携協定締結を契機に卒業生及び同窓会との連携を強化し、寄附金イベントを共催した。<br/>◎ 大学知財群活用プラットフォームへの参加や、外部機関と連携することにより、未利用特許の技術移転活動を行い、企業への 2500 件の特許情報展開を行った</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 安定的運営に帰するために外部資金獲得や、入試区分の変更、寄付金徴取など積極的に取り組んでいる。<br/>◇ OBOG 会のネットワークによる、クラウドファンディングの広がり期待します。</td> </tr> </tbody> </table> | 委員評定 | 評定説明（コメント） | 2 | ◎ 寄付金の獲得について、コロナ禍での卒業生への呼びかけによる約 3000 万円の寄付金が集まったことは素晴らしい努力の結果と評価したい。また、寄付金を集めるための様々な仕掛けを準備しつつあることも今後期待ができるが、コロナ禍での寄付金獲得が卒業生との関係性を構築した好機であったので、それ一過性のものに終わらないよう、タイミングを逸することなく速やかに行動されることを望みたい。 | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 都立大と同窓会の包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った点が評価できる。コロナ後も引き続き、これらの取組を推進、充実を図ることにより、寄付金の確保・拡大が継続することが期待される。 | 2 | ◎ 寄付金獲得では目標を大幅に超過達成<br>◎ 寄付に対する「感謝の集い」を開催 | 3 | ◎ 都立大と同窓会との包括連携協定締結を契機に卒業生及び同窓会との連携を強化し、寄附金イベントを共催した。<br>◎ 大学知財群活用プラットフォームへの参加や、外部機関と連携することにより、未利用特許の技術移転活動を行い、企業への 2500 件の特許情報展開を行った | 2 | ◎ 安定的運営に帰するために外部資金獲得や、入試区分の変更、寄付金徴取など積極的に取り組んでいる。<br>◇ OBOG 会のネットワークによる、クラウドファンディングの広がり期待します。 |
| 評価素案  | 評定説明  |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| (3)   | <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都立大同窓会組織との包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った。</li> </ul> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での寄附金獲得において構築した卒業生との関係を一過性のものとせず、タイミングを逸することなく速やかに取組を実施することを期待する。</li> <li>OB・OG とのネットワークを活用したクラウドファンディングの広がり期待する。</li> </ul> |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 委員評定  | 評定説明（コメント）  |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 寄付金の獲得について、コロナ禍での卒業生への呼びかけによる約 3000 万円の寄付金が集まったことは素晴らしい努力の結果と評価したい。また、寄付金を集めるための様々な仕掛けを準備しつつあることも今後期待ができるが、コロナ禍での寄付金獲得が卒業生との関係性を構築した好機であったので、それ一過性のものに終わらないよう、タイミングを逸することなく速やかに行動されることを望みたい。  |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   |   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 都立大と同窓会の包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図った点が評価できる。コロナ後も引き続き、これらの取組を推進、充実を図ることにより、寄付金の確保・拡大が継続することが期待される。   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 寄付金獲得では目標を大幅に超過達成<br>◎ 寄付に対する「感謝の集い」を開催   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3   | ◎ 都立大と同窓会との包括連携協定締結を契機に卒業生及び同窓会との連携を強化し、寄附金イベントを共催した。<br>◎ 大学知財群活用プラットフォームへの参加や、外部機関と連携することにより、未利用特許の技術移転活動を行い、企業への 2500 件の特許情報展開を行った   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 2   | ◎ 安定的運営に帰するために外部資金獲得や、入試区分の変更、寄付金徴取など積極的に取り組んでいる。<br>◇ OBOG 会のネットワークによる、クラウドファンディングの広がり期待します。   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: #e1eef6;">参考意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </tbody> </table>   | 参考意見  |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 参考意見  |   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |
|   |   |      |     |   |   |      |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |

| VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 / 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置 |                                       |      |      |   |
|---|---------------------------------------|------|------|---|
| 大項目 34<br>自己点検・評価及び情報の提供  | 小項目                                   | 主な取組 | 自己評価 |   |
|   |                                       |      | 年度   | 期間  |
|   |                                       |      | 4-21 | 2大学1高専各校における自己点検・評価や認証評価等の対応等、評価委員会からの評価結果等の法人経営や教育研究の質の向上の取組への反映 |
| 4-22  | 評価結果や財務情報等のホームページによる継続的な公開            | B    |      |   |
| 4-23  | プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開と効果検証の実施、組織広報力の向上等 | A    |      |   |
| 4-23-2  | 卒業生・同窓会等との連携強化                        | A    |      |   |

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 34] 年度評価  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
|--|---|------|-----|--|--|----|------------|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|----------------|
| <p><b>評価素案</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点<br/>・「牧野標本館」について広報重点企画として設定し、多角的・戦略的に広報を行うなど、情報発信の取組の強化を図った。<br/>・都立大における対面での「ホームカミングデー」の再開や、産技大での修了生コミュニティ制度の活用など、卒業生・同窓会等との連携・協力を強化した。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>参考意見（案）</b></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | 評定  | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・「牧野標本館」について広報重点企画として設定し、多角的・戦略的に広報を行うなど、情報発信の取組の強化を図った。<br>・都立大における対面での「ホームカミングデー」の再開や、産技大での修了生コミュニティ制度の活用など、卒業生・同窓会等との連携・協力を強化した。 | <p><b>委員別評定等</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 法人広報誌「ふれあい」を広報誌形式からメール配信に変更することで、2大学1高専相互の情報共有が進み、法人による発信力や連携推進の強化につながっている点が評価できる。<br/>◎ 「東京都立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」及び「環境報告書」を作成するとともに、法人のカーボンニュートラルに関する取組について特設サイトを新設し、広く周知を行ったことで、法人全体のプレゼンス向上を図った点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 同窓会(OBOG)との連携強化推進<br/>◎ 「牧野標本館」など情報発信への取組み強化</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 牧野富太郎博士が NHK 連続テレビ小説主人公のモデルに決定したことを契機に、令和4(2022)年度広報重点企画に設定した「牧野標本館」について、朝日新聞広告企画への掲出、総合ホームページ牧野標本館特設ページの公開等の広報を行い、テレビ3件、新聞3件、雑誌3件の取材につなげた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 同窓会での意見交換の実施</td> </tr> </tbody> </table> | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 1 | ◎ 法人広報誌「ふれあい」を広報誌形式からメール配信に変更することで、2大学1高専相互の情報共有が進み、法人による発信力や連携推進の強化につながっている点が評価できる。<br>◎ 「東京都立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」及び「環境報告書」を作成するとともに、法人のカーボンニュートラルに関する取組について特設サイトを新設し、広く周知を行ったことで、法人全体のプレゼンス向上を図った点が評価できる。 | 3 | ◎ 同窓会(OBOG)との連携強化推進<br>◎ 「牧野標本館」など情報発信への取組み強化 | 3 | ◎ 牧野富太郎博士が NHK 連続テレビ小説主人公のモデルに決定したことを契機に、令和4(2022)年度広報重点企画に設定した「牧野標本館」について、朝日新聞広告企画への掲出、総合ホームページ牧野標本館特設ページの公開等の広報を行い、テレビ3件、新聞3件、雑誌3件の取材につなげた。 | 2 | ◎ 同窓会での意見交換の実施 |
| 評定   | 評定説明  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・「牧野標本館」について広報重点企画として設定し、多角的・戦略的に広報を行うなど、情報発信の取組の強化を図った。<br>・都立大における対面での「ホームカミングデー」の再開や、産技大での修了生コミュニティ制度の活用など、卒業生・同窓会等との連携・協力を強化した。  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 評定   | 評定説明（コメント）  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 3  |   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 1  | ◎ 法人広報誌「ふれあい」を広報誌形式からメール配信に変更することで、2大学1高専相互の情報共有が進み、法人による発信力や連携推進の強化につながっている点が評価できる。<br>◎ 「東京都立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」及び「環境報告書」を作成するとともに、法人のカーボンニュートラルに関する取組について特設サイトを新設し、広く周知を行ったことで、法人全体のプレゼンス向上を図った点が評価できる。 |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 3  | ◎ 同窓会(OBOG)との連携強化推進<br>◎ 「牧野標本館」など情報発信への取組み強化   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 3  | ◎ 牧野富太郎博士が NHK 連続テレビ小説主人公のモデルに決定したことを契機に、令和4(2022)年度広報重点企画に設定した「牧野標本館」について、朝日新聞広告企画への掲出、総合ホームページ牧野標本館特設ページの公開等の広報を行い、テレビ3件、新聞3件、雑誌3件の取材につなげた。   |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |
| 2  | ◎ 同窓会での意見交換の実施  |      |     |  |  |    |            |   |  |   |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |                |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 34] 期間評価   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
|---|--|------|-----|--|---|--------|-------------|---|--|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価素案</th> <th style="width: 90%;">評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。<br/>                     ・ 同窓会との包括連携協定の締結など、2大学1高専各校において、卒業生・同窓会等との結びつきを強化する様々な取組が行われた。                 </td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案   | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。<br>・ 同窓会との包括連携協定の締結など、2大学1高専各校において、卒業生・同窓会等との結びつきを強化する様々な取組が行われた。 | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">委員別評定等</th> <th style="width: 90%;">評定説明 (コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した点が評価できる。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 同窓会(OBOG)への働きかけ、連携強化を推進<br/>◇ 「認知度向上」へのさらなる取組み</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 第三者評価の結果を活かしたり、修了生の声の発信の場を設けたり、現場の声を活かした評価を実施している。<br/>◇ OBOG 会の継続と発展</td> </tr> </tbody> </table> | 委員別評定等 | 評定説明 (コメント) | 3 |  | 3 |  | 3 |  | 3 | ◎ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した点が評価できる。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。 | 3 | ◎ 同窓会(OBOG)への働きかけ、連携強化を推進<br>◇ 「認知度向上」へのさらなる取組み | 3 |  | 2 | ◎ 第三者評価の結果を活かしたり、修了生の声の発信の場を設けたり、現場の声を活かした評価を実施している。<br>◇ OBOG 会の継続と発展 |
| 評価素案  | 評定説明   |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| (3)   | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。<br>・ 同窓会との包括連携協定の締結など、2大学1高専各校において、卒業生・同窓会等との結びつきを強化する様々な取組が行われた。 |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 委員別評定等  | 評定説明 (コメント)  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   | ◎ 広報の効果検証等により、2大学1高専のターゲットや効果的な広報の明確化を行い、一貫性のある広報を展開した点が評価できる。2大学1高専の強みや特色等を効果的に伝えるPR動画を製作するなど、認知度やブランド力向上に資する取組も行われた。   |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   | ◎ 同窓会(OBOG)への働きかけ、連携強化を推進<br>◇ 「認知度向上」へのさらなる取組み  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 2   | ◎ 第三者評価の結果を活かしたり、修了生の声の発信の場を設けたり、現場の声を活かした評価を実施している。<br>◇ OBOG 会の継続と発展   |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">参考意見 (案)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </tbody> </table>  | 参考意見 (案)   |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 参考意見 (案)  |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
|   |  |      |     |  |   |        |             |   |  |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |

| Ⅶ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 / 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 / 3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置 |   |      |      |   |
|--|---|------|------|---|
| 大項目 35<br>その他業務運営  | 小項目   | 主な取組 | 自己評価 |   |
|  |   |      | 年度   | 期間  |
|  |   |      | 4-24 | キャンパスグランドデザインに基づく取組の実施、計画的な施設整備・火災により損傷を受けた施設の復旧、日野キャンパスの新棟供用開始に向けた準備 |
| 4-25   | 学生及び教職員等に対する安全衛生教育・訓練の実施、「危険物に関する安全対策」に基づく事故再発防止の取組 | B    |      |   |
| 4-26   | 防災体制の強化、教職員に対する防災関係の取組、災害対応マニュアルの整備                 | A    |      |   |
| 4-27   | 省エネルギーの推進、気候危機をはじめとした SDGs への取組の推進                  | S    |      |   |
| 4-28   | ハラスメント防止の意識啓発の取組、ハラスメント発生時の適切な対応                    | B    |      |   |
| 4-29   | 有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組               | B    |      |   |
| 4-30   | 研究不正行為・研究費不正使用の防止、研究コンプライアンス研修の実施                   | B    |      |   |
| 4-31   | 更なる情報セキュリティ体制の強化、情報セキュリティ意識向上、今後を見据えた技術的セキュリティ強化策   | B    |      |   |

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| [大項目 35] 年度評価 |  |            |   |
|---------------|--|------------|---|
| 評価素案          |  | 委員別評定等     |   |
| 評定            | 評定説明   | 評定説明（コメント） |   |
| (3)           | ◎優れた点・特色ある点<br>・カーボンニュートラルの実現に向け、「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するなど、取組を進めるとともに、今後の推進体制を構築した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・教職員等が高い倫理観を備えるためにも、研究コンプライアンス研修やハラスメント防止研修等において、さらなる実効性のある取組を期待する。 | 3          |   |
|               |  | 3          |   |
|               |  | 2          | ◎ 法人及び2 大学 1 高専の教職員でカーボンニュートラル実行計画策定検討委員会を設置し、委員以外の教職員や学生からの意見も踏まえ、「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するなど、積極的に種々の取組を進めている。                                  |
|               |  | 2          | ◎ カーボンニュートラルの実現に向けて、カーボンニュートラル実行計画策定検討委員会を設置して議論を行うことに加えて、委員以外の2 大学1高専の教職員や学生からも意見を募集して、「東京都公立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」を作成し、今後の推進体制の構築を行った点が評価できる。 |
|               |  | 3          | ◎ カーボンニュートラルへの取組み強化(推進プラン策定、環境報告書など)<br>◎ コンプライアンス研修に教職員 100%参加<br>◎ 防災訓練参加者 9000 人超達成(令和元年以前と比較して参加者が 50%増)                                  |
|               |  | 3          | ◎ 温室効果ガス排出総量削減率は 28,96%であった。<br>◎ 研究活動に関わる研究者、大学院生及び学部生を対象に、e ラーニング等による研究倫理研修を行い、研究コンプライアンス研修では教員、職員とも 100%の受講率となった。                          |
| 3             | ◎ 全キャンパスによる防災訓練の実施で 9274 名の参加<br>◇ 高い倫理観を備えるための教職員コンプライアンス研修とハラスメント防止研修の実施は必須です。   |            |   |
| 参考意見（案）       |  |            |   |

【評定(期間評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。  
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

| 【大項目 35】 期間評価  |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
|--|--|--|----|------|-----|--|------|--|--|--|--|------|--|----|------------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|---|---|--|---|--|
| <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価素案</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td>                     ◎優れた点・特色ある点<br/>                     ・ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。<br/><br/>                     ◇更なる充実が期待される点<br/>                     ・ これまでに生じた事故・事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、事件・事故を防止するための様々な取組を強化してきたところだが、取組の定期点検や風化防止など、さらなる取組の充実を期待したい。                 </td> </tr> </tbody> </table><br><table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">参考意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 評価素案   |  | 評定 | 評定説明 | (3) | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ これまでに生じた事故・事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、事件・事故を防止するための様々な取組を強化してきたところだが、取組の定期点検や風化防止など、さらなる取組の充実を期待したい。 | 参考意見 |  |  |  | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">委員評定</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 事故・事件の発生をゼロにすることは難しいが、事後的に経験を通じてその発生確率を限りなくゼロに近くすることは可能であり、そうした取り組みが行われていると捉えている。しかし時間が経つとそれが風化しかねないので、そうならない仕組みを期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ これまでに生じた事故や事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、様々な取組を強化してきた。今後も新たな事故や事件が起きぬように、さらなる充実を期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 危機管理マニュアルの定期的な見直し、火災事故を踏まえた消防計画の改正などにより、危機管理の体制の充実を図った点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ カーボンニュートラルへの取組み強化<br/>◇ 防災、安全への取組みの定期点検と風化防止</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 過去に発生した情報セキュリティ事故を踏まえ、事故防止を強化するための取組を進めた。<br/>◎ 令和3年(2021)年度 12月の火災事故を踏まえ、消防計画を改正することで、火災が発生した場合における体制を整備した。<br/>◎ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 長期な計画的な施設整備への対応の実施と教育研究環境整備に向けた通信機器の拡充</td> </tr> </tbody> </table> | 委員評定 |  | 評定 | 評定説明（コメント） | 3 | ◇ 事故・事件の発生をゼロにすることは難しいが、事後的に経験を通じてその発生確率を限りなくゼロに近くすることは可能であり、そうした取り組みが行われていると捉えている。しかし時間が経つとそれが風化しかねないので、そうならない仕組みを期待したい。 | 3 |  | 3 | ◇ これまでに生じた事故や事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、様々な取組を強化してきた。今後も新たな事故や事件が起きぬように、さらなる充実を期待したい。 | 3 | ◎ 危機管理マニュアルの定期的な見直し、火災事故を踏まえた消防計画の改正などにより、危機管理の体制の充実を図った点が評価できる。 | 3 | ◎ カーボンニュートラルへの取組み強化<br>◇ 防災、安全への取組みの定期点検と風化防止 | 3 | ◎ 過去に発生した情報セキュリティ事故を踏まえ、事故防止を強化するための取組を進めた。<br>◎ 令和3年(2021)年度 12月の火災事故を踏まえ、消防計画を改正することで、火災が発生した場合における体制を整備した。<br>◎ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。 | 2 | ◎ 長期な計画的な施設整備への対応の実施と教育研究環境整備に向けた通信機器の拡充 |
| 評価素案   |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 評定   | 評定説明   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| (3)  | ◎優れた点・特色ある点<br>・ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。<br><br>◇更なる充実が期待される点<br>・ これまでに生じた事故・事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、事件・事故を防止するための様々な取組を強化してきたところだが、取組の定期点検や風化防止など、さらなる取組の充実を期待したい。 |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 参考意見   |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
|  |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 委員評定   |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 評定   | 評定説明（コメント）   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  | ◇ 事故・事件の発生をゼロにすることは難しいが、事後的に経験を通じてその発生確率を限りなくゼロに近くすることは可能であり、そうした取り組みが行われていると捉えている。しかし時間が経つとそれが風化しかねないので、そうならない仕組みを期待したい。  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  |  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  | ◇ これまでに生じた事故や事件を受けて、危険物に関する安全対策、研究活動における不正防止、情報セキュリティ意識の向上など、様々な取組を強化してきた。今後も新たな事故や事件が起きぬように、さらなる充実を期待したい。   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  | ◎ 危機管理マニュアルの定期的な見直し、火災事故を踏まえた消防計画の改正などにより、危機管理の体制の充実を図った点が評価できる。   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  | ◎ カーボンニュートラルへの取組み強化<br>◇ 防災、安全への取組みの定期点検と風化防止  |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 3  | ◎ 過去に発生した情報セキュリティ事故を踏まえ、事故防止を強化するための取組を進めた。<br>◎ 令和3年(2021)年度 12月の火災事故を踏まえ、消防計画を改正することで、火災が発生した場合における体制を整備した。<br>◎ 教職員や学生からの意見を踏まえ、国公立大学で初となる気候非常事態宣言を発出し、法人として今後中長期的に進むべき方向性を定めた「カーボンニュートラル推進プラン」を策定するとともに、「環境報告書 2022」を公表した。   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |
| 2  | ◎ 長期な計画的な施設整備への対応の実施と教育研究環境整備に向けた通信機器の拡充   |  |    |      |     |  |      |  |  |  |  |      |  |    |            |   |   |   |  |   |  |   |  |   |   |   |  |   |  |